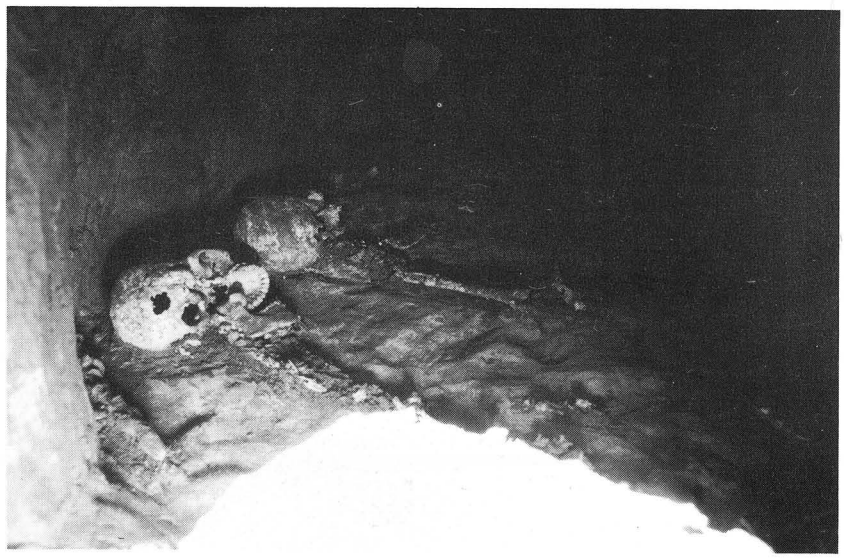
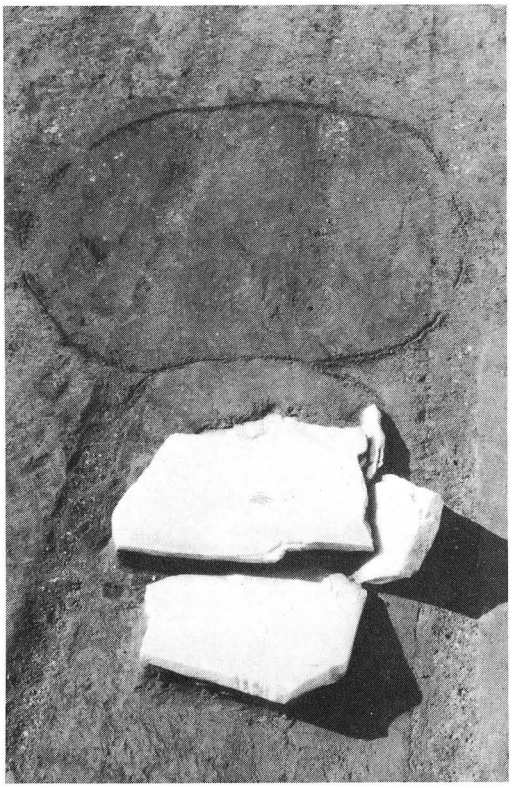
ＳＴ-13
羨道部の
シラス塊
(北西から)

ＳＴ-13
閉塞石除去
(北西から)

ＳＴ-13
玄室内



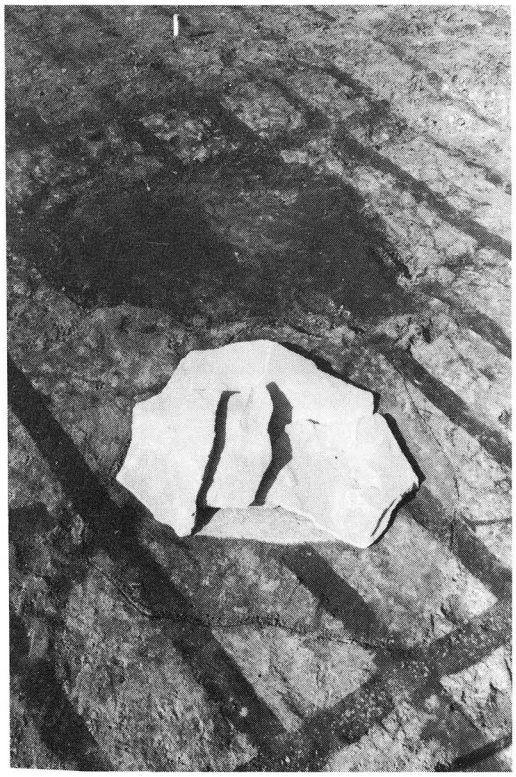
図版26



ＳＴ-14 遺構検出状態（南から）

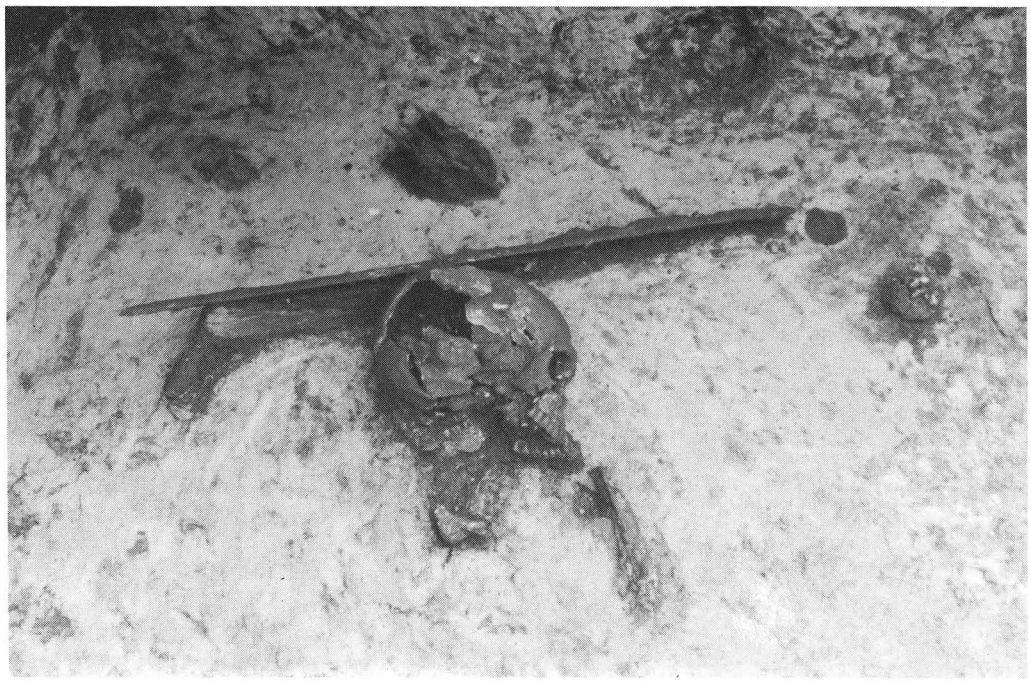
ＳＴ-14 完掘（南から）

ＳＴ-14
玄室内遺物出土状態
（西から）



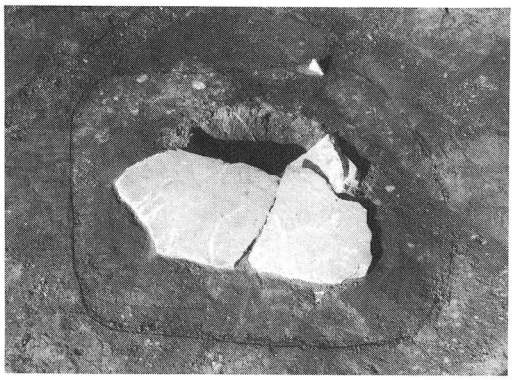
ＳＴ-15 遺構検出状態（南西から）

ＳＴ-15 完掘（南西から）

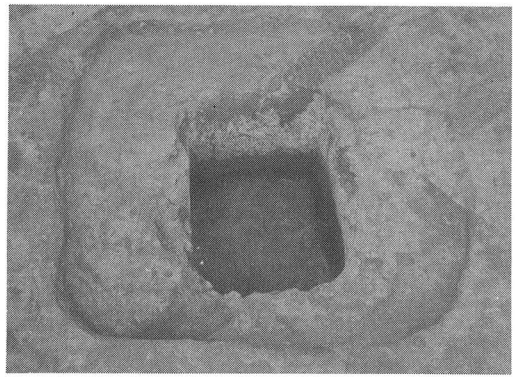


ＳＴ-15 玄室内

図版28



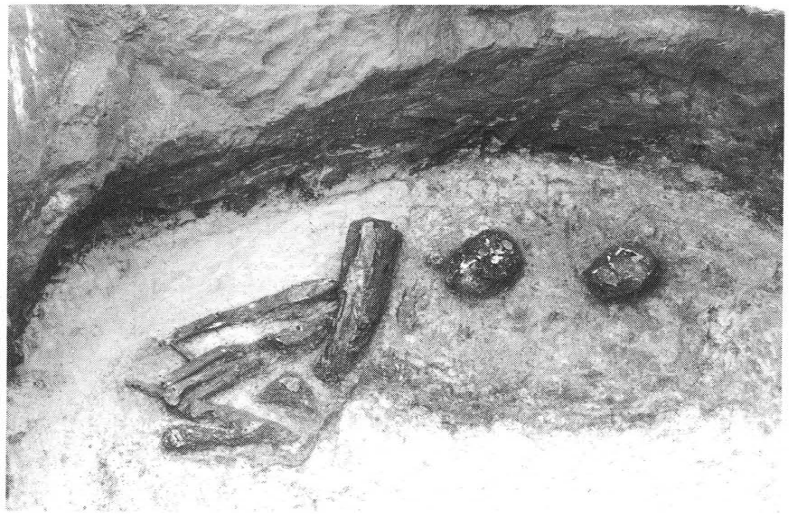
ＳＴ-16 竪坑検出状態（南から）



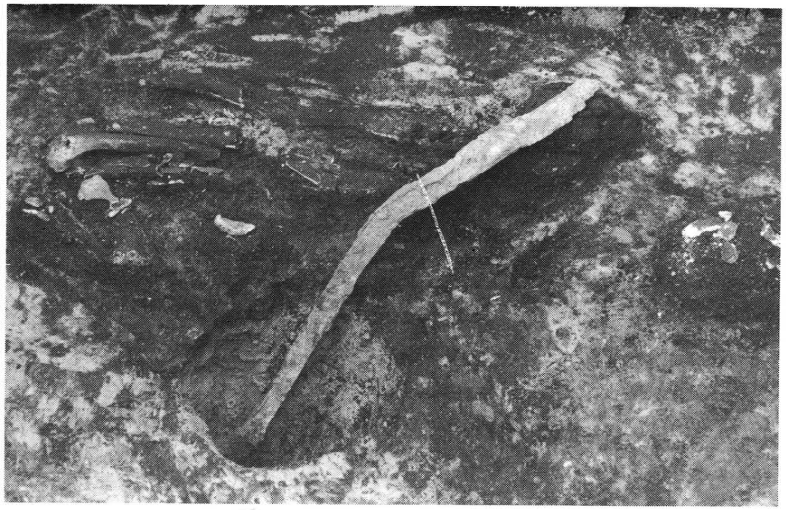
ＳＴ-16 閉塞石除去、完掘（南から）

ＳＴ-16
玄室内
奥壁～右側壁

ＳＴ-16
玄室内
右側壁



ＳＴ-17
玄室内



ＳＴ-17
鉄刀刺突状態

ＳＴ-17 完掘（西から）

図版29

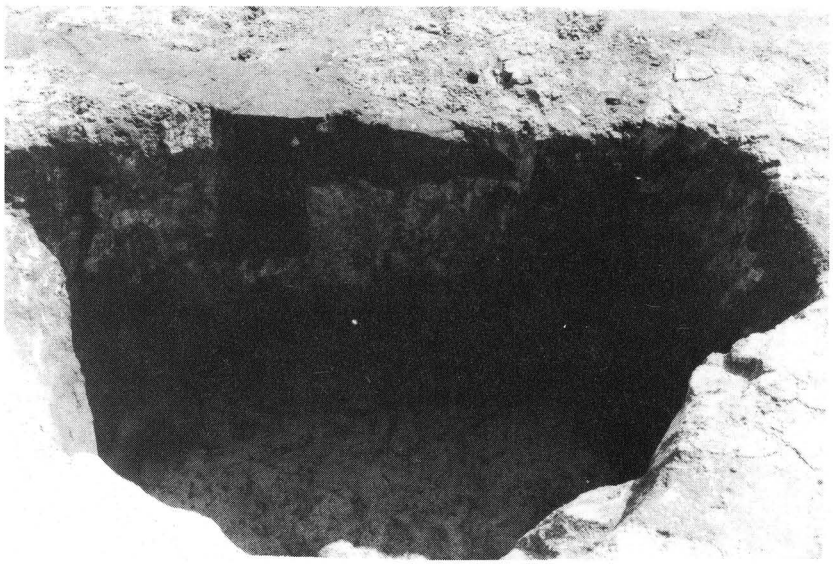
図版30

ＳＴ-19
竪坑上部閉塞石
およびコンクリ
ート塊
（南から）

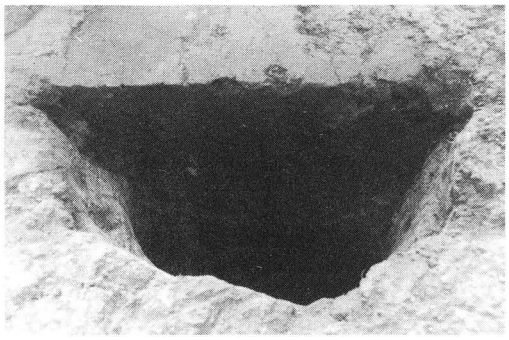
ＳＴ-19
完掘（東から）

ＳＴ-19
玄室内遺物
（南から）

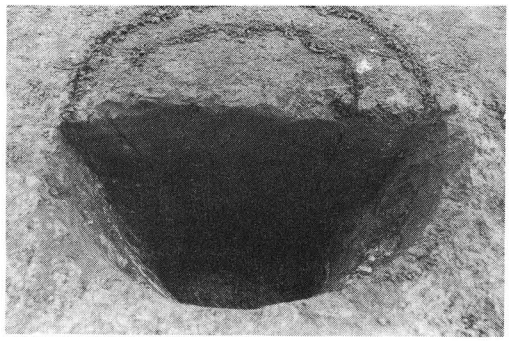
ＳＴ-18
完掘全景
（南西から）



ＳＫ-01
完掘全景

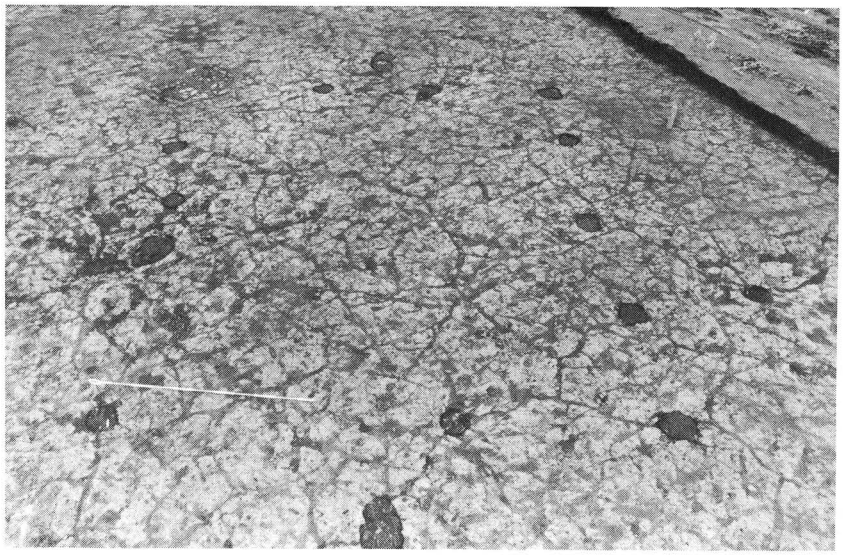


ＰＰ-01 半截

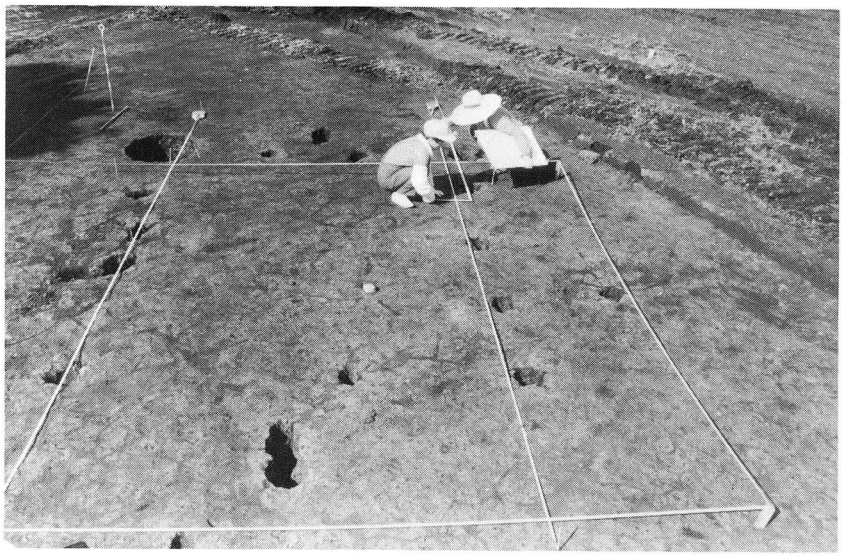


ＰＰ-02 半截

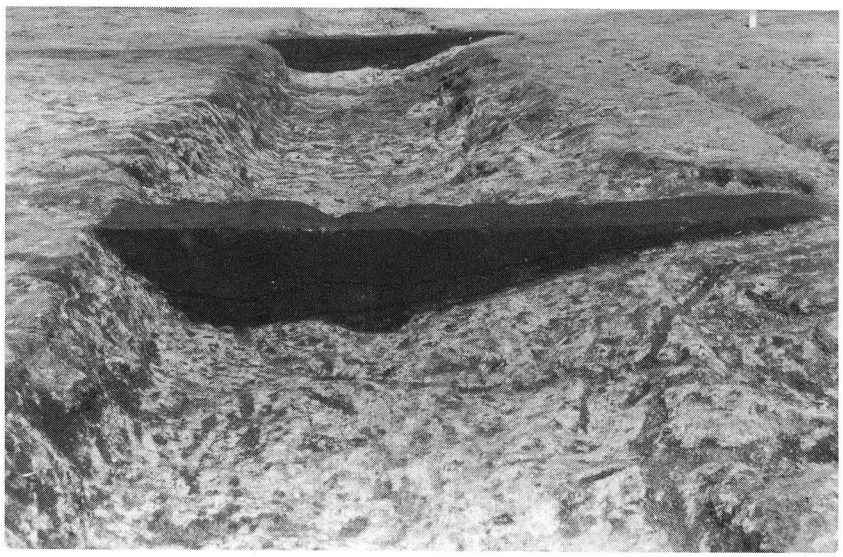
図版32



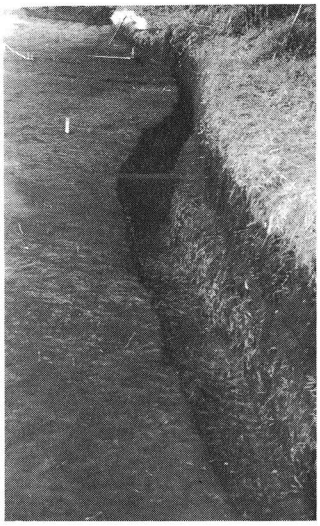
ＳＢ-01
遺構検出状態
（東から）



ＳＢ-01
完掘、遺構実測
（東から）



ＳＤ-04
全景、層序
（南から）



ＳＤ-05 全景

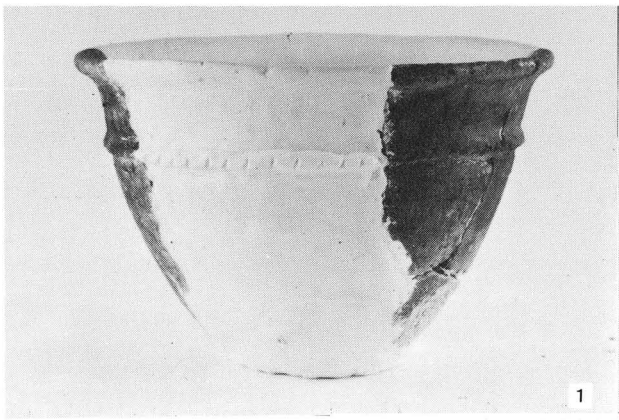
ＳＤ-05 層序

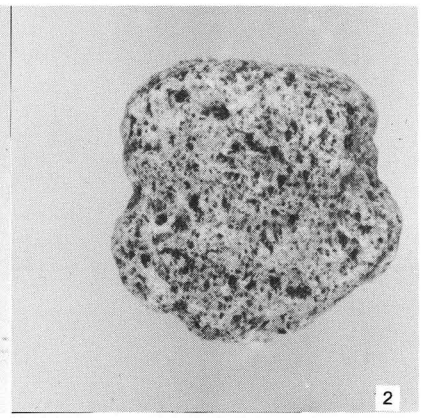
Ｂ群
遺物出土状態

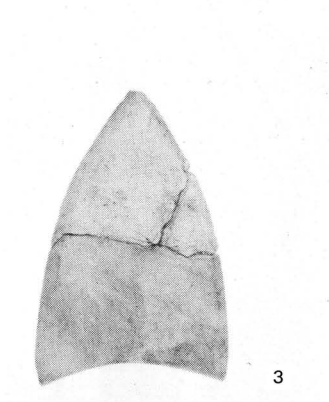
Ｃ群
遺物出土状態

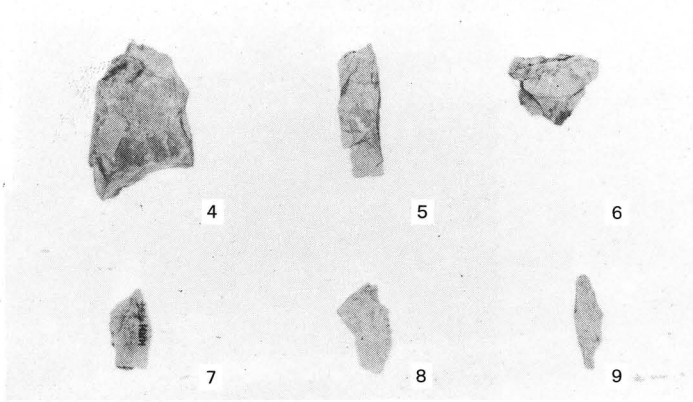
図版34

E群
遺物出土状態

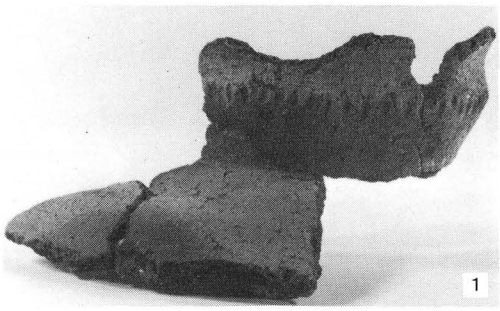


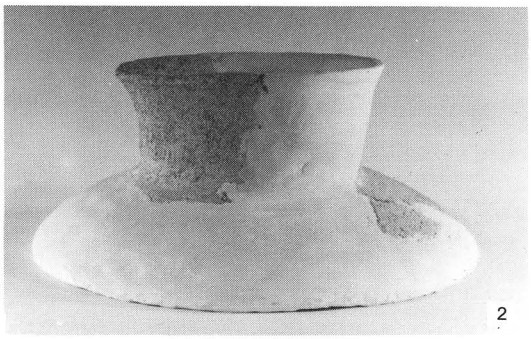


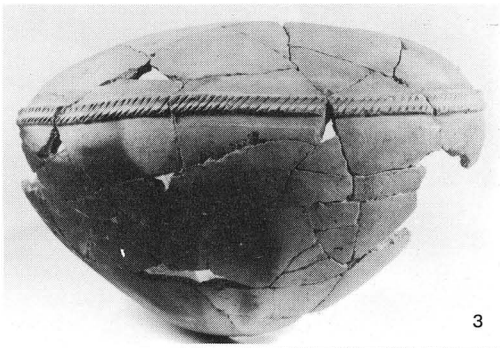


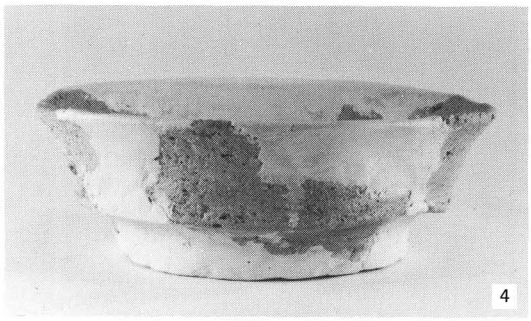


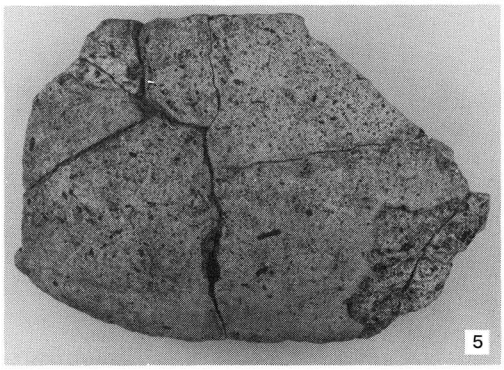
SA-01 出土遺物

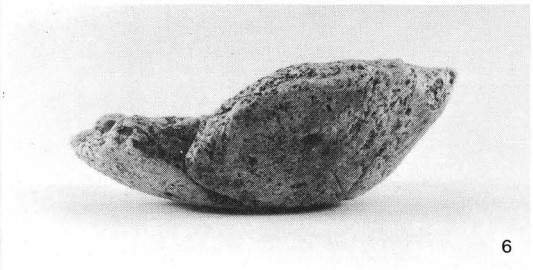


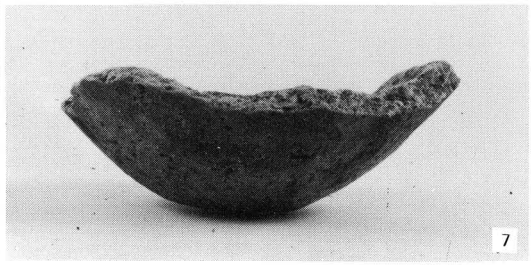


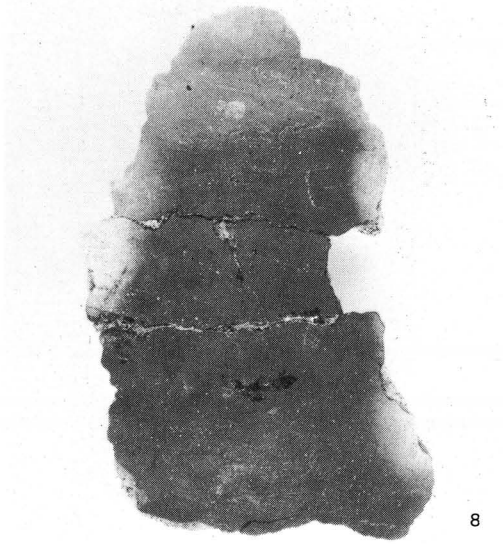


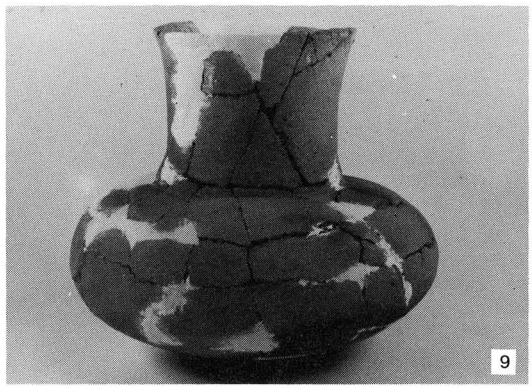






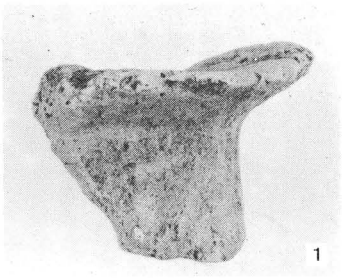


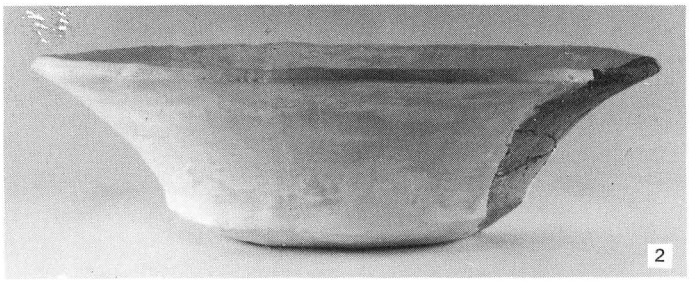


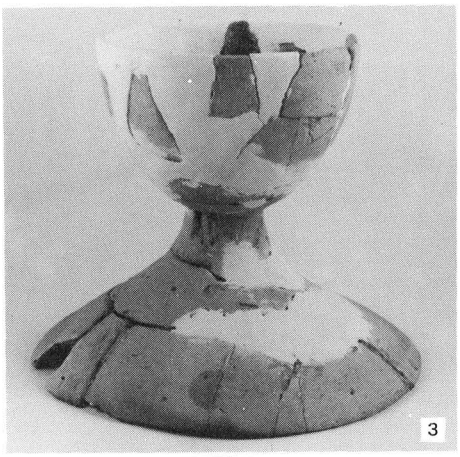


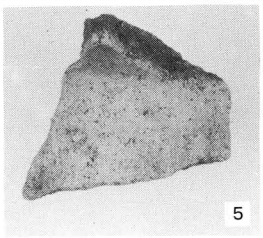
A群　出土遺物（その１）

図版36

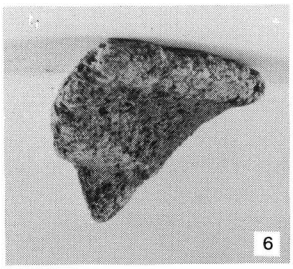


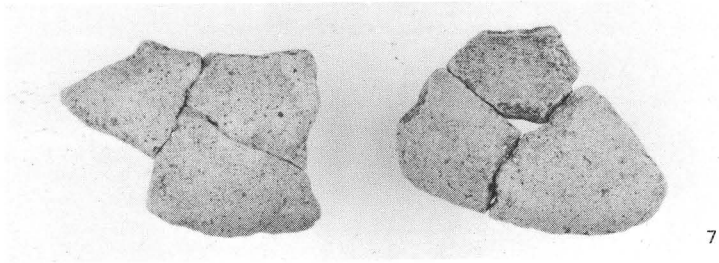




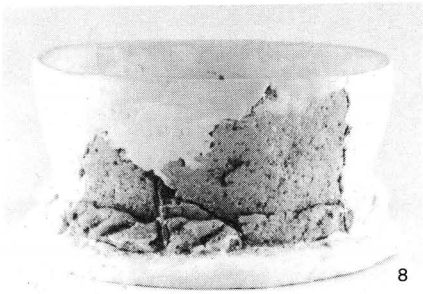


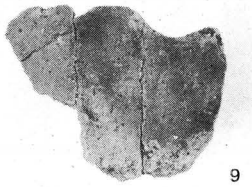
A群　出土遺物（その２）



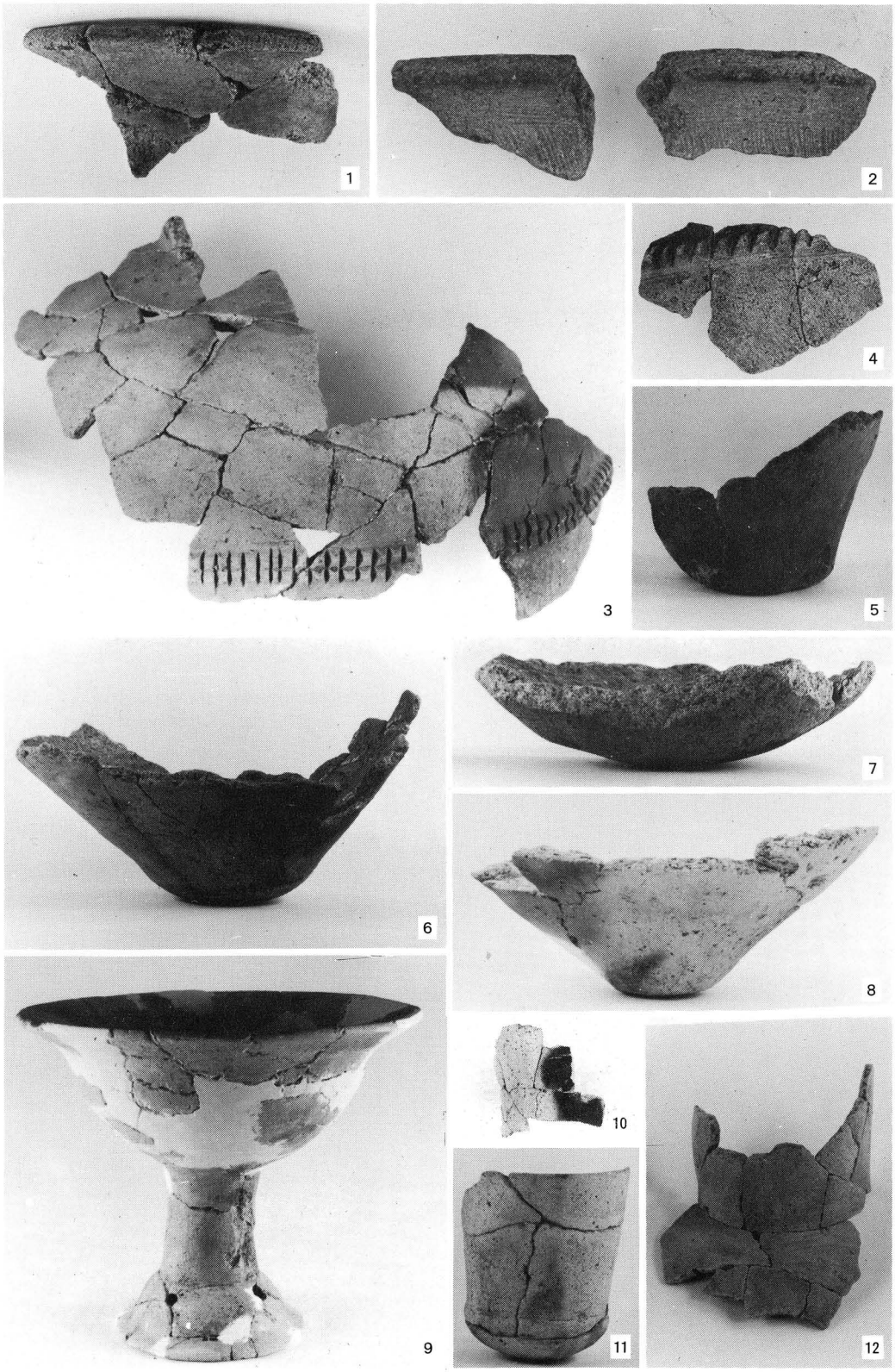


B群　出土遺物



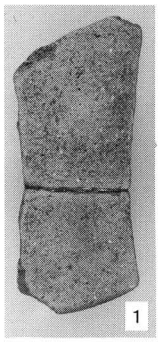


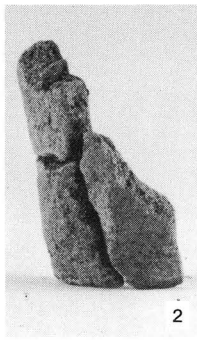
C群　出土遺物（その１）



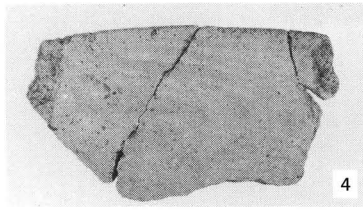
C群　出土遺物（その２）

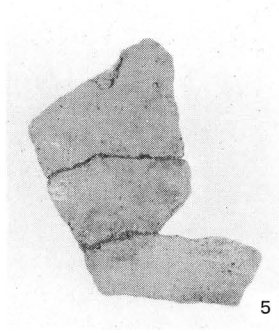
図版38



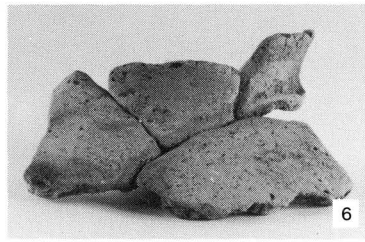


E群　出土遺物

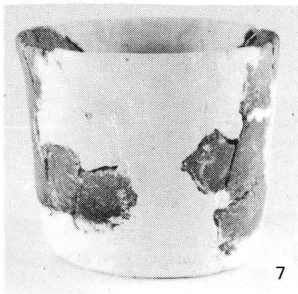


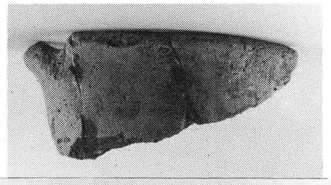


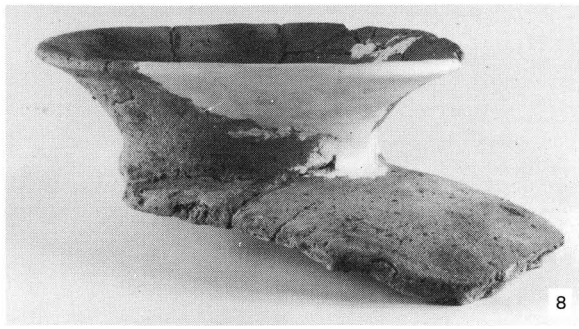
F群　出土遺物

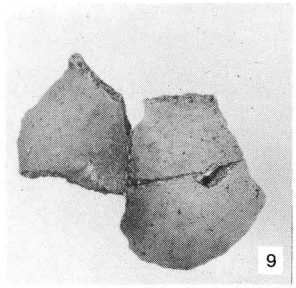


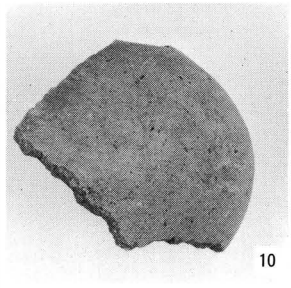
G群　出土遺物

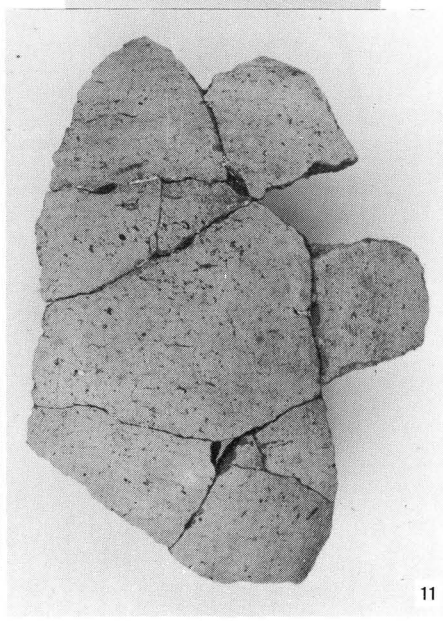






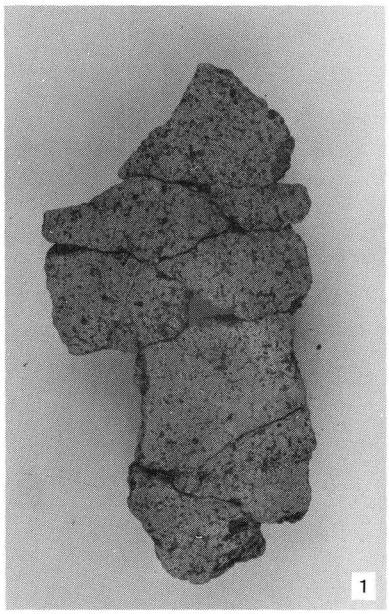


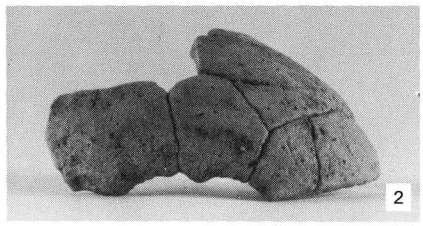


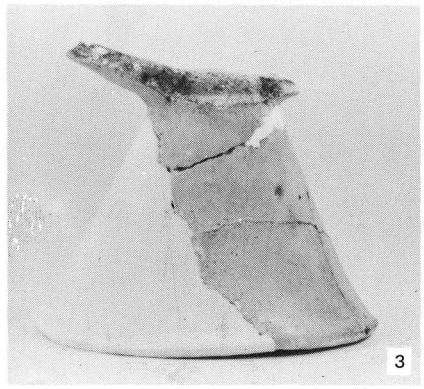


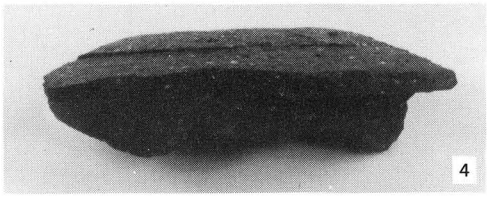
ＳＴ-02 竪坑内および周辺出土遺物

ＳＴ-13
封土内出土遺物

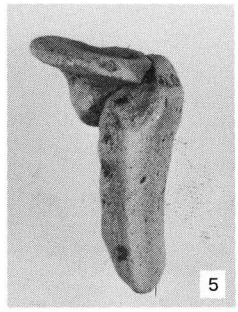


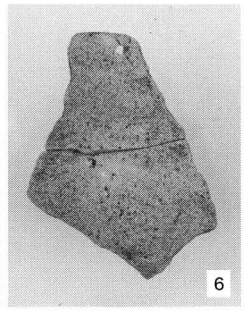




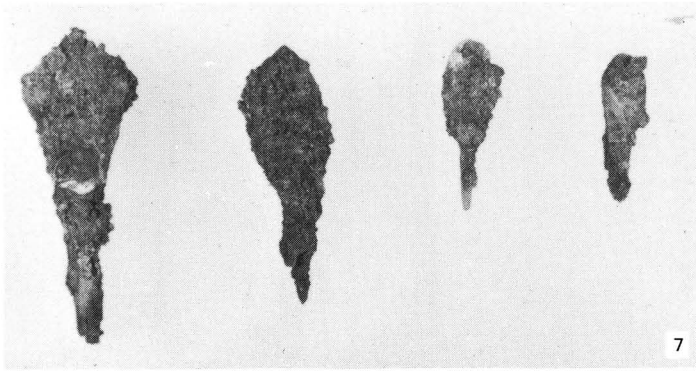


ＳＴ-17　玄室崩落土内出土遺物

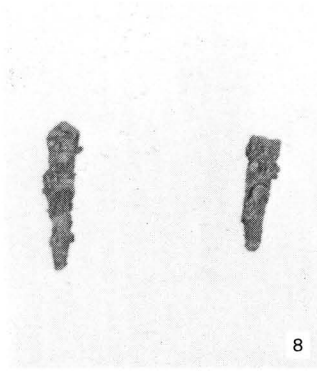




発掘坑　排土内出土遺物



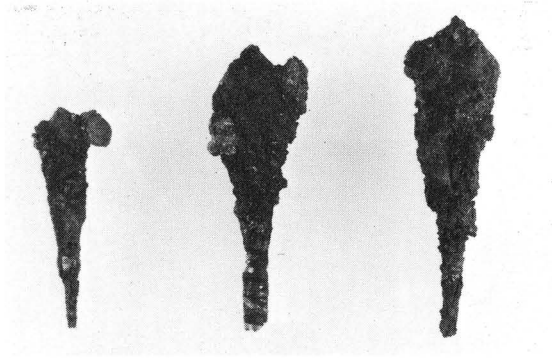
ＳＩ-02　出土遺物



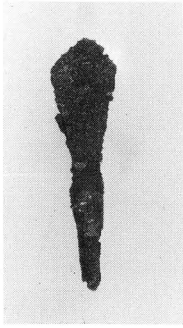
ＳＩ-04　出土遺物

図版40

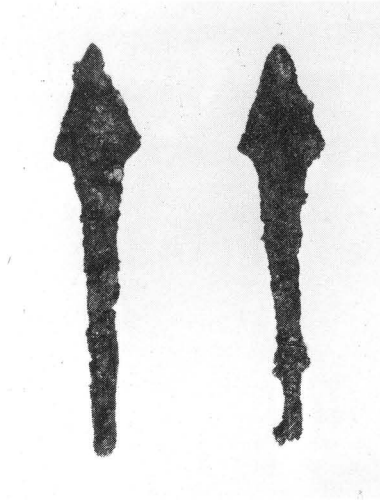
ＳＴ-01　出土遺物



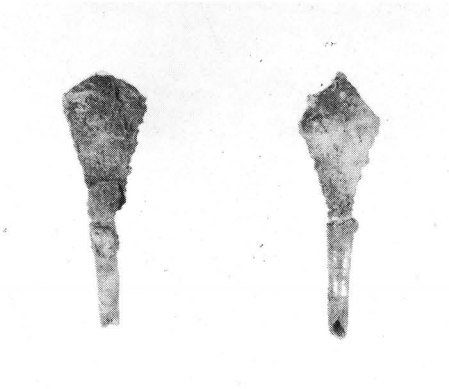
ＳＴ-03　出土遺物



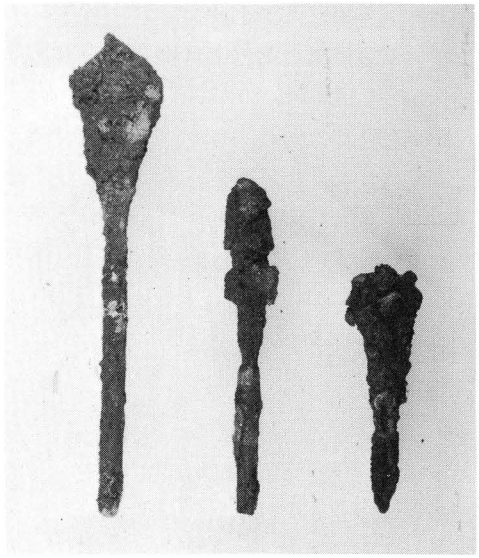
ＳＴ-05　出土遺物



ＳＴ-06　出土遺物

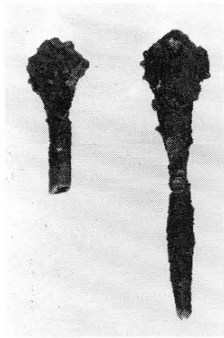


ＳＴ-07　出土遺物



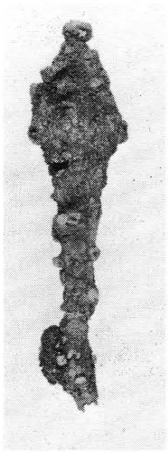
ＳＴ-08　出土遺物　　１：３

ＳＴ-10　出土遺物



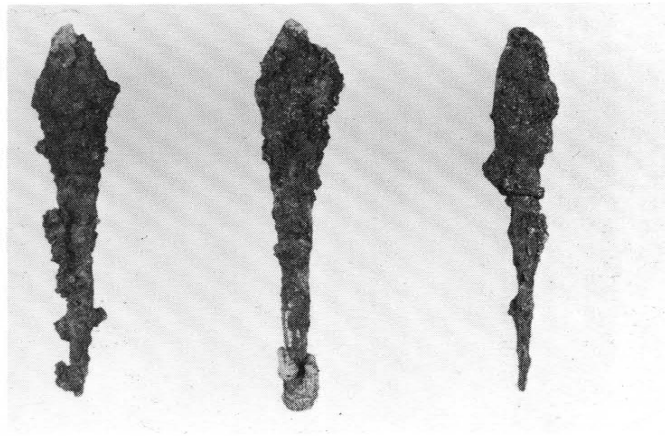
ＳＴ-11　出土遺物

ＳＴ-16　出土遺物



ＳＴ-14

ＳＴ-15　出土遺物

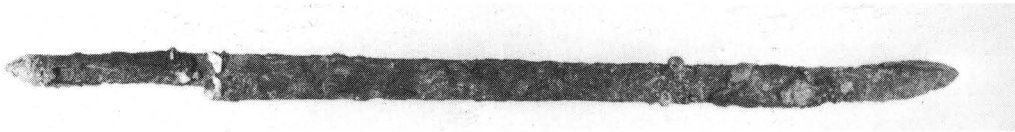


ＳＴ-17　出土遺物

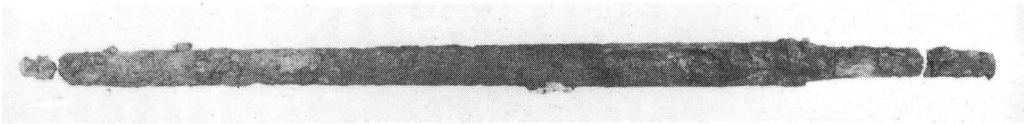
1：3

図版41

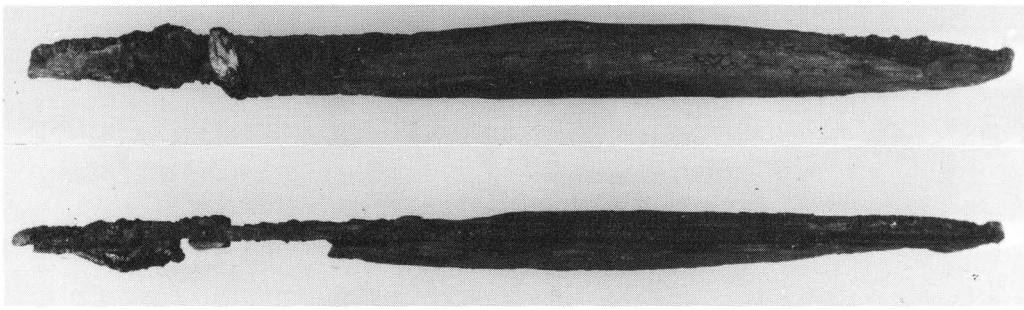
図版42



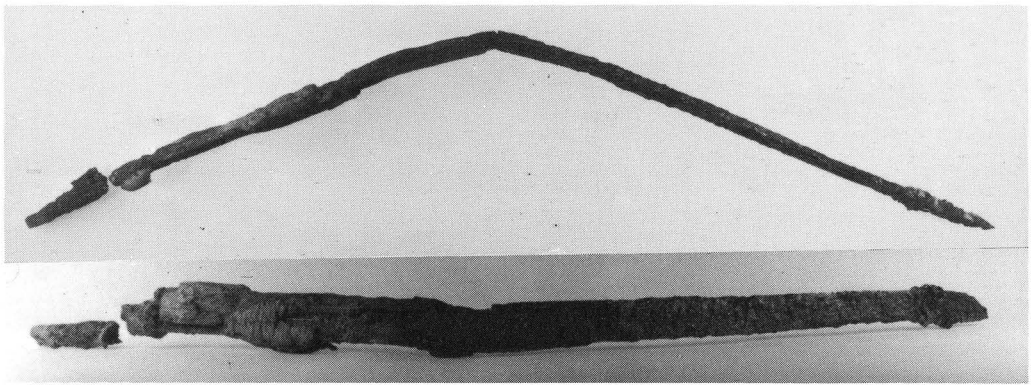
ＳＴ-06出土　大刀



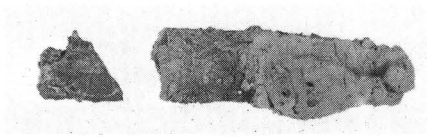
ＳＴ-15出土　剣



ＳＴ-16出土　小刀



ＳＴ-17出土　大刀



ＳＴ出土　剣先

ＳＴ-13出土　剣

ＳＴ-03出土

ＳＴ-11出土　剣

縮尺不同

宮崎県えびの市広畑遺跡出土の古墳時代人骨

佐伯和信・松下孝幸・折原義行・小山田常一

宮崎県えびの市広畑遺跡出土の古墳時代人骨

佐伯和信*・松下孝幸*・折原義行*・小山田常一**

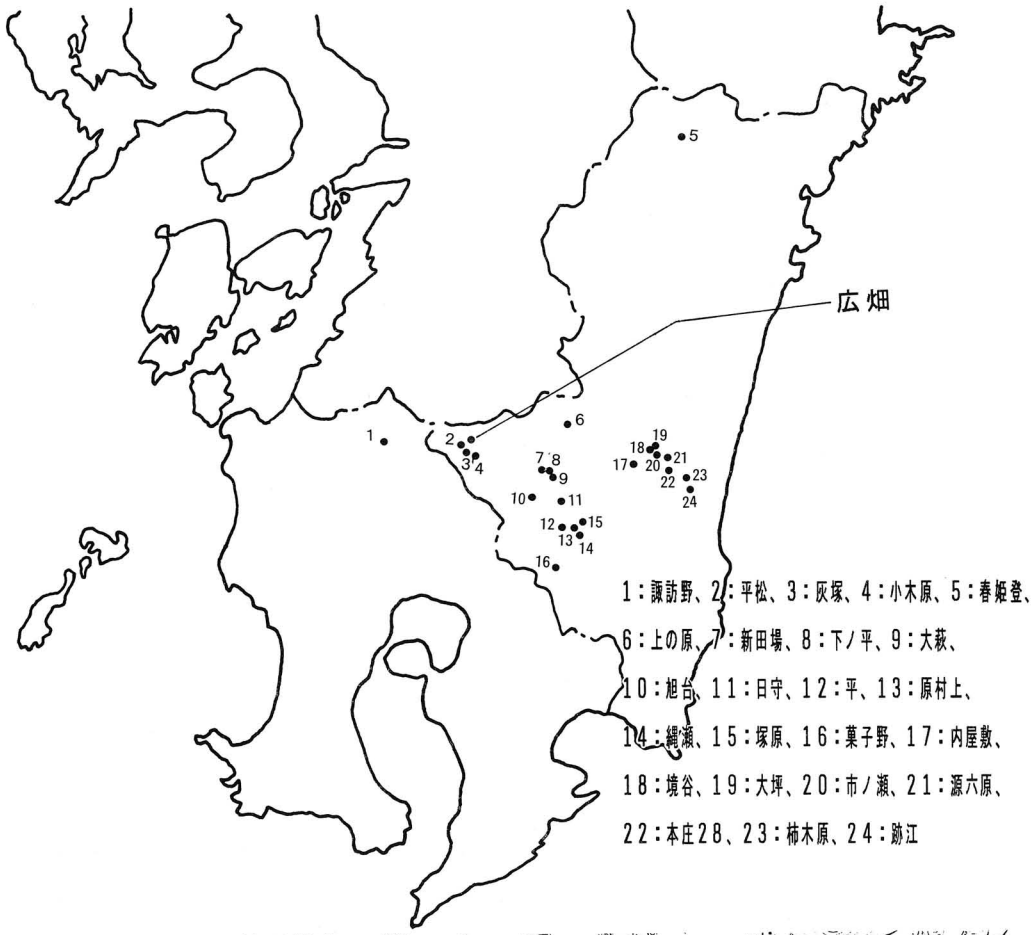
【キーワード】：宮崎県えびの市、古墳時代人骨、地下式横穴墓、中頭型、低・広顔、低身長、変異

はじめに

宮崎県えびの市大字坂元に所在する広畑遺跡の発掘調査が市道坂元苧畑線の拡幅工事などの道路整備事業に伴なって、1989年(平成元年)に行われた。その結果、弥生時代の住居跡、19基の地下式横穴墓、5基の地下式板石積石室墓などが検出され、16基の地下式横穴墓から合計26体の人骨が発掘された。これらの人骨のうち頭蓋の保存状態は良好で、えびの市の古墳時代人骨の出土例を追加するとともに、広畑古墳人の特徴を明らかにすることができた。

長崎大学医学部解剖学第二教室では西日本各地から古人骨を収集し、その人類学的研究を続けている。九州では古代において「熊襲」や「隼人」と呼称されていた人々の形質人類学的研究の視点から、南九州地域の古墳時代人骨に注目し、宮崎県を中心に古墳時代人骨の収集とその研究を続けてきており、次第に南九州地域の古墳人の形質が明らかになってきている。松下(1990b)は南九州から出土した古墳時代人骨を詳細に研究し、この地域の古墳人を「南九州山間部タイプ」、「宮崎平野部Ⅰタイプ」、「宮崎平野部Ⅱタイプ」に整理した。「南九州山間部タイプ」の古墳人は宮崎県、鹿児島県の山間部から出土し、低・広顔、低身長で、縄文人的特徴を強く残した古墳人である。「宮崎平野部Ⅰタイプ」は宮崎平野から出土し、短頭性が強く、高顔、高身長で、顔面の形態と身長値は北部九州弥生人に近い古墳人である。そして、「宮崎平野部Ⅱタイプ」は「宮崎平野部Ⅰタイプ」同様宮崎平野から出土し、高顔、高身長ではあるが、頭型が中頭で、眼窩や鼻部の高径が低い古墳人である。

えびの市は地理的には山間部に位置しており、過去に調査した灰塚(内藤、1973)、平松、小木原の各地下式横穴墓から出土した古墳人はいずれも「南九州山間部タイプ」の古墳人であったが、研究に活用できた人骨の体数は多くはな



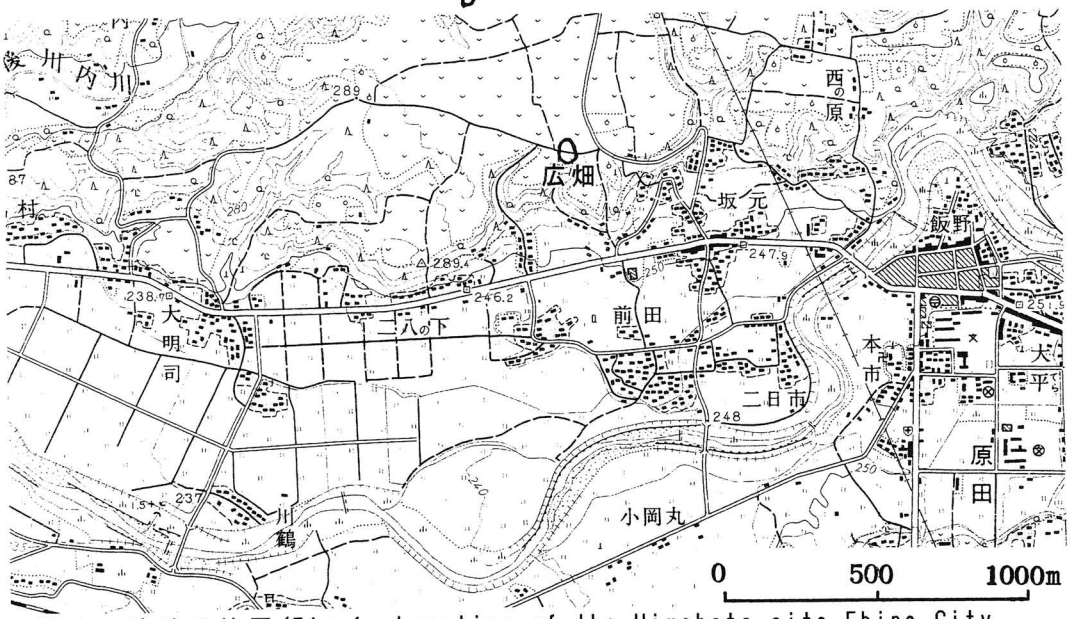


図１．遺跡の位置(Fig.1. Location of the Hirohata site, Ebino City, Miyazaki Prefecture)

い。

えびの市は地理的には確かに山間部にあるが、地形的にはかなり広い盆地であり、また、熊本県および鹿児島県と接し、古墳時代の埋葬遺構にも地下式板石積石室と地下式横穴墓が併存する地域である。このような地域の古墳人の形質が単純なものであるかどうかという点も明らかにしておく必要があろう。

今回、広畑遺跡から比較的保存状態の良好な古墳時代人骨が相当量出土し、資料が増加したことによって、本市での特徴がさらに明確になった。また、本資料は南九州全体の人類学的研究を進めていくうえでも貴重な資料である。

出土人骨の人類学的観察や計測を行ない、本古墳時代人骨の特徴を明らかにすることができたので、その結果を報告する。

なお、成年骨と小児骨に関しては、別稿で分部が詳述しているので、本稿では成人骨についてのみ報告する。

資　料

人骨はすべて地下式横穴墓から出土した。出土体数は表１のとおり合計26体で、そのうち２体が成年･小児骨である。成人骨24体のうち男性骨は15体、女性骨は7体であるが、２体は保存状態が悪く、性別を判別することができなかった。表１　資料数　(Table 1. Number of materials)

	成人			成年・小児	合計
	男性	女性	不明		
ST-01号墳	2				2
ST-02号墳		2			2
ST-04号墳		1			1
ST-05号墳	2				2
ST-06号墳	1				1
ST-07号墳			1		1
ST-08号墳	2				2
ST-09号墳	1		1		2
ST-10号墳	1				1
ST-11号墳	1	2			3
ST-12号墳				1	1
ST-13号墳	1	1			2

ST-15号墳	1				1
ST-16号墳	1			1	2
ST-17号墳	1	1			2
ST-19号墳	1				1
合　計	15	7	2	2	26

また、各人骨の性別、年令などは表2に示したとおりである。

なお、この人骨群の所属時期は、別稿の考古学的所見により、5世紀中頃と推定されている。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、一部はHowells(1973)の方法で計測を行った。また、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木(1963)と松下(1983d)の方法で、歯は藤田(1949)の方法で小山田が計測し、齲歯の観察も小山田が行なった。

表2　出土人骨一覧　(Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年令	備　　考
ST-01-1	男性	不明	
ST-01-2	男性	不明	頭蓋残存せず
ST-02-1	女性	壮年	顔面赤色顔料、上顎骨骨増殖
ST-02-2	女性	熟年	顔面赤色顔料
ST-04	女性	壮年	顔面赤色顔料
ST-05-1	男性	熟年	顔面赤色顔料
ST-05-2	男性	壮年	
ST-06	男性	熟年	顔面赤色顔料、上顎骨骨増殖
ST-07	不明	熟年	脳頭蓋赤色顔料
ST-08-1	男性	壮年	
ST-08-2	男性	壮～熟年	
ST-09-1	男性	熟年	
ST-09-2	不明	熟年	外耳道骨腫
ST-10	男性	不明	
ST-11-1	男性	熟年	顔面赤色顔料
ST-11-2	女性	壮年	
ST-11-3	女性	壮年	
ST-12	女性	成年	

ST-13-1	女性	熟年	
ST-13-2	男性	熟年	顔面赤色顔料、外耳道骨腫
ST-15	男性	壮年	顔面赤色顔料
ST-16-1	—	小児	顔面赤色顔料
ST-16-2	男性	熟年	顔面赤色顔料、外耳道骨腫、頚椎癒合
ST-17-1	男性	壮年	
ST-17-2	女性	熟年	
ST-19	男性	不明	頭蓋残存せず

今回比較資料として用いたのは、主に同じえびの市の灰塚、平松(松下、1990b)、小木原(松下、1990b)の各地下式横穴墓から出土した古墳人、「南九州山間部タイプ」古墳人、「宮崎平野部Ⅰタイプ」古墳人、「宮崎平野部Ⅱタイプ」古墳人である。

所　見

広畑古墳人群の中には他の人骨と異なる特徴をもつ個体が存在するので、各頭蓋について記載しておきたい。なお、各骨の計測値、平均値および標準偏差は文末に一括して掲げた(表14－表39)。

A．頭蓋

ST-01-1号人骨　(男性、年令不明)

右側頭部から後頭部にかけて残存している。計測はできない。乳様突起はあまり大きくない。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。縫合はラムダ縫合の右側部が観察できたが、外板は開離しており、内板も一部が開離していたようである。

性別は、四肢骨の大きさと形態的特徴から男性と推定した。年令は不明である。

ST-02-1号人骨　(女性、壮年)

1．脳頭蓋

右側半が残存していた。径は小さく、前頭部は膨隆している。乳様突起はやや長い。右側外耳道の観察できたが、骨腫は存在しない。縫合は冠状縫合の右側、矢状縫合の前部、ラムダ縫合の右側が観察できたが、冠状縫合の内板の一部が癒合している以外はすべて開離している。

頭蓋の三主径は計測できなかったが、頭蓋最大幅だけは右側半を2倍するこ

とにより推定値を算出できた。その推定値は〔132mm〕で、値は小さい。また、頭蓋最大長も計測できないが、観察したところでは長さは短いようで、頭型はやや短頭に傾いていたものと考えられる。

2．顔面頭蓋

顔面部は左側の頬骨から前頭骨頬骨突起にかけて欠損しているが、それ以外の保存状態はよい。眉上弓はほとんど隆起しておらず、鼻根部は狭く、陥凹は認められないが、鼻骨の隆起は強い。

計測値は、上顔高が61mmで、高径は小さい。頬骨弓幅と中顔幅は計測できないが、右側半からの推定値は、頬骨弓幅が〔124mm〕、中顔幅が〔88mm〕となり、これから示数値を算出すると、上顔示数が〔49.19〕(K)、〔69.32〕(V)となり、強い低・広上顔の傾向が認められる。

眼窩は、眼窩幅が42mm(右)、眼窩高が33mm(右、左)で、眼窩示数は78.57(右)となり、mesokonch(中眼窩)に属している。鼻部は、鼻幅が23mm、鼻高が45mmで、鼻示数は51.11となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が15mm、鼻根横弧長が20mmで、鼻根彎曲示数は75.00で、鼻骨はかなり強く隆起している。また、鼻根角は149度、鼻根陥凹示数は12.90である。

側面角は全側面角が77度、鼻側面角が79度、歯槽側面角が72度で、歯槽性突顎の傾向は弱い。

下顎骨は右側の下顎枝のみ残存していた。下顎頭は小さく、下顎切痕は浅い。

3．歯

上顎歯は釘植した状態で、下顎歯は遊離した状態で残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／ $M_2M_1P_2P_1C\ I_2I_1$	$I_1I_2C\ P_1P_2M_1$○ ／
／／／ $P_2P_1C\ I_2I_1$	／／／／／／／／

〔／：不明(破損)
○：歯槽開存
●：歯槽閉鎖
以下同じ〕

咬耗度はBrocaの１～２度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。歯の咬合形式は不明である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が大きいことや前頭部が膨隆し、眉上弓の隆起が認められないことから、女性と推定した。年令は観察できた縫合の大部分が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-02-２号人骨　（女性、熟年）

１．脳頭蓋

前頭骨、頭頂骨前部および右側頭骨前部が残存している。頭頂部の骨壁は厚く、外耳道は右側の観察が可能であったが、骨腫は認められない。縫合は冠状縫合、矢状縫合とも内板はすべて癒合しており、外板はまだ開離している部分が多い。

脳頭蓋の三主径のいずれも計測ができず、また、観察による頭型の推測も不可能である。

２．顔面頭蓋

左側の頬骨弓と下顎骨が欠損しているが、それ以外はほぼ完全である。眉上弓の隆起は弱く、鼻根部の陥凹も弱いが、鼻骨は隆起している。

計測値は、中顔幅が105mm、上顔高が62mmで、左側半から算出した頬骨弓幅が〔132mm〕である。したがって、上顔示数は〔46.97〕(K)、59.05(V)となり、著しく低上顔の傾向が強い。

眼窩幅は41mm(右)、42mm(左)、眼窩高は34mm(右)、34mm(左)で、眼窩示数は82.97(右)、80.95(左)となり、両側ともmesokonch(中眼窩)に属している。また、鼻幅は27mm、鼻高は48mmで、鼻示数は56.25となり、chamaerrhin(低鼻)に属している。

鼻根部の計測値は前眼窩間幅が18mm、鼻根横弧長が22mmで、鼻根彎曲示数は81.82となり、鼻骨がやや隆起していることがわかる。鼻根角は145度、鼻根陥凹示数は14.71である。前頭突起水平傾斜角は計測できなかったが、観察したところではどちらかといえば矢状方向である。

側面角は全側面角が84度、鼻側面角が86度、歯槽側面角が80度で、歯槽性の突顎は認められない。

３．歯

上顎に歯が釘植していた。残存歯は次のとおりである。

／　●　M_1　P_2●　●　●　●　|　○　●　C　P_1●　●　M_2／

咬耗度は Brocaの１～２度である。右側の切歯群と犬歯および左側の側切歯が入る歯槽が閉鎖しているが、歯槽の状態があまり健康とはいいがたいので、これが風習的抜歯の痕跡かどうか判断しがたい。

４．性別・年令

性別は、恥骨下角が大きいことや眉上弓の隆起が弱いことから女性と推定し

た。年令は、観察できた縫合での内板がすべて癒合していることから、熟年と考えられる。

ST-04号人骨　(女性、壮年)

1．脳頭蓋

右側半が完全に残存していた。乳様突起および外後頭隆起の発達は悪く、前頭結節はよく発達している。外耳道は右側が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は冠状縫合とラムダ縫合が観察できたが、冠状縫合の内板の一部に癒合が認められる以外はすべて内外両板とも開離している。

計測値は頭蓋最大長が168mm、バジオン・ブレグマ高が129mmである。頭蓋最大幅は計測できないが、右側半から推定値を算出すると〔134mm〕である。頭蓋長幅示数は〔79.76〕、頭蓋長高示数は76.79、頭蓋幅高示数は〔96.27〕となり、頭型は meso-、hypsi-、metriokran(中、高、中頭)に属する。

2．顔面頭蓋

脳頭蓋同様、右側半が残存していた。眉上弓の隆起は弱いが、鼻根部はやや陥凹している。しかし、鼻骨の前方への隆起は弱い。計測値は、顔長が96mm、顔高は105mm、上顔高は61mmである。幅径を右側半から推定すると、頬骨弓幅は〔126mm〕、中顔幅が〔96mm〕で、従って、顔示数は〔83.33〕(K)、〔109.38〕(V)、上顔示数は〔48.41〕(K)、〔63.54〕(V)となり、顔面は低・広顔傾向が著しい。

眼窩は、眼窩幅が40mm(右)、眼窩高が32mm(右)で、眼窩示数は80.00(右)となり、mesokonch(中眼窩)に属している。また、鼻部は鼻幅のみ計測可能で、20mmと狭い。

鼻根部は前眼窩間幅が19mm、鼻根横弧長が22mmで、鼻根彎曲示数は86.36となり、鼻根の隆起は弱い。また、鼻根角は149度、鼻根陥凹示数は12.90である。側面角は、全側面角のみ計測可能で、81度である。

下顎骨も右側半が残存していたが、下顎角の部分を欠損している。下顎体は低く、下顎切痕は浅い。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植していた。また、下顎の左側半の歯も遊離した状態で残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$
$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	○ $I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの１～２である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

４．性別・年令

性別は、恥骨下角が大きいことや眉上弓の隆起が弱いことから女性と推定した。年令は、冠状縫合の内板の一部に癒合が認められる以外は、縫合が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-05-１号人骨　（男性、熟年）

１．脳頭蓋

左側半がほぼ完全に残存していた。径はやや大きく、乳様突起はやや大きい。左側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は三主縫合いずれも内板は閉鎖しているが、外板は開離している。

計測値は、頭蓋最大長が186mm、バジオン・ブレグマ高が138mmである。また、左側半からの頭蓋最大幅の推定値は〔146mm〕となる。頭蓋長幅示数は〔78.49〕、頭蓋長高示数は74.19、頭蓋幅高示数は〔94.52〕となり、頭型は meso-、ortho-、metriokran(中、中、中頭)に属している。また、正中矢状弧長は393mmとかなり大きく、本頭蓋は径が大きいことがわかる。

２．顔面頭蓋

右側を欠損しているが、それ以外の保存状態は良好である。眉上弓はよく発達しており、鼻根にも弱い陥凹が認められ、鼻骨もやや隆起している。

計測値は、顔長が102mm、顔高が113mm、上顔高が66mmで、高径は小さい。一方、幅径は計測できないが、左側半からの推定値は、頬骨弓幅が〔142mm〕、中顔幅が〔104mm〕となり、顔の幅径は大きい。顔示数は〔79.58〕(K)、〔108.65〕(V)、上顔示数は〔46.48〕(K)、〔63.46〕(V)と、いずれも小さな値となり、顔面は強い低・広顔傾向を示している。

眼窩幅は42mm(左)、眼窩高は34mm(左)で、眼窩示数は80.95(左)となり、mesokonch(中眼窩)に属している。鼻幅は27mm、鼻高は50mmで、鼻示数は54.00となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が21mmとやや大きく、また、鼻根横弧長は25mmで、鼻根彎曲示数は84.00となり、鼻骨の隆起は強くない。前頭突起水平傾斜角は計測できないが、前頭突起の向きはやや全額方向である。また、鼻根角は135度、鼻根陥凹示数は16.13である。

下顎骨は左側半が完全に残存している。下顎骨のサイズは大きいものではな

いが、下顎体はかなり厚く頑丈である。下顎枝はやや長い。また、下顎切痕はやや深く、下顎角は外反している。

3．歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ ／ P_1○ ○ ○ ○	○ I_2C $P_1P_2M_1$● ●
／ ／ ／ ／ ／ C ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ M_1M_2●

咬耗度はBrocaの２～３度である。風習的抜歯の痕跡は認められない。歯の咬合形式は不明である。

4．性別・年令

性別は、眉上弓の発達が良好で、四肢骨も大きいことから、男性と推定した。年令は、三主縫合とも内板が閉鎖していることから、熟年と考えられる。

ST-05-２号人骨　（男性、壮年）

1．脳頭蓋

右側後頭部を欠損している。径はさほど大きくないが、乳様突起は短くて大きい。左側外耳道の観察ができたが、骨腫は認められない。縫合は冠状縫合、矢状縫合が観察できたが、いずれも内外両板は開離している。

計測値は、バジオン･ブレグマ高が138㎜である。頭蓋長幅示数は算出できなかったが、観察によって推定すると、頭型は中頭型のようである。

2．顔面頭蓋

顔面頭蓋は完全である。眉上弓と眉間の隆起は強く、鼻根部も弱く陥凹し、鼻骨はやや高く隆起している。

計測値は、顔長が102㎜、頬骨弓幅が134㎜、中顔幅が102㎜、顔高が110㎜、上顔高が64㎜で、高径が極端に小さな値を示している。そのため、顔示数は82.09(K)、107.84(V)、上顔示数は47.76(K)、62.75(V)と、いずれも小さく、顔面は著しく低･広顔傾向が強い。

眼窩幅は42㎜(右)、40㎜(左)、眼窩高は32㎜(右)、33㎜(左)で、眼窩示数は76.19(右)、82.50(左)となり、両側ともmesokonch(中眼窩)に属している。鼻幅は27㎜、鼻高は49㎜で、鼻示数は54.00となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が19㎜、鼻根横弧長が25㎜で、鼻根彎曲示数は76.00と小さく、鼻根部の隆起が強いことがうかがえる。前頭突起水平傾斜角は計測はできなかったが、前頭突起はやや矢状方向を向いている。また、鼻根角は144

度、鼻根陥凹示数は18.75である。

側面角は、全側面角が86度、鼻側面角が88度、歯槽側面角が79度で、歯槽性の突顎の傾向は認められない。

下顎骨は右側の第一大臼歯より後方の部分が欠損している。径は小さく、きゃしゃである。とくに下顎体の後部は低い。下顎枝も細く、下顎切痕は浅いが、下顎角は強く外反している。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

$M_3M_2M_1$○ ○ ○ ○ ○	○ I_2C $P_1P_2M_1M_2M_3$
／ $M_2M_1P_2P_1C$ I_2I_1	I_1I_2C $P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの１度である。また、両側の上顎第三大臼歯、左側の下顎第三大臼歯は歯根が未完成である。風習的抜歯の痕跡は認められない。歯の咬合形式は不明である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さく、眉上弓と眉間の隆起が強いことから、男性と推定した。年令は、観察できた冠状縫合と矢状縫合が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-06号人骨　（男性、熟年）

1．脳頭蓋

右側半が残存している。径はあまり大きくないが、乳様突起は大きい。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。三主縫合の内板はほとんどが癒合閉鎖している。外板では冠状縫合が開離しているが、その他は外板も癒合している。

計測値は、頭蓋最大長が176mm、バジオン・ブレグマ高が135mmである。右側半より頭蓋最大幅を算出すると〔136mm〕となり、頭蓋長幅示数は〔77.27〕、頭蓋長高示数は76.70、頭蓋幅高示数は〔99.26〕となり、頭型はmeso-、hypsi-、akrokran(中、高、尖頭)に属している。また、正中矢状弧長は367mmである。

2．顔面頭蓋

左頬骨と頬骨弓を欠損しているだけで、その他の保存状態は良好である。眉上弓は隆起し、鼻根部にも弱い陥凹が認められる。また、鼻根部は狭く、鼻骨の隆起は強く、鼻骨は長い。

計測値は、顔長が102mm、顔高は124mm、上顔高は70mmで、高径はかなり大き

い。一方、幅径は右側半から推定すれば、頬骨弓幅が〔134mm〕、中顔幅が〔96mm〕と、やや小さい。示数値は、顔示数が〔92.54〕(K)、〔129.17〕(V)、上顔示数は〔52.24〕(K)、〔72.92〕(V)と、いずれも大きな値を示し、顔面には狭・高顔傾向が認められ、本例の顔面頭蓋は他の例とは異なる特徴を示している。

眼窩幅は41mm(右)、40mm(左)、眼窩高は32mm(右、左)で、顔示数は78.05(右)、80.00(左)となり、両側ともmesokonch(中眼窩)に属している。鼻幅は25mm、鼻高は52mmで、鼻示数は48.08となり、mesorrhin(中鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が17mm、鼻根横弧長が22mmで、鼻根彎曲示数が77.27となり、鼻骨の隆起は強い。前頭突起水平傾斜角の計測はできないが、前頭突起の向きは矢状方向を向いており、その角度はかなり小さいと考えられる。また、鼻根角は138度、鼻根陥凹示数は13.33である。

下顎骨は、右側半が完全である。下顎体は正中部で高いが、後部は低い。下顎枝は幅広く、下顎切痕は浅いが、筋突起は大きい。下顎角は外反している。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植している。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1\bigcirc\ \ C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$
$M_3\bullet\ \ M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの２～３度である。風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鋏状咬合である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さく、眉上弓も隆起していることから、男性と推定した。年令は、三主縫合のうち冠状縫合を除く縫合が内外両板とも癒合閉鎖していることから、熟年と考えられる。

ST-07号人骨　(性別不明、熟年)

前頭骨前頭鱗上部から頭頂骨前部にいたる部分と、遊離歯が２本残存していたにすぎない。縫合は冠状縫合と矢状縫合の一部が観察できたが、内板は両者とも癒合し、外板は開離している。

上顎の遊離歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／ M_2M_1／ ／ ／ ／ ／

なお、咬耗度はBrocaの２度である。

性別は不明であるが、年令は、縫合の癒合状態から熟年と推定した。

ST-08-1号人骨　(男性、壮年)

1．頭蓋

前頭骨と左側頭部から後頭部の下部にかけてが残存している。乳様突起は大きく、外後頭隆起の発達も良好である。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は前頭縫合、矢状縫合のごく一部およびラムダ縫合が観察できたが、いずれも内板、外板ともに開離している。右側外耳道の観察が可能であったが、骨種は存在しない。また、眉上弓の隆起は強い。

下顎骨は歯槽部分が破損しており、計測はできなかったが、下顎体の径はそれほど大きくないようである。下顎角はやや外反している。

脳頭蓋も顔面頭蓋も計測はできなかった。

2．歯

下顎歯が、右側は釘植した状態で、左側は遊離した状態で残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

○ ● M_1● P_1C ○ ／ | ／ ／ C $P_1P_2M_1$／ ／

咬耗度はBrocaの２度で、風習的抜歯の痕跡は認められない。

3．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さいことや外後頭隆起の発達が良好なことから、男性と推定した。年令は、観察できた縫合が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-08-2号人骨　(男性、壮年～熟年)

左側頭頂骨の後部から左側側頭骨および左側後頭骨の一部が残存している。乳様突起は先端が欠損しているものの、残存部を観察するかぎり発達がよかったと考えられる。また、乳突上稜の隆起も著しい。左側外耳道の観察できたが、骨腫は存在しない。縫合はラムダ縫合の観察できたが、内板にはまだ縫合が認められ、外板も開離している。

性別は、乳様突起が大きく、乳突上稜もよく発達していることから、男性と推定した。年令は、縫合の癒合状態から壮年末から熟年初頭頃と考えられる。

ST-09-1号人骨　(男性、熟年)

前頭骨、後頭骨および左側上顎骨歯槽突起のそれぞれ一部が残存している。眉上弓の一部が観察できたが、かなり隆起しているようである。また、骨壁は

厚く、上項線の隆起も強い。縫合は冠状縫合とラムダ縫合の一部が観察できたが、両者とも内板は完全に癒合しており、外板も一部で癒合が始まっている。上顎骨の歯槽には歯は釘植しておらず、すべて開存していた。また、遊離歯が一本残存していた。上顎の歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

○ ○ ○ P_1／ ／ ／ ／

咬耗度はBrocaの２度である。

性別は、眉上弓が隆起していることから、男性と推定した。年令は、縫合の癒合状態から熟年と考えられる。

ST-09-２号人骨　（性別不明、熟年）

前頭骨の一部と左側頭骨岩様部とが残存している。左側外耳道は観察可能で、後壁に弱い骨腫が認められる。縫合は前頭縫合の一部が観察できたが、内板は完全に癒合しており、外板も癒合が進行している。

性別は不明であるが、年令は、縫合の閉鎖状態から熟年と考えられる。

ST-10号人骨　（男性、年令不明）

１．頭蓋

顔面頭蓋が残存していた。眉上弓と眉間は著しく隆起しており、鼻根部の陥凹も深い著しく幅径が大きく、高径が小さい。

計測値は、上顔高が62mmと、男性としてはかなり小さい。中顔幅を右側半から算出すると〔106mm〕となり、上顔示数は〔58.49〕と、小さな値を示し、顔面は著しく低上顔である。

眼窩幅は44mm、眼窩高は32mmで、眼窩示数は72.73となり、chamaekonck(低眼窩)に属している。鼻幅は32mmで、著しく広く、鼻高は46mmで、鼻示数は69.57となり、hyperchamaerrhin(過広鼻)に属している。また、前頭突起水平傾斜角は計測できないが、観察したところ前額方向を向いているようである。

下顎骨は、下顎体の下縁を欠損した右側半が残存している。下顎体も厚く、下顎枝も幅広く、下顎切痕は浅い。

２．歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$
$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1$／ ／

咬耗度はBrocaの２度である。風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

３．性別・年令

性別は、眉上弓と眉間が著しく隆起していることから、男性と推定したが、年令は不明である。

ST-11-１号人骨　（男性、熟年）

１．脳頭蓋

右側端が欠損している。径はやや大きく、乳様突起はそれほど大きくはない。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は右側のラムダ縫合以外は観察が可能で、内板はいずれの縫合もほぼ癒合している。外板でも矢状縫合とラムダ縫合では大部分が癒合閉鎖しているが、冠状縫合ではまだ開離している。

計測値は、頭蓋最大長が188mm、バジオン・ブレグマ高が138mmである。頭蓋最大幅を右側半から算出すると、〔138mm〕となり、頭蓋長幅示数は〔72.34〕、頭蓋長高示数が73.40、頭蓋幅高示数が〔100.00〕となり、頭型はdolicho-、ortho-、akrokran(長、中、尖頭)に属している。また、正中矢状弧長は385mmである。

２．顔面頭蓋

右側頬骨の外側部と頬骨弓が欠損している以外はほぼ完全である。眉上弓はわずかに隆起しているが、鼻根部は広くて、やや扁平である。また、眼窩は高く、歯槽性突顎傾向が著しい。

計測値は、顔長が108mm、顔高が121mm、上顔高が69mmと、高径はやや大きい。幅径を左側半から算出すると、頬骨弓幅は〔142mm〕、中顔幅は〔108mm〕となり、顔示数は〔85.21〕(K)、〔112.04〕(V)と、やや大きな値を、上顔示数は〔48.59〕(K)、〔63.89〕(V)と、小さな値を示している。すなわち、顔面は低上顔で、高顔である。

眼窩幅は42mm(右、左)、眼窩高は36mm(右、左)で、眼窩示数は85.71(右、左)となり、hypsikonch(高眼窩)に属する。鼻幅は30mm、鼻高は54mmで、鼻示数は55.56となり、chamaerrhin(広鼻)に属する。

鼻根部は前眼窩間幅が22mm、鼻根横弧長が26mmで、鼻根彎曲示数は84.62となり、鼻骨の隆起はやや弱い。前頭突起水平傾斜角は68度で、前頭突起は矢状方向を向いているが、鼻骨は広く、鼻根部は扁平である。また、鼻根角は142

度、鼻根陥凹示数は13.33である。

側面角は、全側面角が82度で、鼻側面角は87度、歯槽側面角は58度で、歯槽性突顎傾向がかなり強い。

下顎体は正中部で高く、大臼歯部で低く、下顎枝は幅広い。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ $M_1P_2P_1C\ I_2I_1$	$I_1I_2C\ P_1P_2M_1M_2$
／ M_2／ ● ○ $C\ I_2I_1$	$I_1I_2C\ P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの２～３度である。なお、上顎左側第三大臼歯は先天性の欠損と考えられる。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

本頭蓋は、長頭型で、鼻根部は扁平であり、歯槽性の突顎が著しいなど中世人的特徴が顕著である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さいことから、男性と推定した。年令は観察できた縫合の内板がいずれもほぼ癒合しており、矢状縫合とラムダ縫合では外板にも癒合が認められることから、熟年の後半頃と考えられる。

ST-11-２号人骨　（女性、壮年）

1．脳頭蓋

右側の約1/3が欠損している。前頭部は丸く、乳様突起はあまり大きくない。左側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は観察できた三主縫合のうち冠状縫合の内板の一部が癒合している以外はすべて内外両板とも開離している。

計測値は、頭蓋最大長が182㎜、バジオン・ブレグマ高は138㎜である。左側半より頭蓋最大幅を推定すると〔138㎜〕となり、頭蓋長幅示数は〔75.82〕、頭蓋長高示数が70.33、頭蓋幅高示数が〔100.00〕となり、頭型はmeso-、ortho-、akrokran(中、中、尖頭)に属している。また、正中矢状弧長は382㎜である。

2．顔面頭蓋

右側の一部を欠損しているが、ほぼ完全である。眉上弓の隆起は弱く、鼻根部は広くて、扁平である。

計測値は、顔長が100㎜、中顔幅が98㎜、顔高が103㎜、上顔高が62㎜で、高

径は著しく小さい。頬骨弓幅は計測できなかったが、左側半からの推定値は〔136mm〕となる。顔示数は〔75.74〕(K)、105.10(V)、上顔示数は〔45.59〕(K)、63.27(V)と、かなり小さな値を示し、顔面は著しく低・広顔傾向が強い。

眼窩幅は43mm(右、左)、眼窩高は33mm(右)、31mm(左)で、眼窩示数は76.74(右)、72.09(左)となり、右側はmesokonch(中眼窩)、左側はchamaekonch(低眼窩)に属している。また、鼻幅は29mm、鼻高は46mmで、鼻示数は63.04となり、hyperchamaerrhin(過広鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が21mm、鼻根横弧長が25mmで、鼻根彎曲示数は84.00となり、鼻骨の隆起は弱い。前頭突起水平傾斜角は計測できないが、観察したところ、前頭突起は矢状方向を向いている。また、鼻根角は154度、鼻根陥凹示数は10.71である。

側面角は、全側面角が84度、鼻側面角が90度、歯槽側面角が63度で、歯槽性の突顎の傾向が強い。

下顎骨は左側がほぼ完全に残存している。きゃしゃで、高径が低く、下顎切痕は浅い。

3．歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

● ● ● P_2● C I_2 I_1	I_1 I_2 C ● ● M_1● ●
／ ／ ／ ／ P_1 C I_2 I_1	I_1 I_2 C P_1 P_2● ● ●

咬耗度はBrocaの３度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

4．性別・年令

性別は、眉上弓の隆起が弱いことから、女性と推定した。年令は、縫合の大部分が内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-11-３号人骨　(女性、壮年)

1．脳頭蓋

右側後頭部を欠損していた。前頭結節の発達は弱いが、前頭部は丸く、乳様突起は小さい。左側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。三主縫合はいずれも内板、外板ともに開離している。

計測値は、頭蓋最大長が176mm、バジオン・ブレグマ高が128mmである。また、左側半からの頭蓋最大幅の推定値は〔136mm〕である。頭蓋長幅示数は〔77.27〕、

頭蓋長高示数が72.73、頭蓋幅高示数が〔94.12〕となり、頭型はmeso-、orto-、metriokran(中、中、中頭)に属している。

2．顔面頭蓋

右側頬骨および頬骨弓が欠損している。眉上弓の隆起は弱く、鼻根部は著しく広く、扁平である。

計測値は、左側半からの頬骨弓幅の推定値が〔138mm〕、中顔幅は107mm、顔高が106mm、上顔高が62mmで、高径が著しく小さい。従って、顔示数は〔76.81〕(K)、99.07(V)、上顔示数は〔44.93〕(K)、57.94(V)となり、いずれも小さな値を示し、低・広顔傾向が著しく強い。

しかし、眼窩は眼窩幅が39mm(左)、眼窩高が35mm(右)、34mm(左)で、眼窩示数は87.18(左)となり、hypsikonch(高眼窩)に属している。また、鼻部は鼻幅が29mm、鼻高が46mmで、鼻示数は63.04となり、hyperchamaerrhin(過広鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が22mm、鼻根横弧長が24mmで、鼻根彎曲示数は91.67となり鼻根部は著しく扁平である。また、鼻根角は143度、鼻根陥凹示数は15.15である。

側面角は、全側面角が80度、鼻側面角が85度、歯槽側面角が66度で、歯槽性の突顎が認められる。

下顎骨体は低く、下顎枝は幅広く、下顎切痕は浅い。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

$M_2M_1P_2P_1C\ I_2I_1$	／／ $C\ P_1P_2M_1M_2$
／／／ $P_2P_1C\ I_2I_1$	$I_1I_2C\ P_1P_2M_1M_2$／

なお、上顎の両側の第三大臼歯は歯槽の状態から先天性的に欠損している。咬耗度はBrocaの１度である。

4．性別・年令

性別は、眉上弓の隆起が弱いことから、女性と推定した。年令は、三主縫合がすべて内外両板とも開離していることから、壮年と考えられる。

ST-13-１号人骨　(女性、熟年)

1．脳頭蓋

右側半が残存していた。前頭結節は観察できないが、前頭部は膨隆している。

また、乳様突起は小さい。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は認められない。三主縫合のうち冠状縫合と矢状縫合は内外両板とも癒合しているが、ラムダ縫合で内板は癒合しており、外板はまだ開離している。

計測値は、頭蓋最大長が179㎜、バジオン・ブレグマ高は137㎜で、長さは長い。頭蓋最大幅は計測できないが、右側半からの推定値は〔136㎜〕となり、頭蓋長幅示数は〔75.98〕、頭蓋長高示数が76.54、頭蓋幅高示数が〔100.74〕で、頭型はmeso-、hypsi-、akrokkran(中、高、尖頭)に属している。また、正中矢状弧長は375㎜である。

2．顔面頭蓋

右側半が残存しているが、眼窩の上外側部および鼻骨は欠損している。眉上弓の隆起は弱く、鼻根部は鼻骨が欠損しており、鼻根部の形態は不明である。

計測値は、顔長が93㎜、上顔高が58㎜で、高径は著しく小さい。幅径は計測でないが、右側半からの推定値は、頬骨弓幅が〔130㎜〕、中顔幅が〔96㎜〕で、上顔示数は〔44.62〕(K)、〔60.42〕(V)となり、顔面は著しく低上顔である。

眼窩は計測できないが、眼窩高は低い。鼻幅は26㎜、鼻高は47㎜で、鼻示数は55.32となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

側面角は計測できなかったが、観察したところでは歯槽性の突顎傾向がみられる。

下顎骨の保存状態は悪い。

3．歯

上顎歯は釘植した状態で、下顎歯は遊離した状態で残存している。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

● $M_2M_1P_2$● C ○ ●	○ I_2○ ● P_2M_1● ／
／ ／ ／ ／ P_1／ ／ ／	／ ／ ／ ／ P_2／ ／ ／

咬耗度はBrocaの２～３度である。歯槽の状態は健康でない。風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

4．性別・年令

性別は、眉上弓の隆起が弱いことから、女性と推定した。年令は、三主縫合の内板がすべて癒合し、冠状縫合と矢状縫合は外板も癒合していることから、熟年の後半頃と考えられる。

ST-13-２号人骨　(男性、熟年)

1．脳頭蓋

右側半がほぼ完全に残存している。径は大きく、乳様突起は長い。外耳道は右側のみ観察可能で、軽度の骨腫が前後両壁に認められた。三主縫合とも内板はほぼ癒合閉鎖しているが、外板はまだ開離している。

計測値は、頭蓋最大長が191mmで、バジオン・ブレグマ高が142mm、右側半から推定した頭蓋最大幅が〔142mm〕で、脳頭蓋の径はいずれも大きい。頭蓋長幅示数は〔74.35〕、頭蓋長高示数は74.35、頭蓋幅高示数は〔100.00〕で、頭型はdolico-、ortho-、akrokran(長、中、尖頭)に属している。

2．顔面頭蓋

左側の頬骨および前頭骨眼窩部が欠損している。眉上弓はやや強く隆起し、鼻根部は陥凹している。

計測値は、顔長が105mm、顔高は(121mm)、上顔高は66mmである。また、幅径は計測できないが、右側半から推定すれば、頬骨弓幅は〔136mm〕、中顔幅は〔100mm〕で、上顔示数は〔48.53〕(K)、〔66.00〕(V)となり、顔面は低上顔である。

眼窩幅は43mm(右)、眼窩高は32mm(右)で、眼窩示数は74.42(右)となり、chamaekonch(低眼窩)に属している。鼻幅は26mm、鼻高は49mmで、鼻示数は53.06となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

鼻根彎曲示数は算出できないが、鼻骨の隆起は著しく強く、鼻は高い。鼻根角は119度と小さく、鼻根陥凹示数は27.59と大きい。

側面角は、全側面角が82度、鼻側面角が86度、歯槽側面角が70度で、歯槽性突顎の傾向は弱い。

下顎骨は下顎体は高く、下顎枝は大きい。下顎角はやや外反している。下顎切痕はやや深い。

3．歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2$
$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	I_1／／／／$M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの１～２度である。なお、上顎右側の第三大臼歯は矮小歯で、上顎左側の第三大臼歯は歯槽の状態から先天性の欠損と考えられる。風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さいことと眉上弓の隆起が強いことから、男性と推定

した。年令は、三主縫合の内板が癒合していることから、熟年と考えられる。

ST-15号人骨　(男性、壮年)

1．脳頭蓋

右側の大部分が残存している。外後頭隆起の発達は悪いが、頭蓋の径は大きく、乳様突起もやや大きい。右側の外耳道が観察できたが、骨腫は存在しない。縫合は三主縫合とも内外両板が開離している。

計測値は、頭蓋最大長が193mm、バジオン・ブレグマ高が143mm、右側半から推定した頭蓋最大幅が〔154mm〕と、頭蓋の径は著しく大きい。頭蓋長幅示数は〔79.79〕、頭蓋長高示数は74.09、頭蓋幅高示数は〔92.86〕で、頭型はmeso-、ortho-、metriokran(中、中、中頭)に属している。また、正中矢状弧長は394mmである。

2．顔面頭蓋

右側頬骨、上顎骨および前頭骨の眼窩部が残存している。残存した骨片は多いが、顔面は復元できなかった。眉上弓の隆起は著しく強く、「ST-16-2」と同じ程度に強く隆起している。従って、鼻根部は深く陥凹している。また、眼窩は残存部から推測すると低眼窩と考えられる。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

M_3／　／　P_2P_1C　I_2I_1	I_1I_2C　$P_1P_2M_1M_2M_3$
$M_3M_2M_1$／　／　C　I_2○	I_1I_2C　$P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの1～2度である。風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

4．性別・年令

性別は、眉上弓の隆起が著しく強いことから、男性と推定した。年令は、三主縫合の内外両板がまだ開離していることから、壮年と考えられる。

ST-16-2号人骨　(男性、熟年)

1．脳頭蓋

後頭部が欠損しているが、他は完全である。頭蓋冠は頭頂部中央で丸く突出している。乳様突起は大きい。外耳道は両側とも観察可能で、両側に比較的大きな骨腫が認められた。三主縫合のうち冠状縫合、矢状縫合の観察ができたが、

両縫合とも内板は完全に癒合し、外板は矢状縫合の一部で癒合しているほかは開離している。

計測値は、頭蓋最大幅が145mm、バジオン・ブレグマ高が141mmで、頭蓋幅高示数は97.27となり、metriokran(中頭)に属している。頭蓋最大長は計測できないが、観察により推測するかぎり短頭ではなく、中頭型と考えられる。また、横弧長は326mmで、大きい。

2．顔面頭蓋

完全である。眉上弓の隆起は著しく強い。鼻根部の陥凹も著しく深く、鼻骨は強くせりだし、鼻は高く、鼻根部は縄文人そのものである。また、頬骨も著しく張り出し、顔の幅径は広い。

計測値は、顔長が100mm、頬骨弓幅が144mm、中顔幅が108mmで、顔高は115mm、上顔高は63mmを示し、幅径が大きく、高径が小さい。従って、顔示数は79.86(K)、106.48(V)、上顔示数は43.75(K)、58.33(V)となり、いずれも小さな値を示し、顔面には著しい低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は44mm(右、左)、眼窩高は32mm(右、左)で、眼窩示数は72.73(右、左)となり、chamaekonch(低眼窩)に属している。鼻幅が26mm、鼻高が50mmで、鼻示数は52.00となり、chamaerrhin(広鼻)に属している。

鼻根部は前眼窩間幅が20mm、鼻根横弧長が27mmで、鼻根彎曲示数が74.07となり、鼻骨の隆起は著しく強い。前頭突起水平傾斜角は61度と小さい。また、鼻根角は118度と小さく、鼻根陥凹示数は25.93と大きく、このことからも鼻骨の隆起が強いことがうかがえる。

側面角は、全側面角が88度、鼻側面角が89度、歯槽側面角が86度で、歯槽性突顎の傾向は全く認められない。

下顎は両側の下顎角が欠損している以外はほぼ完全である。全体的に頑丈で、とくに下顎体は厚い。下顎枝の幅径はさほど大きくなく、下顎切痕は浅い。

3．歯

上下両顎とも歯が釘植している。残存歯を歯式で示すと次のとおりである。

$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2$○
$M_3M_2M_1P_2P_1C\ \ I_2I_1$	$I_1I_2C\ \ P_1P_2M_1M_2M_3$

咬耗度はBrocaの1～2度である。風習的抜歯の痕跡は認められない。歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

4．性別・年令

性別は、恥骨下角が小さいことと眉上弓の隆起が著しく強いことから、男性と推定した。年令は、観察できた冠状縫合、矢状縫合とも内板が完全に癒合していることから、熟年と考えられる。

ST-17-1号人骨　(男性、壮年)

1．頭蓋

右側の頭頂骨後部から後頭骨にかけて残存しているのみである。縫合はラムダ縫合右側部の観察ができたが、内外両板とも開離している。

2．歯

上顎歯は遊離した状態で、下顎歯は釘植した状態で残存していた。残存歯を歯式で示すと、次のとおりである。

／ ／ ／ P_2 ／ ／ ／ ／	／ ／ ／ ／ ／ ／ ／ ／
／ ／ ／ P_2P_1C I_2I_1	I_1○ C $P_1P_2M_1$ ／ ／

咬耗度はBrocaの２～３度である。

四肢骨が大きいことから、男性と推定した。年令は観察できたラムダ縫合の内外両板が開離していることだけから推定すれば、壮年の可能性が強い。

ST-17-2号人骨　(女性、熟年)

前頭骨の一部およびブレグマの部分の小片が残存しているにすぎない。縫合は冠状縫合と矢状縫合の一部が観察できたが、内外両板とも癒合している。

性別は恥骨下角が大きいことから女性と推定した。年令は、観察できた冠状縫合と矢状縫合の一部では内板が完全に癒合していることから、熟年の可能性が強い。

B．推定身長値

脛骨、上腕骨および橈骨の最大長から、Pearsonと藤井の式を用いて推定身長値を算出してみた(表　)。いずれの推定値も低い結果となった。計測できた例も少なく、身長と相関の最も高い大腿骨からの推定身長値を算出することができなかったので、明確ではないが、大腿骨の残存部などから推定しても本古墳人は低身長であったと推測される。

B．特殊所見

(1) 外耳道骨腫

観察可能な17体(男性10、女性6、不明1)のうち3体(18%)に外耳道骨腫が認められた(表2)。左右別にみてみると、観察できた右11側のうち2側(18%)に、左8側のうち2側(25%)に外耳道骨腫が存在する。

表3　外耳道骨腫　(Table 3. Auditory exostosis)

人骨番号	性別	観察可能部位	骨腫の部位
ST-09-2	不明	右	右
ST-13-2	男性	右	右
ST-16-2	男性	右、左	右、左

(2) 骨増殖

「ST-13-2」には、上顎骨歯槽突起の歯槽の外側辺縁に強い骨増殖、下顎骨の歯槽の外側辺縁に弱い骨増殖が認められた。また、「ST-02-1」、「ST-06」の上顎骨歯槽突起の歯槽の外側辺縁にも弱い骨増殖が認められた。

(3) 頚椎癒合

「ST-16-2」(男性、熟年)には、後頭骨の後頭顆から第4頚椎までの骨癒合が認められた。椎骨の後部(棘突起)は破損して不明であるが、椎体および横突起には強い癒着がみられる。特に、環椎後頭関節、環軸関節、軸椎～第3頚椎の椎間関節および第3頚椎までの椎体間結合ではなはだしく、各椎骨の境界を定めるのも困難である。第3頚椎と第4頚椎は椎体の後部で癒着しており、前部は分離している。第5頚椎以下は全く残存しておらず、癒合していたかどうかは不明であるが、第4頚椎の椎体下面が平坦で癒着の痕跡が認められないことから分離していたと考えられる。

おそらく、この「ST-16-2」は若い頃から後頭顆と頚椎との癒合と上部頚椎間の癒合が進み、死亡する頃には首の運動がかなり制限され、生活に大きな支障をきたしていたと考えられる。

考　察

頭蓋、大腿骨および脛骨について、周辺地域の古墳人と比較し、広畑古墳人の形質的特徴を検討しておきたい。

1．男　性

(1)頭蓋

①脳頭蓋

まず、広畑古墳人骨間での検討を行なっておく。所見でも指摘しているように他の人骨群とは異なる特徴を示す例が存在する。「ST-06」がそれである。頭蓋長幅示数は他の人骨とは大差ないが、頭蓋の絶対径は小さい。本例を除く男性脳頭蓋の諸径は大きく、本例は頭蓋最大長、頭蓋最大幅で10mm前後、バジオン・ブレグマ高で5mm前後、他群より小さいので、頭蓋モズルスも他群の平均値が158.08(4)あるのに反し、本例は149.00と、その差は大きい。

次いで、「ST-06」を除いた平均値を算出し、他の古墳人と比較してみた(表4)。頭蓋最大長は189.50mm、頭蓋最大幅は〔144.17〕mm、バジオン・ブレグマ高は140.00mmで、三主径とも大きい。同じえびの市の例と比較してみると、三主径とも平松古墳人よりは大きく、頭蓋最大幅とバジオン・ブレグマ高は灰塚古墳人に近い。また、頭蓋最大幅は小木原古墳人の値にも近い。南九州全体でみてみても、本例の三主径は南九州山間部古墳人、宮崎平野部Ⅰ古墳人、宮崎平野部Ⅱ古墳人よりも大きい。

灰塚古墳人や小木原古墳人の頭蓋も大きいことから、えびの市の古墳人の脳頭蓋は他地域の古墳人よりも大きい可能性がある。

本例の頭蓋長幅示数の4例の平均値は76.24で、頭型は中頭型であるが、4例中短頭近い中頭型が2例、長頭型が2例存在し、短頭型は認められない。えびの市の平松古墳人は中頭型、小木原古墳人は短頭型であるが、本例の平均値は南九州山間部古墳人の平均値と大差ない。松下(1990)は以前から南九州の古墳人の頭型については宮崎市周辺で強い短頭型を示し、県境に近づくにつれ短頭の程度は弱くなり、県境や鹿児島県に入ると長頭型になる傾向があると指摘している。えびの市は宮崎、鹿児島、熊本の県境に位置しており、本例の頭型

もこの指摘と矛盾するものではない。

②顔面頭蓋

本古墳人には1例を除いて基本的には共通した特徴が認められる。幅が広く、高さが低く、低・広顔、低・広上顔であることである。しかし、「ST-06」は異質で、著しい狭・高顔傾向を示している(表)。この人骨の特徴を要約すると、顔高、上顔高および鼻高が高く、頬骨弓幅、中顔幅および鼻幅が狭く、歯槽性突顎の傾向は弱い。鼻根部の陥凹は浅いが、鼻骨はやや隆起している。

ST-06号人骨を除外した平均値を算出し、他の古墳人と比較してみた(表5)。顔の幅径は灰塚、平松、小木原の変異内にあり、高径は灰塚、平松よりも大きいが、顔示数と上顔示数は灰塚、平松、小木原の値と大差ない。また、鼻示数は灰塚、平松、小木原の変異内にあり、眼窩示数および歯槽側面角はこれらよりも大きい。すなわち、顔面の形態は同じえびの市の灰塚、平松、小木原と同じ傾向を示しているが、歯槽性突顎の傾向がこれら3群よりも弱い古墳人である。

次いで、南九州の3つのタイプと比較すると、頬骨弓幅と中顔幅は平野部ⅠタイプおよびⅡタイプよりも大きく、顔高や上顔高はこれらよりも小さい。従って、顔示数や上顔示数もこれらよりも小さい値となり、顔の幅径や高径および顔示数、上顔示数は山間部タイプに最も近い値を示しているが、その値はこの山間部タイプの平均値よりも小さい。また、灰塚、平松、小木原についても山間部タイプの平均値よりも下回っていることから、えびの市の古墳人は他地域の古墳人に比較しても低・広顔傾向が強い地域のようである。

眼窩ではやや傾向が異なり、72.73から85.71を示すものが存在し、変異が大きいが、左側で見るかぎり、4例中3例までが80.00を越えており、平均値は南九州の3群よりも大きい。しかし、鼻示数は平野部ⅠタイプおよびⅡタイプよりも大きく、山間部タイプの平均値に近い。

一方、「ST-06」の値は、山間部タイプに比べて、顔の幅は狭く、高さは高い。幅径は平野部Ⅰタイプより小さく、高径はこれより大きい。従って、顔示数と上顔示数は平野部Ⅰタイプよりも大きな値となり、むしろ計測値も示数値もどちらかといえば平野部Ⅱタイプに近い。しかし、眼窩示数は平野部Ⅱタイプよりも大きく、山間部タイプと平野部Ⅰタイプに近く、鼻示数は小さな値で、平野部Ⅰタイプに近い。

鼻根部の形態は山間部タイプと同じように、幅は狭く、その陥凹は深く、鼻

骨の隆起も強い(表６)。鼻根彎曲示数はむしろ山間部タイプの平均値よりも小さく、鼻根部は扁平でなく、鼻骨が隆起しており、上顎骨前頭突起水平傾斜角も64.50度とかなり小さく、鼻根部には縄文人的特徴が強く残っている。特に、「ST-16-2」や「ST-15」は眉上弓の隆起も著しく強く、顔面は縄文人そのものである。狭・高顔傾向を示す「ST-06」も鼻根彎曲示数は小さく、鼻骨も隆起しているが、その程度はこれ以外の個体群よりはやや弱いものである。

（２）四肢骨

四肢骨は頭蓋に比べ保存状態は悪く、最大長が計測できた人骨はST-05-2【上腕骨(左)、橈骨(左)】、ST-13-2【脛骨(左)】に限られた。ここでは、脛骨、大腿骨について検討しておきたい。

①大腿骨

粗線の発達はやや良好である。平均値は骨体中央矢状径が28.00mm(右)、26.83mm(左)、骨体中央横径が26.50mm(右)、24.83mm(左)、骨体中央周は86.00(右)、80.80(左)で、骨体の大きさは地下式横穴墓出土の古墳人としては標準的なサイズである。骨体中央断面示数は105.40(右)、108.41(左)で、やや後方への発達がみられる。上骨体断面示数は1例しか計測できなかったが、78.57で、骨体上部は扁平である。

次に、右側について、他の古墳人と比較してみたい(表7)。骨体中央周は柿木原より小さいが、灰塚および大萩よりやや大きく、他群とは大差ない。骨体中央断面示数は柿木原、菓子野、旭台よりは大きいが、跡江より小さく、灰塚、大萩、市ノ瀬と大差なく、古墳人としては大きな示数値である。上骨体断面示数は小さい方に属し、骨体上部は扁平である。最大長は計測できなかったが、残存部位から推定する限り、長い印象はない。

②脛骨

最大長は1例のみ計測でき、328mm(左)でかなり短い。骨体周は80mm(右)、76.50mm(左)、最小周は73mm(右)、72.00mm(左)で、骨体も細い。中央最大径は30mm(右)、27.75mm(左)、中央横径は22.50mm(右)、19.75mm(左)、中央断面示数は70.00(右)、71.36(左)で、骨体に扁平性は認められない。

次に、右側について、他の古墳人と比較してみる(表８)。最大長は平野部の市ノ瀬、柿木原よりはるかに短い。最小周は柿木原と菓子野よりは小さいが、その他とは大差なく、骨体周は市ノ瀬よりははるかに小さく、その他とは大差ない。中央断面示数は跡江、旭台よりは小さいが、その他よりは大きい。

以上のように、男性は1例を除けば、頭蓋の諸径は大きく、頭型は長頭に傾いた中頭で、顔面部は低・広顔を示し、鼻根部が深く陥凹し、鼻骨の隆起が強く、低身長である。これは、松下の分類した「南九州山間部古墳人」の特徴に一致するものである。したがって、広畑古墳人は形質的にはこの「南九州山間部古墳人」一群とみなして差し支えないと思われる。

しかし、この一群とは異なり、「狭・高顔」の特徴を示す個体が存在する。南九州の山間部の古墳人の中で本例のように、特異な形質を示す例は高崎町の原村上がある。松下はこれについて、「形質上の差が共同体への帰属性を左右することはなかった」と述べている。本人骨も他の人骨と比較し、埋葬形態に特殊性はなく、これから判断するかぎり、集団の一員とみなされていたと考えられる。

2．女性

（1）頭蓋

女性に関しては男性とは異なり、他の個体群と異なる特徴を示すものは存在しなかった。

①脳頭蓋

平均値を算出し、他の古墳人と比較してみた(表9)。頭蓋最大長は176.25mmで、山間部の大萩、日守、旭台、菓子野と大差なく、平野部の市ノ瀬よりはかなり大きい。頭蓋最大幅は132mmで、比較資料の中で最も小さく、バジオン・ブレグマ高は133.00mmで、旭台と一致し、最も大きい。示数については、頭蓋長幅示数が〔77.21〕で、菓子野よりは大きく、頭蓋長高示数は74.10で、大萩とほぼ一致する。頭蓋幅高示数は〔97.78〕で、菓子野についで大きい。頭型は、推定できた人骨が4例存在するが、いずれも中頭である。

南九州古墳人の女性の頭型については、男性ほど明確になっていないが、山間部ではおよそ中頭から短頭で、菓子野がやや長頭に傾いており、宮崎平野部では強い短頭性を示すことを松下は指摘している。本例はいずれも中頭であるが、長頭に傾いた人骨も2例ある。

②顔面頭蓋

女性の顔面部は一様に低・広顔で、幅径が大きく、高径は小さな値を示した。平均値を算出し、他の古墳人と比較してみた(表10)。頬骨弓幅は推定値が〔131.00mm〕で、菓子野より小さく、中顔幅は103.33mmで、日守についで大きい。顔

高は104.67mmで、いずれの比較資料より小さく、上顔高は61.00mmで、山間部の古墳人と大差ない。顔示数は〔78.63〕(K)、102.09(V)で、比較資料の中で最も小さく、上顔示数は〔46.62〕(K)、60.09(V)で、他の比較資料と大差ない。南九州の古墳人の女性は平野部、山間部とも低・広顔傾向が見られるが、本古墳人は、その中でもこの傾向がより強いようである。

眼窩は比較資料の中では眼窩幅が41.33mmで、やや小さく、眼窩高が33.00mmで、やや大きい。したがって、眼窩示数は80.07となり、やや大きい。鼻部は、鼻幅が25.67mmで、最も小さな値を示しているが、大差はなく、鼻高は46.40mm、鼻示数は57.75で、比較資料の中では中間的な値を示している。側面角は、全側面角が81.20度、鼻側面角が85.00度で、いずれも比較資料の中では小さい方である。歯槽側面角は70.25度で、比較資料の中では中間的な値を示し、やや歯槽性の突顎の傾向が見られる。

鼻根部は、前眼窩間幅が19.17mm、鼻根横弧長が22.00mm、鼻根彎曲示数は83.71で、おおむね比較資料の中では平均的な値を示しており(表11)、鼻根部は狭く、鼻骨は隆起しており、鼻根部は扁平ではない。

(2) 四肢骨

女性の四肢骨は残存量が少なく、最大長が計測できる例がなかった。男性同様大腿骨と脛骨を取り上げ、述べてみたい。

①大腿骨

平均値は、骨体中央矢状径が23mm(右)、25.75mm(左)、骨体中央横径が23mm(右)、25.25mm(左)、骨体中央周は72mm(右)、79.50mm(左)で、やや大きな値を示し、骨体中央断面示数は100.00(右)、102.02(左)で、小さな値を示した。全体的には骨体の後方への突出は弱いが、ST-11-3(左)は112.50と大きく、粗線が発達し、後方への突出が認められた。上骨体断面示数は80.00(右)、89.29(左)と、左右で大きく異なっているが、骨体上部の扁平性は弱い。

次に、右側について、他の古墳人と比較してみる。骨体中央周は表12のなかでは最小値で、骨体は細い。骨体中央断面示数は市ノ瀬についで小さく、骨体は丸い。上骨体断面示数は旭台と大差なく、他群よりも大きく、骨体上部の扁平性は弱い。

②脛骨

女性で観察および計測ができたのはST-04(右)とST-11-3(両側)に限られた。ST-04は骨体の上部だけしか残存していなかった。中央最大径は26mm(右)、25

mm(左)、中央横径は20mm(右、左)、骨体周は72mm(右、左)、最小周は64mm(右)、66mm(左)、中央断面示数は76.92(右)、80.00(左)で、骨体は細く、扁平性は認められない。

次に、他の古墳人と比較してみる。骨体周も最小周も市ノ瀬よりは大きく、他の資料よりは小さいかこれらと大差ない。中央断面示数は表13では最大値を示し、扁平性は全く認められない。

以上のように、女性は、頭型は中頭型で、顔面頭蓋は著しい低・広顔傾向をを示し、鼻根部は古墳人としては狭く、鼻骨の隆起も強い。四肢骨は、骨体に関しては他の南九州古墳人と大差はない。

要　約

市道坂元苧畑線の拡幅工事などの道路整備事業に伴なって、宮崎県えびの市大字坂元に所在する広畑遺跡の発掘調査が1989年(平成元年)に行われ、弥生時代の住居址や古墳時代の埋葬跡が検出された。埋葬遺構は地下式横穴墓が主体で、19基の地下式横穴墓のうちの16基から合計26体の人骨が出土した。頭蓋の保存状態は良好で、えびの市の古墳時代人骨の例を追加することができた。出土人骨の人類学的観察や計測を行ない、興味ある所見を得た。その結果を要約すれば、次のとおりである。

1. 出土人骨26体のうち、２体は成年・小児骨で、残りの24体の成人骨のうち男性骨は15体、女性骨は7体であるが、性別を判別できなかったものが２体ある。
2. これらの人骨はすべて地下式横穴墓から出土した。
3. この26体の人骨は古墳時代後期初頭(５世紀中頃)に属する人骨である。
4. 頭型は男女とも中頭型に属しており、男性の脳頭蓋の径は大きい。
5. 顔面頭蓋は男女ともに低・広顔傾向が強く、鼻根部はやや狭く、鼻骨の隆起も強く、鼻根部にも陥凹が認められるなど、縄文人的特徴を強く残しており、南九州山間部古墳人の特徴が強い。
6. 鼻部も高径は低く、幅径は広いが、眼窩示数はやや大きく、変異が大きい。
7. 男性には、狭・高顔傾向を示し、脳頭蓋の径が小さく、鼻骨や鼻根部の形態もわずかに異なる頭蓋が１例(ST-06人骨)認められた。
7. 眉上弓の隆起が著しく、その程度が縄文人と変わらないものが２体認めら

れ、うち1体(ST-16-2)の顔面頭蓋は形態的にも計測値的にも縄文人そのものである。

8. 鼻根部については、幅が広く、扁平な集団(ST-11号墳の被葬者3体)と幅が狭く、非扁平な集団(7体)とが存在する。

9. 歯槽性突顎傾向は男女とも弱い。

10. 明確な風習的抜歯は認められない。咬合形式は鉗子状咬合が多い。

11. 長頭型で、鼻根部には扁平性が認められ、歯槽性突顎傾向も強く、南九州では珍しく中世人的特徴を示すものが存在した(ST-11-1)。

12. 脛骨などから推定した男性の身長値は低身長値を示した。

13. 外耳道骨腫が3体に、頚椎癒合が1体(ST-16-2)に認められた。

14. 以上のように、男女とも本古墳人は南九州山間部タイプの古墳人であった。しかし、なかには狭・高顔傾向を示すものが認められたが、その出自は不明である。現在、古人骨から遺伝情報を得て、集団の解析を行なうために、DNAレベルの研究を東京大学と共同で進めている。将来はその結果を報告し、この特異な古墳人の出自や共同体の構成などを考察するための情報を提供したいと考えている。

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた宮崎県えびの市教育委員会社会教育課の諸先生方に感謝致します。

---

*Kazunobu SAIKI, Takayuki MATSUSHITA, Yoshiyuki ORIHARA
Department of Anatomy, Nagasaki University School of Medicine
〔長崎大学医学部解剖学第二教室(主任：内藤芳篤教授)〕
** Jouichi OYAMADA
Department of Oral Anatomy, Nagasaki University School of Dentistry
〔長崎大学歯学部口腔解剖学第二講座(主任：六反田篤教授)〕

表4　脳頭蓋計測値（男性、mm）　(Table 4. Comparison of male calvarial measurements and indices)

		広畑 古墳人		広畑 ST-06	南九州 山間部 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅰ 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅱ 古墳人 (松下)		灰塚 古墳人 (内藤)		平松 古墳人 (松下)		小木原 古墳人 (松下)	
		n	M		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	頭蓋最大長	4	189.50	176	15	181.13	4	176.75	1	171		—	2	174.50	1	179
8.	頭蓋最大幅	6	〔144.17〕	〔136〕	24	141.33	5	142.00	1	(130)	1	145	2	137.50	1	146
17.	バジオン・ブレグマ高	6	140.00	135	22	135.82	5	136.20	1	129	1	140	2	135.50		—
8/1	頭蓋長幅示数	4	〔76.24〕	〔77.27〕	9	77.17	4	80.88	1	(76.02)		—	2	78.81	1	81.56
17/1	頭蓋長高示数	4	74.01	76.70	12	75.02	4	76.47	1	75.44		—	2	77.34		—
17/8	頭蓋幅高示数	1	97.24	〔99.26〕	14	96.10	4	94.58	1	(99.23)	1	96.55	2	98.17		—
	頭蓋モズルス	4	〔158.08〕	〔149.00〕	8	150.92	4	151.50	1	(143.33)		—	2	149.00		—
23.	頭蓋水平周		—	—	8	512.75	2	513.50	1	499		—	1	502		—
24.	横弧長	1	326	—	16	308.81	5	310.00		—	1	321	2	302.50		—
25.	正中矢状弧長	4	390.67	367	8	371.63		—		—		—	1	355		—

表5　顔面頭蓋計測値（男性、mm、度）　(Table 5. Comparison of male facial measurements and indices)

		広畑 古墳人		広畑 ST-06	南九州 山間部 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅰ 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅱ 古墳人 (松下)		灰塚 古墳人 (内藤)		平松 古墳人 (松下)		小木原 古墳人 (松下)	
		n	M		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
40.	顔長	5	103.40	102	17	101.35	3	94.33	1	102	1	105	2	101.50	1	79
45.	頬骨弓幅	2	139.00	〔134〕	11	139.82	1	138	1	134			2	139.50	1	146
46.	中顔幅	2	105.00	〔96〕	20	102.30	1	98		—	1	102	2	103.50	1	108
47.	顔高	6	117.33	124	22	114.46	2	120.50	1	124	1	112	2	111.50		—
48.	上顔高	7	65.71	70	28	64.39	5	68.00	1	72	1	61	2	63.00	1	67
47/45	顔示数（K）	2	80.98	〔92.54〕	9	81.97	1	89.13	1	92.54		—	2	79.98		—
48/45	上顔示数（K）	2	45.76	〔52.24〕	9	46.08	1	47.83	1	53.73		—	2	45.22	1	45.89
47/46	顔示数（V）	2	107.16	〔129.17〕	16	111.96	1	125.51		—	1	109.80	2	107.77		—
48/46	上顔示数（V）	2	60.54	〔72.92〕	16	62.81	1	67.35		—	1	59.88	2	60.91	1	62.04
	顔面モズルス	2	117.50	〔120.00〕	7	116.57	1	114.67	1	120		—	2	117.50		—
51.	眼窩幅（左）	4	42.00	40	25	43.20	4	42.00	1	45	1	43	2	44.00	1	44
52.	眼窩高（左）	4	33.75	32	33	32.67	4	33.25	1	33	1	32	2	34.00	1	32
52/51	眼窩示数（左）	4	80.47	78.05	25	76.26	4	79.15	1	73.33	1	74.42	2	77.23	1	72.73
54.	鼻幅	6	28.00	25	34	27.53	5	25.40	1	28	1	27	2	28.00	1	29
55.	鼻高	6	49.67	52	34	49.50	6	52.00	1	52	1	42	2	51.00	1	50
54/55	鼻示数	6	56.55	48.08	32	55.61	5	49.58	1	53.85	1	62.29	2	54.93	1	58.00
72.	全側面角	5	83.80	83	26	83.37	3	83.33	1	82	1	84.5	2	81.00	1	82
73.	鼻側面角	5	87.20	88	29	87.29	5	88.60	1	85	1	93.5	2	87.50	1	87
74.	歯槽側面角	5	71.80	70	26	68.85	3	69.00	1	76	1	64	2	58.00	1	68

表6　鼻根部計測値(男性、mm、度)　(Table 6. Comparison of male nasal root measurements and indices)

		広畑 古墳人		広畑 ST-06	南九州 山間部 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅰ 古墳人 (松下)		南九州 平野部Ⅱ 古墳人 (松下)		灰塚 古墳人 (内藤)	
		n	M		n	M	n	M	n	M	n	M
50.	前眼窩間幅	5	20.20	17	34	18.91	6	18.50	1	17	1	22
	鼻根横弧長	4	25.75	22	29	22.55	6	21.50	1	21	1	24
	鼻根彎曲示数	4	79.67	77.27	29	83.48	6	86.17	1	80.95	1	94.67
57.	鼻骨最小幅	5	9.20	10	29	9.59	5	8.40	1	9		—
44.	両眼窩幅	3	99.67	93	20	100.80	1	93		—	1	97
50/44	眼窩間示数	3	20.41	18.28	19	18.96	1	18.28		—	1	22.68
	前頭突起上幅（右）	6	10.33	10	32	10.22	6	10.17	1	9	1	12
	（左）	5	11.20	11	30	10.03	6	10.33		—	1	11
	前頭突起水平傾斜角	2	64.50	—	18	81.72	4	79.75	1	80		—
	G－N投影距離	5	4.00	2	19	2.53	3	2.33		—		—
	鼻根角	5	132.80	138	20	135.75	2	140.00		—		—
	G－R距離	5	30.40	30	20	27.85	2	22.50		—		—
	垂線高	5	6.00	4	20	5.20	2	4.00		—		—
	鼻根陥凹示数	6	20.10	18.75	20	18.78	2	17.76		—		—

表7　大腿骨計測値（男性、右、mm）　(Table 7. Measurements and indices of male right femora)

		広畑 古墳人		灰塚 古墳人 (内藤)		菓子野 古墳人 (松下・他)		大萩 古墳人 (松下・他)		旭台 古墳人 (松下・他)		市ノ瀬 古墳人 (松下・他)		跡江 古墳人 (松下)		柿木原 古墳人 (松下・他)	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
6.	骨体中央矢状径	3	28.00	1	27	2	27.00	6	27.67	4	28.25	4	29.25	1	29	1	28
7.	骨体中央横径	4	26.50	1	25	2	26.00	6	25.33	4	27.00	4	26.75	1	25	1	28
8.	骨体中央周	3	86.00	1	84	2	85.00	6	83.33	4	87.75	3	85.67	1	86	1	89
9.	骨体上横径	1	28(左)		—	2	29.50	2	30.50	2	31.00	2	31.50	1	27	1	31
10.	骨体上矢状径	1	22(左)		—	2	23.50	2	22.50	2	25.00	2	23.50	1	25	1	26
6/7	骨体中央断面示数	2	108.10	1	108.00	2	105.06	6	109.40	4	104.88	4	109.32	1	116.00	1	100.00
10/9	上骨体断面示数	1	78.57(左)		—	2	81.01	2	73.76	2	80.84	2	74.70	1	92.59	1	83.87

表8　脛骨計測値（男性、右側、mm）（Table 8. Measurements and indices of male right tibiae）

		広畑 古墳人		菓子野 古墳人（松下・他）		大萩 古墳人（松下・他）		旭台 古墳人（松下・他）		市ノ瀬 古墳人（松下・他）		跡江 古墳人（松下）		柿木原 古墳人（松下・他）	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1a.	脛骨最大長	1	328(左)		—		—		—	2	364.00		—	1	371
2.	顆距間距離	1	313(左)	1	298	1	(340)		—	1	340		—	1	345
8.	中央最大径	1	30.00	2	30.50	4	29.00	4	30.25	2	32.50	1	29	1	30
8a.	栄養孔位最大径	2	35.50	2	34.00	3	32.00	3	33.00	1	35	1	33	1	34
9.	中央横径	2	22.50	2	21.00	4	20.25	4	22.50	2	22.00	1	21	1	19
9a.	栄養孔位横径	2	23.00	2	21.00	3	22.23	3	24.00	1	21	1	22	1	24
10.	骨体周	1	80.00	2	80.50	4	78.25	4	83.00	2	88.00(左)	1	79	1	80
10a.	栄養孔位周	2	93.50	2	89.00	3	87.33	3	92.00	1	94 (左)	1	87	1	94
10b.	最小周	1	73.00	2	71.00	3	74.00	2	74.00	1	72	1	72	1	76
9/8	中央断面示数	1	70.00	2	68.93	4	69.94	4	74.95	2	67.56	1	72.41	1	63.33
9a/8a	栄養孔位断面示数	2	64.79	2	62.00	3	69.96	3	72.96	1	60.00	1	66.67	1	70.59

表9　脳頭蓋計測値（女性、mm）（Table 9. Comparison of female calvarial measurements and indices）

		広畑 古墳人		大萩 古墳人（松下）		日守 古墳人（松下・他）		旭台 古墳人（松下・他）		菓子野 古墳人（松下・他）		市ノ瀬 古墳人（松下・他）	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	頭蓋最大長	4	176.25	3	173.50		—	2	179.50	1	176	1	166
8.	頭蓋最大幅	1	132	2	144.00		—	1	140	1	135	1	142
17.	バジオン・ブレグマ高	4	133.00	3	129.33	1	131	2	133.00	1	132	1	130
8/1	頭蓋長幅示数	4	〔77.21〕		—		—		—	1	76.70	1	85.54
17/1	頭蓋長高示数	4	74.10	2	74.07		—	1	72.57	1	75.00	1	78.31
17/8	頭蓋幅高示数	4	〔97.78〕	1	89.73		—		—	1	99.78	1	91.55
23.	頭蓋水平周		—		—		—		—	1	504	1	485
24.	横弧長		—	1	321	1	300	1	304	1	306	1	300
25.	正中矢状弧長	2	378.50	3	355.50		—	1	360	1	367	1	344

表10　顔面頭蓋計測値（女性、mm、度）（Table 10. Comparison of female facial measurements and indices）

	広畑古墳人		灰塚古墳人（内藤）		大萩古墳人（松下）		日守古墳人（松下・他）		上の原古墳人（松下）		旭台古墳人（松下・他）		菓子野古墳人（松下・他）		市ノ瀬古墳人（松下・他）	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
40.　顔長	3	96.33		—	3	100.67	1	103		—	1	95	1	100	1	91
45.　頬骨弓幅	6	〔131.00〕		—		—	1	134		—		—	1	129	1	136
46.　中顔幅	3	103.33		—	2	97.50	1	109	1	91	2	101.00	1	96	1	100
47.　顔高	3	104.67	1	112	3	109.33	1	109	1	106	3	109.67	1	110	1	110
48.　上顔高	6	61.00	1	60	4	59.50	1	60	2	(58.50)	2	62.00	1	61	1	65
47/45　顔示数（K）	3	〔78.63〕		—		—	1	81.34		—		—	1	85.27	1	80.88
48/45　上顔示数（K）	6	〔46.62〕		—		—	1	47.76		—		—	1	47.29	1	47.79
47/46　顔示数（V）	2	102.09		—	1	105.83	1	100.00	1	116.48	2	107.44	1	114.58	1	110.00
48/46　上顔示数（V）	3	60.09		—	1	59.78	1	58.72		—	2	61.39	1	63.54	1	65.00
51.　眼窩幅（左）	3	41.33	1	37	3	41.00	1	43	1	43	3	40.33	1	42	1	42
52.　眼窩高（左）	4	33.00	1	31	3	31.67	1	32	1	31	2	33.00	1	31	1	34
52/51　眼窩示数（左）	3	80.07	1	83.78	3	77.30	1	74.42	1	72.09	2	84.61	1	73.81	1	80.95
54.　鼻幅	6	25.67	1	26	4	26	1	28	1	26	4	26.75	1	26	1	28
55.　鼻高	5	46.40	1	45	5	45	1	50	2	44.50	2	49.00	1	44	1	49
54/55　鼻示数	5	57.75	1	55.32	4	55.57	1	56.00	1	57.78	2	55.47	1	59.09	1	57.14
72.　全側面角	5	81.20	1	80.5	4	84.25	1	83		—	2	80.00	1	83	1	85
73.　鼻側面角	4	85.00	1	91.5	3	89.00	1	85	1	88	3	85.67	1	87	1	91
74.　歯槽側面角	4	70.25	1	58.0	3	73.33	1	75		—	2	63.00	1	72	1	68

表11　鼻根部計測値（女性、mm、度）（Table 11. Comparison of female nasal root measurements and indices）

	広畑古墳人		灰塚古墳人（内藤）		大萩古墳人（松下）		日守古墳人（松下・他）		上の原古墳人（松下）		旭台古墳人（松下・他）		菓子野古墳人（松下・他）		市ノ瀬古墳人（松下・他）	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
50.　前眼窩間幅	6	19.17	1	22	5	18.40	1	21	2	18.00	3	20.00	1	18	1	16
鼻根横弧長	5	22.60	1	24	5	22.00	1	26	2	22.00	2	26.00	1	20	1	18
鼻根彎曲示数	5	83.77	1	91.67	5	83.78	1	80.77	2	82.91	2	82.74	1	90.00	1	88.89
57.　鼻骨最小幅	5	9.60		—	5	8.80	1	13	2	9.50	3	9.33	1	7	1	8
44.　両眼窩幅	2	100.50	1	97	2	95.00	1	103		—	2	96.50	1	96	1	95
50/44　眼窩間示数	2	19.38	1	22.68	2	17.90	1	20.39		—	2	20.29	1	18.75	1	16.84
前頭突起上幅（右）	5	8.60	1	12	5	10.60	1	11	2	9.00	2	9.50	1	10	1	9
（左）	6	8.67	1	11	4	11.25	1	10	2	9.50	4	10.25	1	10	1	8
前頭突起水平傾斜角		—		—	3	86.33	1	54	1	77	2	89.50	1	71	1	96
G－N投影距離	5	1.80		—	3	2.00	1	2	1	2	4	1.75	1	4	1	2
鼻根角	5	148.00		—	4	143.25	1	148	1	132	2	160.00	1	138	1	152
G－R距離	5	31.40		—	4	28.00	1	32	1	30	2	31.00	1	30	1	32
垂線高	5	4.20		—	4	4.25	1	4	1	6	2	2.50	1	5	1	3
鼻根陥凹示数	5	13.27		—	4	15.12	1	12.50	1	20.00	2	7.41	1	16.67	1	9.38

表12　大腿骨計測値（女性、右、mm）　(Table 12. Comparison of measurements and indices of female right femora)

		広畑古墳人		菓子野古墳人（松下・他）		大萩古墳人（松下・他）		旭台古墳人（松下・他）		市ノ瀬古墳人（松下・他）	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
6.	骨体中央矢状径	1	23	1	25	4	24.75	5	24.80	1	22
7.	骨体中央横径	1	23	1	23	4	23.50	5	24.40	1	24
8.	骨体中央周	1	72	1	78	4	77.00	5	78.20	1	73
9.	骨体上横径	1	25	1	29	4	27.75	3	27.00	2	28.00
10.	骨体上矢状径	1	20	1	22	4	21.75	3	21.67	2	21.00
6/7	骨体中央断面示数	1	100.00	1	108.70	4	105.63	5	102.12	1	91.67
10/9	上骨体断面示数	1	80.00	1	75.86	4	78.59	3	80.41	1	75.00

表13　脛骨計測値（女性、右、mm）　(Table 13. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

		広畑古墳人		菓子野古墳人（松下・他）		大萩古墳人（松下・他）		旭台古墳人（松下・他）		市ノ瀬古墳人（松下・他）	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
8.	中央最大径	1	26	1	27	2	26.50	3	27.33	1	25
8a.	栄養孔位最大径	1	27	1	30	2	30.00	3	31.00	1	26
9.	中央横径	1	20	1	20	2	18.00	3	19.33	1	17
9a.	栄養孔位横径	1	21	1	20	2	21.50	3	21.67	1	19
10.	骨体周	1	72	1	73	2	73.00	3	73.00	1	66
10a.	栄養孔位周	1	75	1	78	2	80.50	3	83.67	1	73
10b.	最小周	1	64	1	65	1	64	1	69	1	60
9/8	中央断面示数	1	76.92	1	74.07	2	68.15	3	70.72	1	68.00
9a/8a	栄養孔位断面示数	1	77.78	1	66.67	2	71.67	3	69.84	1	73.08

表 14 脳頭蓋計測値(Calvaria) (単位：mm、度)

		広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-11-2 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-15 男性	広畑 ST-16-2 男性	広畑 平均 男性			広畑 平均* 男性		
									n	M	S.D.	n	M	S.D.
1.	頭蓋最大長	186	—	176	188	191	193	—	4	189.50	3.11			
8.	頭蓋最大幅	〔146〕	〔140〕	〔136〕	〔138〕	〔142〕	〔154〕	145	1	145		〔6	144.17	5.67〕
17.	バジオン・ブレグマ高	138	138	135	138	142	143	141	6	140.00	2.28			
8/1	頭蓋長幅示数	〔78.49〕	—	〔77.27〕	〔72.34〕	〔74.35〕	〔79.79〕	—		—		〔4	76.24	3.49〕
17/1	頭蓋長高示数	74.19	—	76.70	73.40	74.35	74.09	—	4	74.01	0.42			
17/8	頭蓋幅高示数	〔94.52〕	〔98.57〕	〔99.26〕	〔101.47〕	〔100.00〕	〔92.86〕	97.24	1	97.24		〔6	97.20	2.95〕
	頭蓋モズルス	156.67	—	〔149.00〕	〔154.00〕	〔158.33〕	〔163.33〕	—		—		〔4	158.08	3.93〕
5.	頭蓋底長	103	102	100	107	107	105	106	6	105.00	2.10			
9.	最小前頭幅	—	94	94	98	—	—	95	3	95.67				
10.	最大前頭幅	—	121	—	122	—	—	119	3	120.67				
11.	両耳幅	—	—	—	—	—	—	135	1	135.00				
12.	最大後頭幅	—	—	—	—	—	—	—		—				
13.	乳突幅	—	—	—	—	—	—	114	1	114.00				
7.	大後頭孔長	31	—	34	33	39	36	—	4	34.75	3.50			
16.	大後頭孔幅	30	—	—	26	31	31	—	4	29.50	2.38			
16/7	大後頭孔示数	96.77	—	—	78.79	79.49	86.11	—	4	85.29	8.33			
23.	頭蓋水平周	—	—	—	—	—	—	—		—				
24.	横弧長	—	—	—	—	—	—	326	1	326.00				
25.	正中矢状弧長	393	—	367	385	—	394	—	3	390.67				
26.	正中矢状前頭弧長	126	135	131	128	127	138	120	6	129.	6.51			
27.	正中矢状頭頂弧長	147	—	123	135	—	140	—	3	140.67				
28.	正中矢状後頭弧長	120	—	113	122	122	116	—	4	120.00	2.83			
29.	正中矢状前頭弦長	110	115	111	113	110	120	103	6	111.83	5.71			
30.	正中矢状頭頂弦長	128	—	107	120	119	123	—	4	122.50	4.04			
31.	正中矢状後頭弦長	102	—	97	99	103	97	—	4	100.25	2.75			
29/26	矢状前頭示数	87.30	85.19	84.73	88.28	86.61	86.96	85.83	6	86.70	1.09			
30/27	矢状頭頂示数	87.07	—	86.99	88.89	—	87.86	—	3	87.94				
31/28	矢状後頭示数	85.00	—	85.84	81.15	84.43	83.62	—	4	83.55	1.70			
	Vertex Rad.	—	—	—	—	—	—	129	1	129.00				
	Nasion Rad.	—	—	—	—	—	—	96	1	96.00				
	Subsp. Rad.	—	—	—	—	—	—	94	1	94.00				
	Prosth. Rad.	—	—	—	—	—	—	97	1	97.00				

平均値はST-06を除いた平均、＊：復元値＝〔 〕を含めた平均

表 15 脳頭蓋計測値(Calvaria) (単位：mm、度)

		広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-2 女性	広畑 ST-11-3 女性	広畑 ST-13-1 女性	広畑 平均 女性 n	M	S.D.	広畑 平均* 女性 n	M	S.D.
1.	頭蓋最大長	—	—	168	182	176	179	4	176.25	6.02			
8.	頭蓋最大幅	132	—	〔134〕	〔138〕	〔136〕	〔136〕	1	132		〔5	135.20	2.28〕
17.	バジオン・ブレグマ高	—	—	129	138	128	137	4	133.00	5.23			
8/1	頭蓋長幅示数	—	—	〔79.76〕	〔75.82〕	〔77.27〕	〔75.98〕		—		〔4	77.21	1.82〕
17/1	頭蓋長高示数	—	—	76.79	70.33	72.73	76.54	4	74.10	3.12			
17/8	頭蓋幅高示数	—	—	〔96.27〕	〔100.00〕	〔94.12〕	〔100.74〕		—		〔4	97.78	3.13〕
	頭蓋モズルス	—	—	〔143.67〕	〔152.67〕	〔146.67〕	〔150.67〕		—		〔4	148.42	4.03〕
5.	頭蓋底長	—	—	93	102	95	95	4	96.25	3.95			
9.	最小前頭幅	—	91	—	98	92	—	3	93.67				
10.	最大前頭幅	—	116	—	—	114	—	2	115.00				
11.	両耳幅	—	—	—	—	—	—		—				
12.	最大後頭幅	—	—	—	—	—	—		—				
13.	乳突幅	—	—	—	—	—	—		—				
7.	大後頭孔長	—	—	34	32	—	34	3	33.33				
16.	大後頭孔幅	—	—	—	30	—	29	2	29.50				
16/7	大後頭孔示数	—	—	—	93.75	—	85.29	2	89.52				
23.	頭蓋水平周	—	—	—	—	—	—		—				
24.	横弧長	—	—	—	—	—	—		—				
25.	正中矢状弧長	—	—	—	382	—	375	2	378.50				
26.	正中矢状前頭弧長	122	124	126	128	124	127	6	125.17	2.23			
27.	正中矢状頭頂弧長	—	—	—	127	115	128	3	123.33				
28.	正中矢状後頭弧長	—	—	—	127	—	120	2	123.50				
29.	正中矢状前頭弦長	108	112	108	113	109	108	6	109.67	2.25			
30.	正中矢状頭頂弦長	—	—	—	114	103	113	3	110.00				
31.	正中矢状後頭弦長	—	—	—	105	—	99	2	102.00				
29/26	矢状前頭示数	88.52	90.32	85.71	88.28	87.90	85.04	6	87.63	1.95			
30/27	矢状頭頂示数	—	—	—	89.76	89.57	88.28	3	89.20				
31/28	矢状後頭示数	—	—	—	82.68	—	82.50	2	82.59				
	Vertex Rad.	—	—	—	—	—	—		—				
	Nasion Rad.	—	—	—	—	—	—		—				
	Subsp. Rad.	—	—	—	—	—	—		—				
	Prosth. Rad.	—	—	—	—	—	—		—				

＊：復元値＝〔 〕を含めた平均

表 16 顔面頭蓋計測値 (Facial skelton) (単位：mm、度)

		広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-10 男性	広畑 ST-11-1 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-15 男性	広畑 ST-16-2 男性	広畑 平均 男性			広畑 平均＊ 男性		
										n	M	S.D.	n	M	S.D.
40.	顔長	102	102	102	—	108	105	—	100	5	103.40	3.13			
41.	側顔長	72	68	72(右)	—	76	72(右)	78(右)	74	4	72.50	3.42			
42.	下顔長	116	105	111	—	112	—	—	118	4	112.75	5.74			
43.	上顔幅	—	103	102	—	114	—	—	110	3	109.00				
45.	頬骨弓幅	〔142〕	134	〔134〕	—	〔142〕	〔136〕	—	144	2	139.00		〔5	139.60	4.34〕
46.	中顔幅	〔104〕	102	〔96〕	〔106〕	〔108〕	〔100〕	—	108	2	105.00		〔6	104.67	3.27〕
47.	顔高	113	110	124	—	121	(121)	—	115	5	116.00	4.90			
48.	上顔高	66	64	70	62	69	66	—	63	6	65.00	2.53			
47/45	顔示数（K）	〔79.58〕	82.09	〔92.54〕	—	〔85.21〕	〔88.97〕	—	79.86	2	80.98		〔5	83.14	3.96〕
48/45	上顔示数（K）	〔46.48〕	47.76	〔52.24〕	—	〔48.59〕	〔48.53〕	—	43.75	2	45.76		〔5	47.02	2.02〕
47/46	顔示数（V）	〔108.65〕	107.84	〔129.17〕	—	〔112.04〕	〔121.00〕	—	106.48	2	107.16		〔6	111.20	5.85〕
48/46	上顔示数（V）	〔63.46〕	62.75	〔72.92〕	〔58.49〕	〔63.89〕	〔66.00〕	—	58.33	2	60.54		〔6	62.15	3.10〕
	顔面モズルス	〔119.67〕	115.33	〔120.00〕	—	〔123.67〕	〔120.67〕	—	119.67	2	117.50		〔5	119.80	2.99〕
51.	眼窩幅（右）	—	42	41	44	42	43	—	44	5	43.00	1.00			
	（左）	42	40	40	—	42	—	—	44	4	42.00	1.63			
52.	眼窩高（右）	—	32	32	32	36	32	—	32	5	32.80	1.79			
	（左）	34	33	32	—	36	—	—	32	4	33.75	1.71			
52/51	眼窩示数（右）	—	76.19	78.05	72.73	85.71	74.42	—	72.73	5	76.36	5.42			
	（左）	80.95	82.50	80.00	—	85.71	—	—	72.73	4	80.47	5.53			
54.	鼻幅	27	27	25	32	30	26	—	26	6	28.00	2.45			
55.	鼻高	50	49	52	46	54	49	—	50	6	49.67	2.58			
54/55	鼻示数	54.00	55.10	48.08	69.57	55.56	53.06	—	52.00	6	56.55	6.51			
55(1)	梨状口高	31	30	31	—	35	33	—	32	5	32.20	1.92			
56.	鼻骨長	23	22	25	—	22	21	—	20	5	21.60	1.14			
57.	鼻骨最小幅	9	9	10	—	12	8	—	8	5	9.20	1.64			
57(1)	鼻骨最大幅	17	16	18	—	18	19	—	17	5	17.40	1.14			
60.	上顎歯槽長	—	56	57	—	—	55	—	50	3	53.67				
61.	上顎歯槽幅	—	69	66	—	—	71	—	65	3	68.33				
62.	口蓋長	45	44	47	—	51	47	—	45	5	46.40				
63.	口蓋幅	—	39	38	—	—	39	—	41	3	39.67				
64.	口蓋高	—	12	12	—	—	14	—	12	3	12.67				
61/60	上顎歯槽示数	—	123.21	115.79	—	—	129.09	—	130.00	3	127.43				
63/62	口蓋示数	—	88.64	80.85	—	—	82.98	—	91.11	3	87.58				
64/63	口蓋高示数	—	30.77	31.58	—	—	35.90	—	29.27	3	31.98				
72.	全側面角	81	86	83	—	82	82	—	88	5	83.80	3.03			
73.	鼻側面角	86	88	88	—	87	86	—	89	5	87.20	1.30			
74.	歯槽側面角	66	79	70	—	58	70	—	86	5	71.80	10.96			

平均値はST-06を除いた平均、＊：復元値＝〔 〕を含めた平均

表 17　顔面頭蓋計測値（Facial skelton）　（単位：mm、度）

	広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-2 女性	広畑 ST-11-3 女性	広畑 ST-13-1 女性	広畑 平均 女性 n	M	S.D.	広畑 平均* 女性 n	M	S.D.
40. 顔長	—	—	96	100	—	93	3	96.33				
41. 側顔長	66(右)	71(右)	70(右)	75	73	72(右)	2	74.00				
42. 下顔長	—	—	99	107	110	—	3	105.33				
43. 上顔幅	—	105	—	111	107	—	3	107.67				
45. 頬骨弓幅	〔124〕	〔132〕	〔126〕	〔136〕	〔138〕	〔130〕		—		〔6	131.00	5.48〕
46. 中顔幅	〔88〕	105	〔96〕	98	107	〔96〕	3	103.33		〔6	98.33	6.89〕
47. 顔高	—	—	105	103	106	—	3	104.67				
48. 上顔高	61	62	61	62	62	58	6	61.00	1.55			
47/45 顔示数（K）	—	—	〔83.33〕	〔75.74〕	〔76.81〕	—		—		〔3	78.63〕	
48/45 上顔示数（K）	〔49.19〕	〔46.97〕	〔48.41〕	〔45.59〕	〔44.93〕	〔44.62〕		—		〔6	46.62	1.89〕
47/46 顔示数（V）	—	—	〔109.38〕	105.10	99.07	—	2	102.09		〔3	104.52〕	
48/46 上顔示数（V）	〔69.32〕	59.05	〔63.54〕	63.27	57.94	〔60.42〕	3	60.09		〔6	62.26	4.12〕
顔面モズルス	—	—	〔109.00〕	〔113.00〕	—	—		—		〔2	111.00〕	
51. 眼窩幅（右）	42	41	40	43	—	40	5	41.20	1.30			
（左）	—	42	—	43	39	—	3	41.33				
52. 眼窩高（右）	33	34	32	33	35	—	5	33.40	1.14			
（左）	33	34	—	31	34	—	4	33.00	1.41			
52/51 眼窩示数（右）	78.57	82.97	80.00	76.74	—	—	4	79.57	2.63			
（左）	—	80.95	—	72.09	87.18	—	3	80.07				
54. 鼻幅	23	27	20	29	29	26	6	25.67	3.56			
55. 鼻高	45	48	—	46	46	47	5	46.40	1.14			
54/55 鼻示数	51.11	56.25	—	63.04	63.04	55.32	5	57.75	5.20			
55(1) 梨状口高	29	30	—	27	24	—	4	27.50	2.65			
56. 鼻骨長	18	21	19	20	24	—	5	20.40	2.30			
57. 鼻骨最小幅	8	9	8	12	11	—	5	9.60	1.82			
57(1) 鼻骨最大幅	—	16	—	17	19	—	3	17.33				
60. 上顎歯槽長	—	—	54	55	—	—	2	54.50				
61. 上顎歯槽幅	—	64	—	—	66	—	2	65.00				
62. 口蓋長	46	42	—	47	45	—	4	45.00	2.16			
63. 口蓋幅	38	—	39	—	40	—	3	39.00				
64. 口蓋高	12	—	—	—	12	—	2	12.00				
61/60 上顎歯槽示数	—	—	—	—	—	—		—				
63/62 口蓋示数	82.61	—	—	—	88.89	—	2	85.75				
64/63 口蓋高示数	31.58	—	—	—	30.00	—	2	30.79				
72. 全側面角	77	84	81	84	80	—	5	81.20	2.95			
73. 鼻側面角	79	86	—	90	85	—	4	85.00	4.55			
74. 歯槽側面角	72	80	—	63	66	—	4	70.25	7.50			

＊：復元値＝〔　〕を含めた平均

表 18 鼻根部計測値 (Nasal root) (単位：mm、度)

		広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-10 男性	広畑 ST-11-1 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-16-2 男性	広畑 平均 男性 n	M	S.D.
50.	前眼窩間幅	20	19	17	20	22	—	20	5	20.20	1.10
	鼻根横弧長	25	25	22	—	26	—	27	4	25.75	0.96
	鼻根彎曲示数	80.00	76.00	77.27	—	84.62	—	74.07	4	78.67	4.67
57.	鼻骨最小幅	9	9	10	—	12	8	8	5	9.20	1.64
44.	両眼窩幅	—	97	93	—	99	—	103	3	99.67	
50/44	眼窩間示数	—	19.59	18.28	—	22.22	—	19.42	3	20.41	
	前頭突起上幅 (右)	11	9	10	12	12	8	10	6	10.33	1.63
	(左)	11	8	11	13	13	—	11	5	11.20	2.05
	前頭突起水平傾斜角	—	—	—	—	68	—	61	2	64.50	
	G－N投影距離	3	4	2	—	2	6	5	5	4.00	1.58
	鼻根角	135	144	138	—	148	119	118	5	132.80	13.88
	G－R距離	31	32	30	—	33	29	27	5	30.40	2.41
	垂線高	5	6	4	—	4	8	7	5	6.00	1.58
	鼻根陥凹示数	16.13	18.75	13.33	—	12.12	27.59	25.93	6	20.10	6.55

平均値はST-06を除く

表 19 鼻根部計測値 (Nasal root) (単位：mm、度)

		広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-2 女性	広畑 ST-11-3 女性	広畑 ST-13-1 女性	広畑 平均 女性 n	M	S.D.
50.	前眼窩間幅	15	18	19	21	22	20	6	19.17	2.48
	鼻根横弧長	20	22	22	25	24	—	5	22.60	1.95
	鼻根彎曲示数	75.00	81.82	86.36	84.00	91.67	—	5	83.77	6.12
57.	鼻骨最小幅	8	9	8	12	11	—	5	9.60	1.82
44.	両眼窩幅	—	97	—	104	—	—	2	100.50	
50/44	眼窩間示数	—	18.56	—	20.19	—	—	2	19.38	
	前頭突起上幅 (右)	8	11	8	8	8	—	5	8.60	1.34
	(左)	8	10	7	9	9	9	6	8.67	1.03
	前頭突起水平傾斜角	—	—	—	—	—	—		—	
	G－N投影距離	0	1	3	2	3	—	5	1.80	1.30
	鼻根角	149	145	149	154	143	—	5	148.00	4.24
	G－R距離	31	34	31	28	33	—	5	31.40	2.30
	垂線高	4	5	4	3	5	—	5	4.20	0.84
	鼻根陥凹示数	12.90	14.71	12.90	10.71	15.15	—	5	13.27	1.76

表　20　下顎骨計測値（Mandible）　（単位：mm、度）

		広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-10 男性	広畑 ST-11-1 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-16-2 男性	広畑 平均 男性 n	M	S.D.
65.	下顎関節突起幅	—	—	—	—	—	—	135	1	135	
65(1).	下顎筋突起幅	—	—	—	—	—	—	107	1	107	
67.	前下顎幅	—	46	49	—	50	—	52	3	49.33	
69.	オトガイ高	29	31	35	—	38	—	32	4	32.50	3.87
69(1).	下顎体高（右）	—	27	34	—	—	35	30	3	30.67	
	（左）	29	27	—	—	31	—	30	4	29.25	1.71
69(2).	下顎体高（右）	—	—	(27)	—	—	31	27	2	29.00	
	（左）	26	20	—	—	23	—	26	4	23.75	2.87
70.	枝高（右）	—	—	59	—	—	66	—	1	66	
	（左）	62	52	—	—	—	—	—	2	57.00	
70(1).	前枝高（右）	—	—	65	—	—	64	—	1	64	
	（左）	65	55	—	—	—	—	—	2	60.00	
70(2).	最小枝高（右）	—	—	54	—	—	54	—	1	54	
	（左）	51	46	—	—	—	—	56	3	51.00	
70(3).	下顎切痕高（右）	—	—	14	13	—	16	15	3	14.67	
	（左）	15	12	—	—	—	—	14	3	13.67	
71.	枝幅（右）	—	—	36	40	—	35	35	3	36.67	
	（左）	33	28	—	—	—	—	35	3	32.00	—
71a.	最小枝幅（右）	—	—	36	39	—	34	35	3	36.00	
	（左）	32	28	—	—	—	—	35	3	31.67	
71(1).	下顎切痕幅（右）	—	—	33	40	—	36	34	3	36.67	
	（左）	40	32	—	—	—	—	36	3	36.00	
79.	下顎枝角（右）	—	—	127	—	—	113	—	1	113	
	（左）	119	126	—	—	—	—	—	2	122.50	
69(2)/69	下顎高示数（右）	—	—	(77.14)	—	60.53	—	84.38	2	72.46	
	（左）	89.66	64.52	—	—	—	—	81.25	3	78.48	
71/70	下顎枝示数（右）	—	—	61.02	—	—	53.03	—	1	53.03	
	（左）	53.23	53.85	—	—	—	—	—	2	53.54	
71a/70(2)	下顎枝示数（右）	—	—	66.67	—	—	62.96	—	1	62.96	
	（左）	62.75	60.87	—	—	—	—	62.50	3	62.04	
70(3)/71(1)	下顎切痕示数（右）	—	—	42.42	32.50	—	44.44	44.12	3	40.35	
	（左）	37.50	37.50	—	—	—	—	38.89	3	37.96	

平均値はST-06を除く

表　21　下顎計測値（Mandible）　（単位：mm、度）

			広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-2 女性	広畑 ST-11-3 女性	広畑 平均 女性 n	M
69.	オトガイ高		—	32	28	28	3	29.33
69(1).	下顎体高	（右）	—	27	—	—	1	27
		（左）	—	—	27	—	1	27
69(2).	下顎体高	（右）	—	20	—	—	1	20
		（左）	—	—	—	—		—
70(1).	前枝高	（右）	—	—	—	—		—
		（左）	—	—	60	—	1	60
70(2).	最小枝高	（右）	—	—	—	—		—
		（左）	—	—	49	—	1	49
70(3).	下顎切痕高	（右）	14	13	—	—	2	13.50
		（左）	—	—	13	14	2	13.50
71.	枝幅	（右）	—	—	—	—		—
		（左）	—	—	33	—	1	33
71a.	最小枝幅	（右）	—	—	—	—		—
		（左）	—	—	33	—	1	33
71(1).	下顎切痕幅	（右）	32	35	—	—	2	33.50
		（左）	—	—	39	39	2	39.00
69(2)/69	下顎高示数	（右）	—	62.50	—	—	1	62.50
		（左）	—	—	—	—		—
71a/70(2)	下顎枝示数	（右）	—	—	—	—		—
		（左）	—	—	67.35	—	1	67.35
70(3)/71(1)	下顎切痕示数	（右）	43.75	37.14	—	—	2	40.45
		（左）	—	—	33.33	35.90	2	34.62

表　22　鎖骨計測値（Clavicula）　（単位：mm）

			広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-08-1 男性	広畑 平均 男性 n	M
4.	中央垂直径	（右）	9	—	—	1	9
		（左）	—	11	10	2	10.50
5.	中央矢状径	（右）	12	—	—	1	12
		（左）	—	12	14	2	13.00
6.	中央周	（右）	34	—	—	1	34
		（左）	—	37	41	2	39.00
4/5	鎖骨断面示数	（右）	75.00	—	—	1	75.00
		（左）	—	91.67	71.43	2	81.55

表　23　肩甲骨計測値（Scapula）　（単位：mm）

			広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-11-3 女性
11.	烏口突起最大長	（右）	40	—	—
		（左）	41	42	—
12.	関節窩長	（右）	—	—	—
		（左）	35	—	34
13.	関節窩幅	（右）	—	—	—
		（左）	23	—	23
14.	関節窩深	（右）	—	—	—
		（左）	4	—	3
13/12	関節窩長幅示数	（右）	—	—	—
		（左）	65.71	—	67.65
14/12	関節窩彎曲示数	（右）	—	—	—
		（左）	11.43	—	8.82

表　24　上腕骨計測値（Humerus）　（単位：mm）

		広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-11-3 女性
1.	上腕骨最大長（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	270	—	—	—
2.	上腕骨全長　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	266	—	—	—
3.	上　端　幅　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	—	40	—	—
4.	下　端　幅　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	53	—	—	—
5.	中央最大径　（右）	25	—	—	21	—
	（左）	—	22	20	—	23
6.	中央最小径　（右）	15	—	—	16	—
	（左）	—	16	15	—	15
7.	骨体最小周　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	58	—	—	—
7(a).	中　央　周　（右）	69	—	—	64	—
	（左）	—	63	58	—	65
8.	頭　　周　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	—	—	—	126
9.	頭最大横径　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	—	36	—	39
10.	頭最大矢状径（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	42	—	—	41
11.	滑　車　幅　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	20	—	—	—
12.	小　頭　幅　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	16	—	—	—
13.	滑　車　深　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	24	—	—	—
14.	尺骨頭窩幅　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	28	—	—	—
15.	尺骨頭窩深　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	12	—	—	—
6/5	骨体断面示数（右）	60.00	—	—	76.19	—
	（左）	—	72.73	75.00	—	65.22
7/1	長厚示数　（右）	—	—	—	—	—
	（左）	—	21.48	—	—	—

表 25　橈骨計測値（Radius）　（単位：mm）

		広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-08-2 男性	広畑 ST-19 男性	広畑 平均 男性 n	M	S.D.
1. 最大長	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	209	—	—	—	1	209	
1b. 平行長	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	204	—	—	—	1	204	
2. 機能長	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	197	—	—	—	1	197	
3. 最小周	(右)	—	39	—	—	1	39	
	(左)	42	41	43	45	4	42.75	1.71
4. 骨体横径	(右)	—	15	—	—		—	
	(左)	16	15	—	16	3	15.67	
4a. 骨体中央横径	(右)	—	14	—	—		—	
	(左)	16	15	18	16	4	16.25	1.26
4(1). 小頭横径	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	22	—	—	—	1	22	
4(2). 頚横径	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	15	—	—	—	1	15	
5. 骨体矢状径	(右)	—	13	—	—	1	13	
	(左)	11	13	—	13	3	12.33	
5a. 骨体中央矢状径	(右)	—	13	—	—	1	13	
	(左)	11	13	12	14	4	12.50	1.29
5(1). 小頭矢状径	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	23	—	—	—	1	23	
5(2). 頚矢状径	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	15	—	—	—	1	15	
5(3). 小頭周	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	71	—	—	—	1	71	
5(4). 頚周	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	47	—	—	—	1	47	
5(5). 骨体中央周	(右)	—	43	—	—	1	43	
	(左)	43	43	46	46	4	44.50	1.73
5(6). 骨下端幅	(右)	—	—	—	34	1	34	
	(左)	—	—	—	—		—	
3/2 長厚示数	(右)	—	—	—	—		—	
	(左)	21.32	—	—	—	1	21.32	
5/4 骨体断面示数	(右)	—	86.67	—	—	1	86.67	
	(左)	68.75	86.67	—	81.25	3	77.56	
5a/4a 中央断面示数	(右)	—	92.86	—	—	1	92.86	
	(左)	68.75	86.67	66.67	87.50	4	77.40	11.22

表　26　橈骨計測値（Radius）　（単位：mm）

			広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-11-3 女性
3.	最小周	（右）	40	—
		（左）	—	40
4.	骨体横径	（右）	18	—
		（左）	—	17
4a.	骨体中央横径	（右）	17	—
		（左）	—	17
5.	骨体矢状径	（右）	10	—
		（左）	—	10
5a.	骨体中央矢状径	（右）	10	—
		（左）	—	10
5(5).	骨体中央周	（右）	44	—
		（左）	—	—
5/4	骨体断面示数	（右）	55.56	—
		（左）	—	58.82
5a/4a	中央断面示数	（右）	58.82	—
		（左）	—	58.82

表　27　尺骨計測値（Ulna）　（単位：mm）

			広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-02-2 女性	広畑 ST-11-3 女性
2.	機能長	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	202	—	—
3.	最小周	（右）	—	—	35	—
		（左）	35	32	—	34
11.	尺骨矢状径	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	13	—	12
12.	尺骨横径	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	16	—	15
S.	中央最小径	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	12	—	10
L.	中央最大径	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	17	—	15
C.	中央周	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	48	—	43
3/2	長厚示数	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	15.84	—	—
11/12	骨体断面示数	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	81.25	—	80.00
S/L	中央断面示数	（右）	—	—	—	—
		（左）	—	70.59	—	66.67

表 28 大腿骨計測値（Femur）

（単位：mm）

		広畑 ST-01-1 男性	広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-3 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-11-1 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-15 男性	広畑 ST-16-2 男性	広畑 ST-17-1 男性	広畑 ST-19 男性	広畑 平均 男性 n	M	S.D.
6.	骨体中央矢状径（右）	—	—	—	27	—	—	—	—	28	29	3	28.00	
	（左）	27	25	25	28	29	27	—	—	—	—	6	26.83	1.60
7.	骨体中央横径（右）	—	—	—	24	—	—	—	26	27	29	4	26.50	2.08
	（左）	25	23	23	24	—	27	27	—	—	—	6	24.83	1.83
8.	骨体中央周（右）	—	—	—	81	—	—	—	—	87	90	3	86.00	
	（左）	81	77	77	84	—	85	—	—	—	—	5	80.80	3.77
9.	骨体上横径（右）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	（左）	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	1	28	
10.	骨体上矢状径（右）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	（左）	—	22	—	—	—	—	—	—	—	—	1	22	
15.	頚垂直径（右）	—	—	—	31	—	—	—	—	—	—	1	31	
	（左）	—	—	—	—	33	—	—	—	—	—	1	33	
16.	頚矢状径（右）	—	—	—	24	—	—	—	—	—	—	1	24	
	（左）	—	—	—	—	29	—	—	—	—	—	1	29	
17.	頚周（右）	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	1	90	
	（左）	—	—	—	—	98	—	—	—	—	—	1	98	
18.	頭垂直径（右）	—	—	—	44	—	—	—	—	—	—	1	44	
	（左）	—	—	—	41	—	—	—	—	—	—	1	41	
19.	頭横径（右）	—	—	—	43	—	—	—	—	—	—	1	43	
	（左）	—	—	—	42	45	—	—	—	—	—	2	43.50	
20.	頭周（右）	—	—	—	138	—	—	—	—	—	—	1	138	
	（左）	—	—	—	134	—	—	—	—	—	—	1	134	
6/7	骨体中央断面示数（右）	—	—	—	112.50	—	—	—	—	103.70	100.00	3	105.40	
	（左）	108.00	108.70	108.70	116.67	—	100.00	—	—	—	—	5	108.41	5.90
10/9	上骨体断面示数（右）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	（左）	—	78.57	—	—	—	—	—	—	—	—	1	78.57	
16/15	頚断面示数（右）	—	—	—	77.42	—	—	—	—	—	—	1	77.42	
	（左）	—	—	—	—	87.88	—	—	—	—	—	1	87.88	
19/18	頭断面示数（右）	—	—	—	97.73	—	—	—	—	—	—	1	97.73	
	（左）	—	—	—	102.44	—	—	—	—	—	—	1	102.44	

表 29　大腿骨計測値（femur）　（単位：mm）

		広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-2 女性	広畑 ST-1-3 女性	広畑 平均 女性 n	M	S.D.
6.	骨体中央矢状径（右）	—	23	—	—	1	23	
	（左）	23	24	29	27	4	25.75	2.75
7.	骨体中央横径（右）	—	23	—	—	1	23	
	（左）	25	24	28	24	4	25.25	1.89
8.	骨体中央周（右）	—	72	—	—	1	72	
	（左）	75	74	87	82	4	79.50	6.14
9.	骨体上横径（右）	—	25	—	—	1	25	
	（左）	—	—	—	28	1	28	
10.	骨体上矢状径（右）	—	20	—	—	1	20	
	（左）	—	—	—	25	1	25	
6/7	骨体中央断面示数（右）	—	100.00	—	—	1	100.00	
	（左）	92.00	100.00	103.57	112.50	4	102.02	8.50
10/9	上骨体断面示数（右）	—	80.00	—	—	1	80.00	
	（左）	—	—	—	89.29	1	89.29	

表 31　脛骨計測値（Tibia）　（単位：mm）

		広畑 ST-04 女性	広畑 ST-11-3 女性
8.	中央最大径（右）	—	26
	（左）	—	25
8a.	栄養孔位最大径（右）	27	—
	（左）	—	30
9.	中央横径（右）	—	20
	（左）	—	20
9a.	栄養孔位横径（右）	21	—
	（左）	—	22
10.	骨体周（右）	—	72
	（左）	—	72
10a.	栄養孔位周（右）	75	—
	（左）	—	82
10b.	最小周（右）	—	64
	（左）	—	66
9/8	中央断面示数（右）	—	76.92
	（左）	—	80.00
9a/8a	栄養孔位断面示数（右）	77.78	—
	（左）	—	73.33

表 32　腓骨計測値（Fibula）　（単位：mm）

		広畑 ST-01-2 男性	広畑 ST-02-1 女性	広畑 ST-11-3 女性
1.	最大長（右）	—	—	—
	（左）	—	—	—
2.	中央最大径（右）	—	—	13
	（左）	15	14	13
3.	中央最小周（右）	—	—	9
	（左）	12	7	10
4.	中央周（右）	—	—	36
	（左）	46	35	36
4a.	最小周（右）	—	—	—
	（左）	—	—	31
3/2	中央断面示数（右）	80.00	50.00	69.23
	（左）	—	—	76.92

表 30 脛骨計測値 (Tibia)

(単位：mm)

		広畑 ST-01-1 男性	広畑 ST-01-2 男性	広畑 ST-05-1 男性	広畑 ST-05-2 男性	広畑 ST-06 男性	広畑 ST-13-2 男性	広畑 ST-17-1 男性	広畑 ST-19 男性	広畑 平均 男性 n	M	S.D.
1a. 脛骨最大長	(右)	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	(左)	—	—	—	—	—	(328)	—	—	1	328	
2. 顆距間距離	(右)	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	(左)	—	—	—	—	—	313	—	—	1	313	
3. 最大上端幅	(右)	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	(左)	—	—	—	71	—	—	—	—	1	71	
3a. 上内関節面幅	(右)	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	(左)	—	—	—	29	30	32	—	—	3	30.33	
3b. 上外関節面幅	(右)	30	—	—	—	—	—	—	—	1	30	
	(左)	—	—	—	28	—	—	—	—	1	28	
4a. 上内関節面深	(右)	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
	(左)	—	—	—	—	46	—	—	—	1	46	
8. 中央最大径	(右)	—	30	—	—	—	—	—	—	1	30	
	(左)	—	29	25	27	—	—	30	—	4	27.75	2.25
8a. 栄養孔位最大径	(右)	37	34	—	—	—	—	—	—	2	35.50	
	(左)	—	35	30	30	34	—	—	—	4	32.25	2.63
9. 中央横径	(右)	—	21	—	—	—	—	—	24	2	22.50	
	(左)	—	21	19	19	—	—	20	—	4	19.75	0.96
9a. 栄養孔位横径	(右)	24	22	—	—	—	—	—	—	2	23.00	
	(左)	—	23	20	20	—	22	—	—	4	21.25	1.50
10. 骨体周	(右)	—	80	—	—	—	—	—	—	1	80	
	(左)	—	80	69	75	—	—	82	—	4	76.50	5.80
10a. 栄養孔位周	(右)	97	90	—	—	—	—	—	—	2	93.50	
	(左)	—	91	81	81	—	—	—	—	3	84.33	
10b. 最小周	(右)	—	73	—	—	—	—	—	—	1	73	
	(左)	—	73	—	—	—	70	73	—	3	72.00	
9/8 中央断面示数	(右)	—	70.00	—	—	—	—	—	—	1	70.00	
	(左)	—	72.41	76.00	70.37	—	—	66.67	—	4	71.36	3.90
9a/8a 栄養孔位断面示数	(右)	64.86	64.71	—	—	—	—	—	—	2	64.79	
	(左)	—	65.71	66.67	66.67	—	—	—	—	3	66.35	

表 33 膝蓋骨計測値 (Patella)(単位：mm)

		広畑 ST-11-2 女性
1. 最大高	(右)	—
	(左)	39
2. 最大幅	(右)	—
	(左)	—
3. 最大厚	(右)	—
	(左)	20
4. 関節面高	(右)	—
	(左)	33
5. 内切面幅	(右)	—
	(左)	—
6. 外切面幅	(右)	—
	(左)	22
1/2 膝蓋骨高幅示数	(右)	—
	(左)	—

表 34 歯の計測値 (単位：mm)

			広畑 ST-05-01 男性		広畑 ST-05-2 男性		広畑 ST-06 男性		広畑 ST-08-1 男性		広畑 ST-09-1 男性		広畑 ST-10 男性	
			右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
頬(唇)舌径	上顎	I_1	—	—	—	—	7.91	8.03	—	—	—	—	7.60	7.70
		I_2	—	△	—	7.26	6.92	—	—	—	—	—	6.84	6.64
		C	—	8.50	—	8.71	8.42	8.52	—	—	—	—	8.70	8.47
		P_1	—	9.81	—	10.13	9.57	9.62	—	—	—	8.89	9.62	9.38
		P_2	9.15	9.33	—	9.83	9.59	9.53	—	—	—	—	9.53	△
		M_1	—	12.39	12.30	12.36	12.15	12.36	—	—	—	—	12.25	12.36
		M_2	—	—	12.39	12.56	12.08	12.32	—	—	—	—	12.26	12.03
		M_3	—	—	12.58	12.43	12.92	12.02	—	—	—	—	11.93	11.27
	下顎	I_1	—	—	6.63	6.25	6.06	5.92	—	—	—	—	5.76	5.83
		I_2	—	—	6.49	6.64	6.40	6.29	—	—	—	—	6.41	6.26
		C	8.15	—	8.16	8.26	8.16	8.04	△	7.46	—	—	8.05	8.08
		P_1	—	—	9.02	8.75	8.65	8.38	—	7.72	—	—	7.91	7.89
		P_2	—	—	8.88	8.98	8.83	8.83	8.73	8.63	—	—	8.64	8.70
		M_1	—	11.64	11.37	11.45	11.80	11.68	—	—	—	—	11.46	11.45
		M_2	—	11.27	11.46	11.26	—	11.16	11.69	11.61	—	—	10.56	—
		M_3	—	—	△	△	11.17	11.69	—	—	—	—	9.83	—
近遠心径	上顎	I_1	—	—	—	—	8.90	8.82	—	—	—	—	8.75	8.88
		I_2	—	△	—	8.09	7.44	—	—	—	—	—	7.42	7.59
		C	—	7.70	—	8.40	8.55	8.41	—	—	—	—	7.69	7.59
		P_1	—	7.43	—	7.80	7.43	7.21	—	—	—	6.57	6.96	6.90
		P_2	6.57	6.90	—	7.67	7.01	7.05	—	—	—	—	6.50	6.39
		M_1	—	11.40	11.88	11.42	11.22	11.32	—	—	—	—	11.34	10.76
		M_2	—	—	10.79	10.55	10.53	10.70	—	—	—	—	9.47	9.26
		M_3	—	—	9.71	10.17	10.17	10.46	—	—	—	—	8.94	8.49
	下顎	I_1	—	—	5.83	6.43	5.58	5.49	—	—	—	—	4.95	4.96
		I_2	—	—	6.70	6.47	6.36	6.36	—	—	—	—	5.48	5.75
		C	6.66	—	6.72	7.26	7.34	7.40	6.43	6.62	—	—	6.74	6.91
		P_1	—	—	7.96	8.24	7.26	7.40	—	6.83	—	—	6.92	7.03
		P_2	—	—	7.65	7.87	7.55	7.45	7.51	7.62	—	—	7.45	7.11
		M_1	—	△	12.46	12.50	12.16	12.14	—	—	—	—	12.25	△
		M_2	—	11.38	12.98	12.54	—	11.75	11.29	11.27	—	—	10.81	—
		M_3	—	—	△	△	11.50	12.14	—	—	—	—	10.06	—

△：計測不可能

表 35　歯の計測値　（単位：mm）

			広畑 ST-11-1 男性		広畑 ST-13-2 男性		広畑 ST-15 男性		広畑 ST-16-2 男性		広畑 ST-17-1 男性	
			右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
頬（唇）舌径	上顎	I_1	7.61	7.83	7.10	7.12	6.96	6.88	7.01	6.92	—	—
		I_2	6.88	6.85	6.47	6.57	6.61	6.19	6.43	6.55	—	—
		C	8.91	8.85	8.51	8.57	8.41	8.33	8.32	8.20	—	—
		P_1	10.15	10.60	9.05	9.11	9.73	9.48	9.07	9.20	—	—
		P_2	9.57	9.43	9.46	9.32	8.56	9.75	8.70	8.58	9.07	—
		M_1	△	△	11.25	11.13	—	11.41	11.49	11.46	—	—
		M_2	—	12.92	11.86	11.25	—	12.09	11.42	11.43	—	—
		M_3	—	—	△	—	11.51	11.61	11.37	—	—	—
	下顎	I_1	6.05	6.30	5.82	—	—	5.75	5.87	5.73	6.16	6.38
		I_2	6.55	6.81	6.48	—	6.17	6.20	6.21	6.19	6.79	—
		C	8.24	8.34	8.01	—	7.82	7.82	7.49	6.39	7.06	7.97
		P_1	—	8.47	7.83	—	—	8.23	7.49	7.61	8.52	9.00
		P_2	—	8.80	8.25	—	—	8.65	7.69	△	8.89	8.94
		M_1	—	11.47	10.85	10.49	10.53	10.59	11.00	10.90	—	10.99
		M_2	11.36	11.63	10.66	10.75	10.77	10.68	10.21	10.41	—	—
		M_3	—	9.96	10.71	10.77	10.51	10.05	10.79	10.78	—	—
近遠心径	上顎	I_1	8.45	△	7.90	8.11	8.05	8.20	8.20	8.07	—	—
		I_2	7.30	7.47	7.02	6.91	6.90	7.29	6.89	7.03	—	—
		C	7.91	8.05	8.10	7.87	8.11	7.50	7.80	7.81	—	—
		P_1	7.54	7.71	7.07	7.32	7.39	7.18	6.71	6.97	—	—
		P_2	6.80	6.58	6.76	6.59	6.11	6.84	6.45	6.44	6.61	—
		M_1	△	△	9.56	10.17	—	10.55	10.96	11.06	—	—
		M_2	—	11.24	10.12	10.79	—	10.20	9.61	9.64	—	—
		M_3	—	—	△	—	9.97	9.92	10.04	—	—	—
	下顎	I_1	5.42	5.35	5.33	—	—	△	5.19	5.28	5.45	5.46
		I_2	5.85	5.97	5.91	—	5.82	5.94	5.73	5.77	5.86	—
		C	7.42	7.33	6.96	—	6.72	7.05	6.78	6.02	6.08	6.48
		P_1	—	7.33	7.18	—	—	7.29	6.66	6.96	7.20	7.40
		P_2	—	7.42	7.17	—	—	7.29	6.74	6.67	7.53	7.39
		M_1	—	12.18	10.82	△	10.90	11.02	11.45	11.41	—	11.61
		M_2	12.19	12.21	10.68	10.94	11.25	11.32	10.66	10.77	—	—
		M_3	—	9.23	11.13	11.14	11.31	11.25	11.62	11.56	—	—

△：計測不可能

表 36　歯の計測値　　（単位：mm）

			広畑 ST-02-1 女性		広畑 ST-02-2 女性		広畑 ST-04 女性		広畑 ST-11-2 女性		広畑 ST-11-3 女性		広畑 ST-12 女性	
			右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
頬（唇）舌径	上顎	I_1	6.86	7.00	—	—	7.48	7.50	7.12	7.14	7.90	—	—	—
		I_2	6.56	6.92	—	—	7.07	7.06	6.24	6.50	7.00	—	6.42	6.66
		C	8.36	8.24	—	8.21	8.45	8.01	8.46	8.30	8.30	8.27	8.34	8.08
		P_1	10.32	10.05	—	10.00	10.00	9.90	—	—	10.42	10.44	9.97	9.68
		P_2	9.99	9.87	△	—	9.85	9.67	9.63	—	9.91	10.05	9.36	9.59
		M_1	12.57	12.58	12.61	—	△	11.33	—	△	11.84	11.87	12.12	12.00
		M_2	12.51	—	—	12.61	△	△	—	—	12.50	12.05	11.87	11.85
		M_3	—	—	—	—	9.98	10.56	—	—	—	—	11.34	12.06
	下顎	I_1	5.80	—	—	—	6.14	△	5.67	5.66	6.26	6.02	5.64	5.64
		I_2	6.39	—	—	—	6.71	6.60	6.32	6.16	6.79	6.79	6.06	6.20
		C	7.63	—	—	—	△	△	7.54	7.78	7.86	7.56	7.52	7.61
		P_1	8.34	—	—	—	8.44	8.32	△	8.06	8.91	8.89	8.07	8.00
		P_2	8.87	—	—	—	8.75	8.55	—	8.35	9.05	9.06	8.44	8.39
		M_1	—	—	—	—	11.21	11.06	—	—	—	11.47	11.20	11.26
		M_2	—	—	—	—	10.40	10.23	—	—	—	△	10.47	10.63
		M_3	—	—	—	—	9.63	10.19	—	—	—	—	10.68	—
近遠心径	上顎	I_1	8.47	8.51	—	—	8.98	8.75	8.19	8.02	8.54	—	—	—
		I_2	7.03	7.56	—	—	7.65	7.70	6.89	6.98	7.31	—	7.63	7.43
		C	8.00	7.80	—	7.25	7.83	7.97	6.96	6.60	8.13	7.67	7.62	7.51
		P_1	7.70	7.51	—	7.40	7.19	7.30	—	—	7.55	7.73	7.29	7.14
		P_2	6.97	7.02	△	—	7.08	6.74	6.84	—	7.26	7.24	6.74	6.79
		M_1	11.02	11.15	11.17	—	△	10.26	—	△	11.13	11.09	10.87	10.59
		M_2	10.45	—	—	10.81	△	△	—	—	11.25	10.75	9.80	9.82
		M_3	—	—	—	—	6.84	8.05	—	—	—	—	8.53	8.78
	下顎	I_1	5.66	—	—	—	5.62	△	4.64	4.54	5.56	5.52	5.67	5.69
		I_2	6.10	—	—	—	6.09	6.11	5.79	5.80	6.17	6.08	6.18	6.21
		C	6.57	—	—	—	6.65	△	6.46	6.76	6.64	7.07	6.76	7.06
		P_1	7.68	—	—	—	7.21	7.73	△	△	7.36	7.44	7.20	7.39
		P_2	△	—	—	—	7.35	7.07	—	6.74	7.79	7.74	7.33	7.36
		M_1	—	—	—	—	10.98	11.39	—	—	—	11.76	12.17	12.17
		M_2	—	—	—	—	10.88	11.35	—	—	—	12.01	11.59	11.86
		M_3	—	—	—	—	8.45	9.34	—	—	—	—	11.92	—

表 37　歯の計測値　（単位：mm）

			広畑 ST-13-1 女性 右	広畑 ST-13-1 女性 左	広畑 ST-07 不明 右	広畑 ST-07 不明 左	広畑 ST-16-1 小児 右	広畑 ST-16-1 小児 左	広畑 平均値 男性	広畑 平均値 女性
頬（唇）舌径	上顎	I_1	—	—	—	—	—	—	7.37	7.34
		I_2	—	6.16	—	—	—	—	6.77	6.58
		C	8.19	—	—	—	△	7.10	8.56	8.33
		P_1	—	—	—	—	—	8.92	9.56	10.14
		P_2	△	9.40	—	—	8.44	8.55	9.27	9.70
		M_1	—	11.34	10.96	—	—	—	11.89	11.97
		M_2	11.61	—	10.70	—	—	—	12.15	12.22
		M_3	—	—	—	—	—	—	12.06	10.66
	下顎	I_1	—	—	—	—	—	—	6.01	5.90
		I_2	—	—	—	—	—	—	6.44	6.45
		C	—	—	—	—	—	—	7.86	7.64
		P_1	8.20	—	—	—	—	—	8.20	8.34
		P_2	—	△	—	—	—	—	8.60	8.69
		M_1	—	—	—	—	—	—	11.23	11.29
		M_2	—	—	—	—	—	—	11.02	10.44
		M_3	—	—	—	—	—	—	10.50	10.16
近遠心径	上顎	I_1	—	—	—	—	—	—	8.38	8.55
		I_2	—	6.91	—	—	—	—	7.29	7.24
		C	7.38	—	—	—	△	7.21	8.03	7.60
		P_1	—	—	—	—	—	6.69	7.29	7.43
		P_2	△	6.78	—	—	6.32	6.19	6.71	6.95
		M_1	—	10.74	△	—	—	—	10.99	10.87
		M_2	9.78	—	8.95	—	—	—	10.28	10.42
		M_3	—	—	—	—	—	—	9.77	7.69
	下顎	I_1	—	—	—	—	—	—	5.39	5.43
		I_2	—	—	—	—	—	—	5.96	6.07
		C	—	—	—	—	—	—	6.79	6.62
		P_1	7.42	—	—	—	—	—	7.18	7.37
		P_2	—	△	—	—	—	—	7.37	7.30
		M_1	—	—	—	—	—	—	11.73	11.64
		M_2	—	—	—	—	—	—	11.44	11.49
		M_3	—	—	—	—	—	—	10.81	10.19

平均値においては、原則として右側値を使用し、右側計測不可能もしくは欠損の場合にのみ左側値を使用した。

表 39　推定身長値（cm）　男性

人骨番号		ST-05-2 男性 左	ST-13-2 男性 左
Pearsonの式	上腕骨	—	148.78
	橈　骨	—	154.29
	脛　骨	156.60	—
藤井の式	上腕骨	—	148.57
	橈　骨	—	152.37
	脛　骨	154.95	—

表 38　　齲蝕(Caries of the teeth)

		広畑 ST-02-1 女性		広畑 ST-02-2 女性		広畑 ST-04 女性		広畑 ST-11-2 女性		広畑 ST-11-3 女性		広畑 ST-12 女性		広畑 ST-13-1 女性	
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I_1	○	○	／	／	○	○	○	○	○	／	／	／	／	／
	I_2	1	○	／	／	○	○	○	○	○	／	○	○	／	2
	C	○	○	／	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	／
	P_1	2	○	／	○	○	○	／	／	○	○	○	○	／	／
	P_2	○	○	4	／	○	○	3	／	○	○	○	○	／	○
	M_1	○	○	2	／	4	2	／	4	○	1	○	○	／	○
	M_2	2	／	／	2	4	3	／	／	○	○	○	○	2	／
	M_3	／	／	／	／	○	2	／	／	／	／	／	／	／	／
下顎	I_1	○	／	／	／	○	／	○	○	○	○	○	○	／	／
	I_2	○	／	／	／	○	○	○	○	○	○	○	○	／	／
	C	○	／	／	／	○	／	2	○	○	○	○	○	／	／
	P_1	○	／	／	／	○	○	／	／	○	○	○	○	○	／
	P_2	／	／	／	／	○	○	／	○	○	○	○	○	／	／
	M_1	／	／	／	／	○	○	／	／	／	1	○	○	／	／
	M_2	／	／	／	／	○	○	／	／	／	2	○	○	／	／
	M_3	／	／	／	／	○	1	／	／	／	／	／	／	／	／

		広畑 ST-05-1 男性		広畑 ST-05-2 男性		広畑 ST-06 男性		広畑 ST-08-1 男性		広畑 ST-09-1 男性		広畑 ST-10 男性		広畑 ST-11-1 男性	
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I_1	／	／	／	／	○	○	／	／	／	／	○	○	○	○
	I_2	／	○	／	○	○	／	／	／	／	／	○	○	○	○
	C	／	○	／	○	○	○	／	／	／	／	○	○	○	2
	P_1	／	2	／	○	○	○	／	／	／	○	○	○	○	2
	P_2	2	2	／	○	○	○	／	／	／	／	○	○	○	○
	M_1	／	○	○	○	○	○	／	／	／	／	○	○	4	2
	M_2	／	／	1	○	○	2	／	／	／	／	○	3	／	○
	M_3	／	／	○	○	○	○	／	／	／	／	○	2	／	／
下顎	I_1	／	／	○	○	○	○	／	／	／	／	○	○	○	○
	I_2	／	／	○	○	○	○	／	／	／	／	○	○	○	○
	C	○	／	○	○	○	○	○	○	／	／	○	○	○	○
	P_1	／	／	○	○	○	○	／	○	／	／	○	○	／	○
	P_2	／	／	○	○	○	○	○	○	／	／	○	○	／	○
	M_1	／	3	○	○	○	○	／	／	／	／	○	／	／	○
	M_2	／	○	1	○	／	2	○	○	／	／	2	／	○	○
	M_3	／	／	／	○	○	2	／	／	／	／	○	／	／	○

		広畑 ST-13-2 男性		広畑 ST-15 男性		広畑 ST-16-2 男性		広畑 ST-17-1 男性		広畑 ST-07 不明	
		右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
上顎	I_1	○	○	○	○	○	○	／	／	／	／
	I_2	○	○	○	○	○	○	／	／	／	／
	C	○	○	○	○	○	1	／	／	／	／
	P_1	○	2	○	○	○	○	／	／	／	／
	P_2	○	2	○	○	○	○	○	／	／	／
	M_1	○	○	／	○	○	○	／	／	／	／
	M_2	○	○	／	／	2	○	／	／	○	／
	M_3	○	／	2	○	2	／	／	／	／	／
下顎	I_1	○	／	／	／	○	○	○	○	／	／
	I_2	○	／	○	○	○	○	○	／	／	／
	C	○	／	○	○	○	○	○	○	／	／
	P_1	○	／	／	○	○	○	○	○	／	／
	P_2	○	／	／	○	○	○	○	○	／	／
	M_1	○	／	○	○	○	○	／	○	／	／
	M_2	○	／	2	○	○	1	／	／	／	／
	M_3	○	／	○	1	○	1	／	／	／	／

〔1~4:present, ○:absent, ／:unobservable〕

参考文献

1. 藤田恒太郎、1949、歯の計測規準について。人類学雑誌、61：27－32.

2. Howells.W.W,1974：Cranial Variation in Man. Peabody Museum Papers,vol.67.

4. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttugart：429-597.

5. 松下孝幸、1981a：日守地下式古墳出土の人骨。日守地下式古墳群発掘調査(55－1－4号)(宮崎県文化財調査報告書23)：169－178,182－183.

6. 松下孝幸、1981b：宮崎県上の原地下式古墳出土の人骨。上の原地下式古墳群発掘調査（宮崎県文化財調査報告書24)：114－129.

7. 松下孝幸、分部哲秋、1982a：宮崎県国富町本庄28号地下式古墳出土の人骨。宮崎考古、８：16－20.

8. 松下孝幸、分部哲秋、石田肇、佐熊正史、1982b：鹿児島県諏訪野地下式土壙３号出土の人骨。諏訪野地下式土壙３号（大口市埋蔵文化財調査報告書２）：11－15.

9. 松下孝幸、石田肇、佐熊正史、1983a：鹿児島県成川遺跡出土の古墳時代人骨。成川遺跡（鹿児島県埋蔵文化財調査報告書24)：236－261.

10. 松下孝幸、野田耕一、1983b：宮崎県高原町旭台地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、26：78－107.

11. 松下孝幸、分部哲秋、石田肇、1983c：宮崎県都城市菓子野地下式横穴出土の古墳時代人骨。都城・中之城跡、菓子野地下式横穴(都城市文化財調査報告書３)：105－145.

12. 松下孝幸、分部哲秋、石田肇、内藤芳篤、永井昌文、1983d：山口県豊浦郡豊北町土井ケ浜遺跡出土の人骨。土井ケ浜遺跡第７時発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告２)：19－30.

13. 松下孝幸、1984a：宮崎県野尻町大萩地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、第27集：53－111.

14. 松下孝幸、1984b：宮崎市跡江横穴出土の古墳時代人骨。宮崎考古、第９号：34－48.

15. 松下孝幸、1984c：川内市横岡古墳Ⅶ号墳出土の古墳時代人骨。外川江遺跡・横岡古墳高城川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(30))：142－146.

16. 松下孝幸、1984d：鹿児島県大隅半島の古墳時代人骨。鹿児島考古、第18号：171－181.

17. 松下孝幸、1984e：鹿児島県大口市諏訪野地下式土壙５号墳出土の古墳時代人骨。諏訪野地下式土壙５号(鹿児島県大口市埋蔵文化財発掘調査報告書３)：15－28.

18. 松下孝幸、中谷昭二、1986a：宮崎県国富町市の瀬地下式横穴墓群出土の古墳時代人骨。国富町文化財資料、第４集：145－185.

19. 松下孝幸、1986b：鹿児島県串良町岡崎古墳群１号地下式横穴墳出土の古墳時代人骨。岡崎４号墳・１号地下式横穴(串良町埋蔵文化財発掘調査報告書(1))付篇：1－16.

20. 松下孝幸、1987：鹿児島県高山町塚崎古墳群出土の古墳時代人骨。鹿児島考古。第21集：57－70.

21. 松下孝幸、1988：宮崎県高崎町出土の古墳時代人骨。高崎町文化財調査報告書、第１集：57－158。

22. 松下孝幸、1989a：宮崎県高崎町の古墳時代人骨。宮崎考古　石川恒太郎先生米寿記念特集号上巻：90－117。

23. 松下孝幸、分部哲秋、1989b：宮崎市柿木原地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。柿木原地下式横穴墓56－1号・江田原第１遺跡(宮崎市文化財調査報告書)：13－30。

24. 松下孝幸、1990a：鹿児島県宮の上地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。宮崎考古24：49－67。

25. 松下孝幸、1990b：南九州地域における古墳時代人骨の人類学的研究。長崎医学学雑誌、65(4)：781－804.

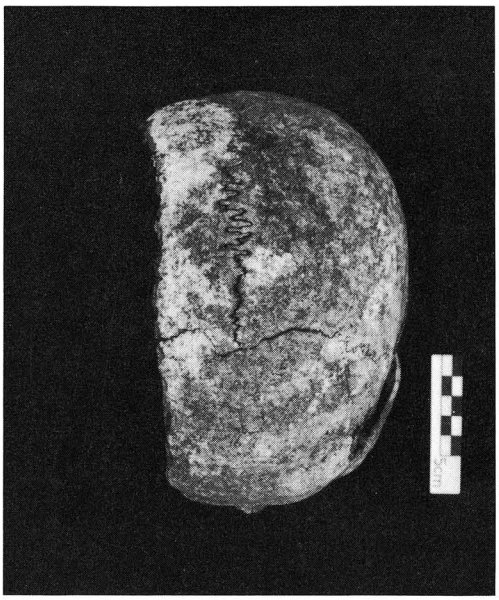
26. 内藤芳篤、1973：灰塚地下式横穴人骨。灰塚遺跡(九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告(２))：72－77.

27. 内藤芳篤、1974：人骨とその埋葬方法。大萩遺跡(１)（瀬戸ノ口地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告)：55－62.

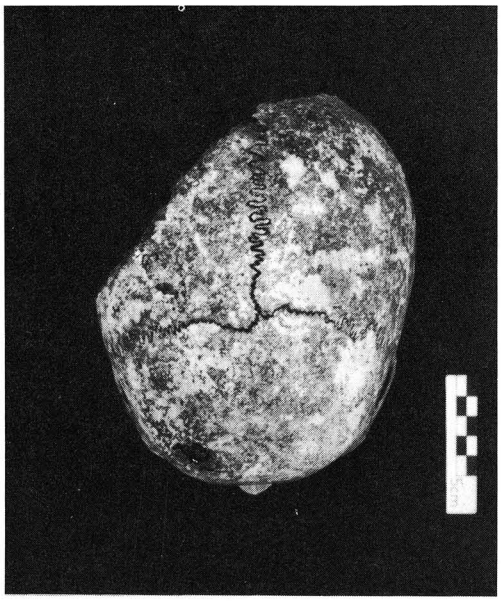
28. 中野和浩、1990：広畑遺跡－市道坂元芋畑線外二線整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要(えびの市埋蔵文化財調査報告書第５集)：1－11.

29. 小片丘彦、川路則友、峰和治、山本美代子、岡本満子、1986：宮崎県菓子野地下式横穴出土の人骨。都城市文化財調査報告書、第４集：47－66.

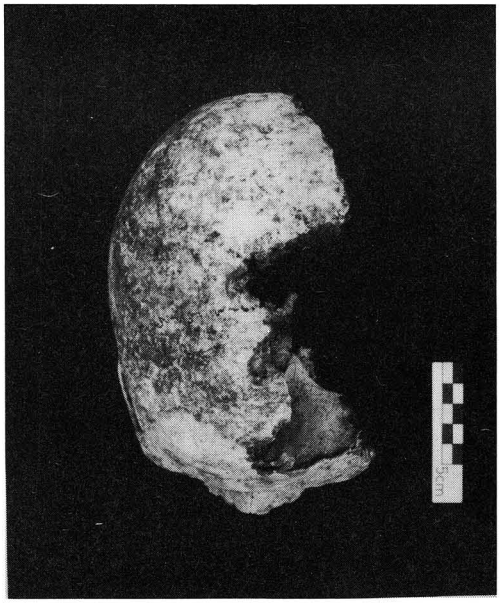
30. 鈴木　尚、1963：日本人の骨。岩波書店、東京。



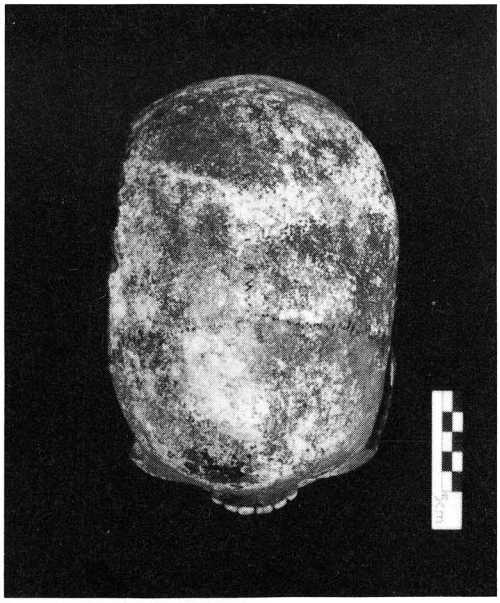
広畑ST-5-1(男性、熟年)
(Hirohata 5-1,mature male)



広畑ST-5-2(男性、壮年)
(Hirohata 5-2,young adult male)

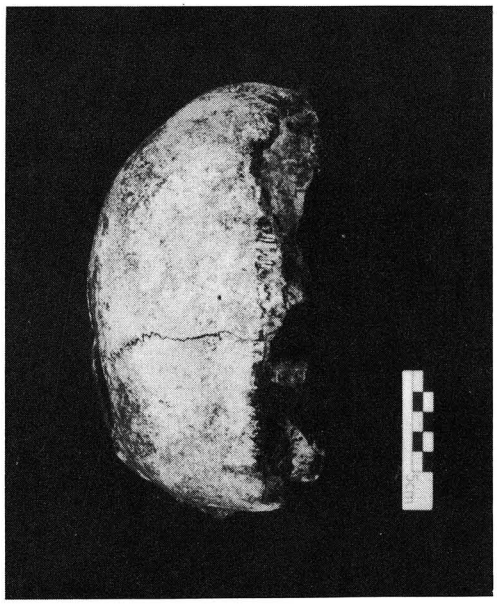


広畑ST-6 (男性、熟年)
(Hirohata 6,mature male)



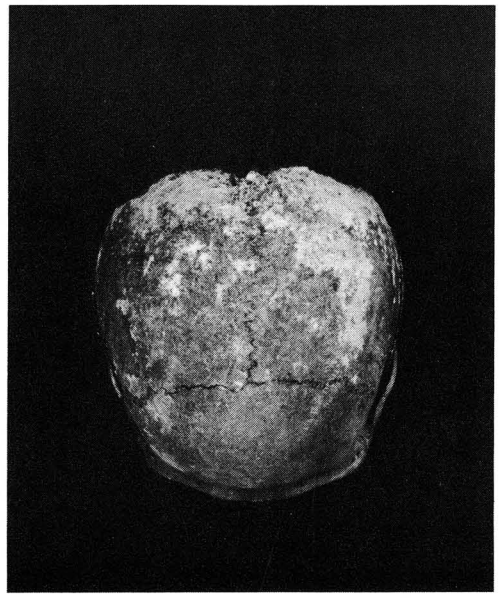
広畑ST-11-1(男性、熟年)
(Hirohata 11-1,mature male)

頭蓋上面(Superior view of the skull)



広畑ST-13-2(男性、熟年)
(Hirohata 13-2,mature male)

広畑ST-15 (男性、壮年)
(Hirohata 15,young adult male)

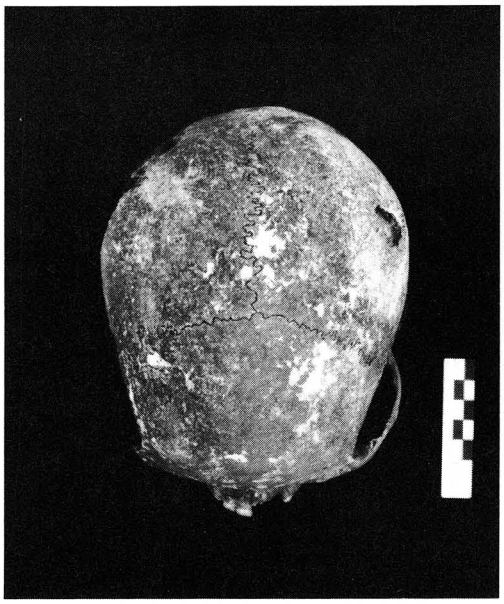


広畑ST-16-2(男性、熟年)
(Hirohata 16-2,mature male)

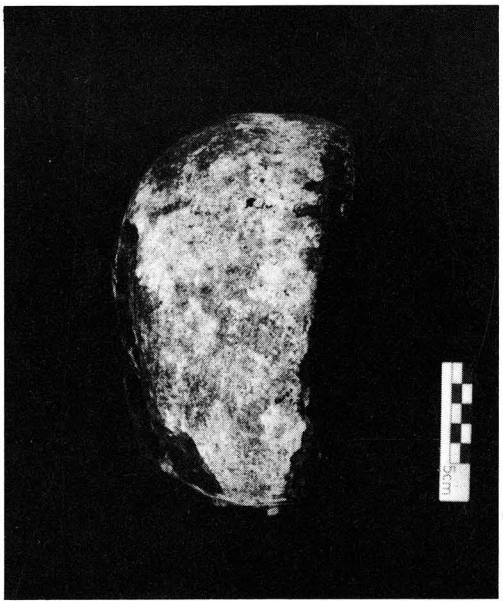
頭蓋上面(Superior view of the skull)

広畑ST-4（女性、壮年）
(Hirohata 4, young adult female)

広畑ST-11-2（女性、壮年）
(Hirohata 11-2, young adult female)

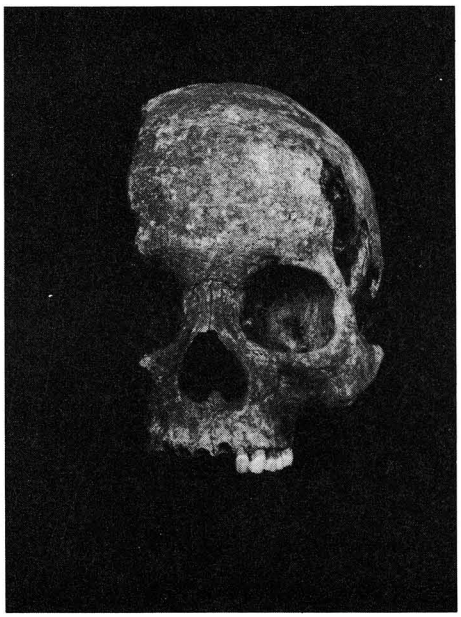


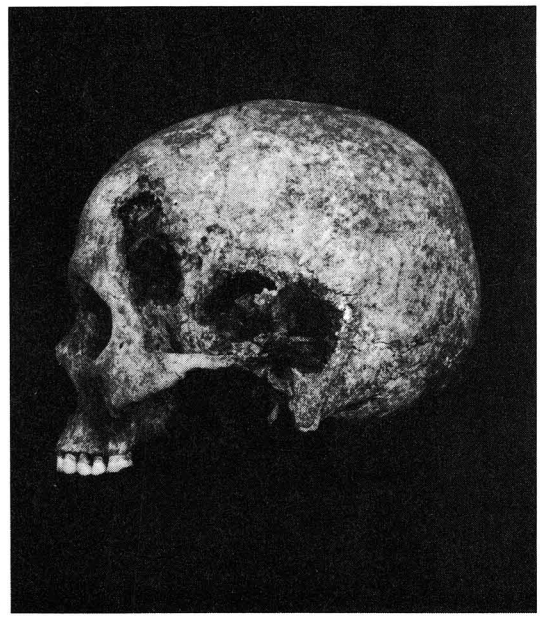
広畑ST-11-3（女性、壮年）
(Hirohata 11-3, young adult female)



広畑ST-13-1（女性、熟年）
(Hirohata 13-1, mature female)

頭蓋上面(Superior view of the skull)

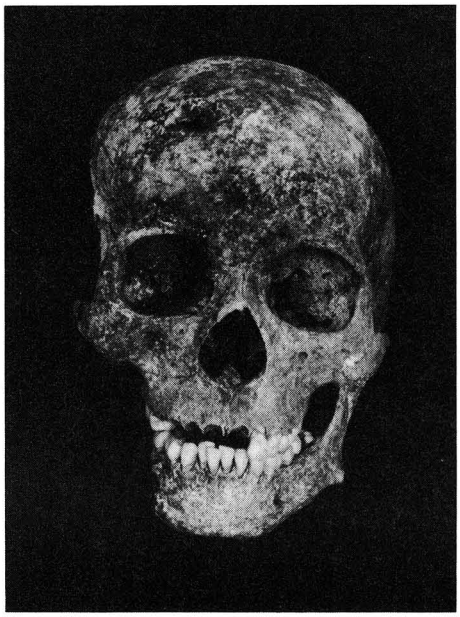


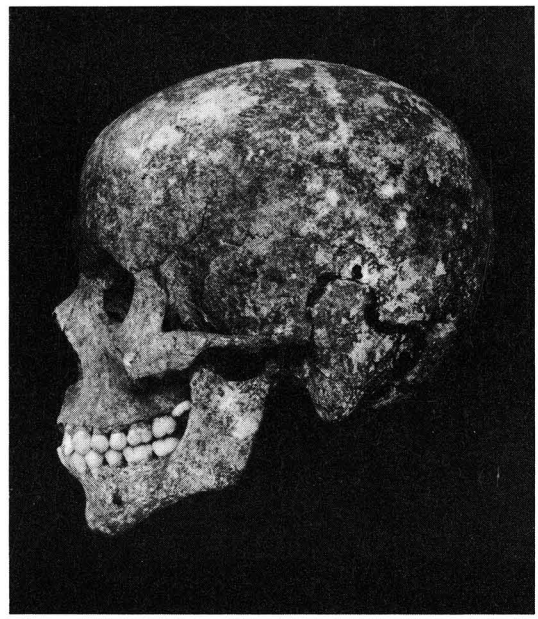


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-5-1(男性、熟年)

(Hirohata 5-1, mature male)

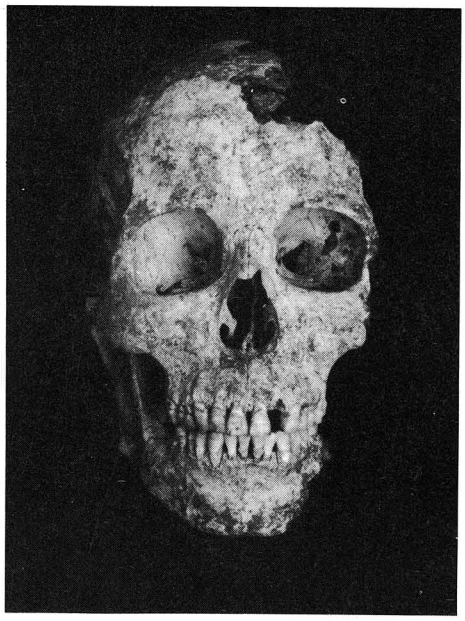


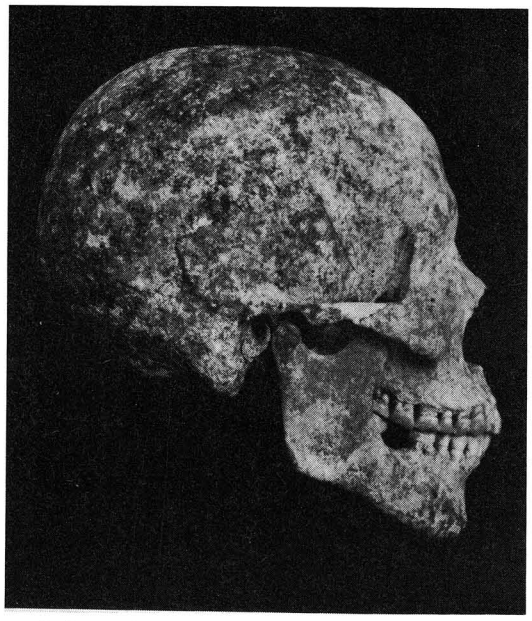


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-5-2(男性、壮年)

(Hirohata 5-2, young adult male)

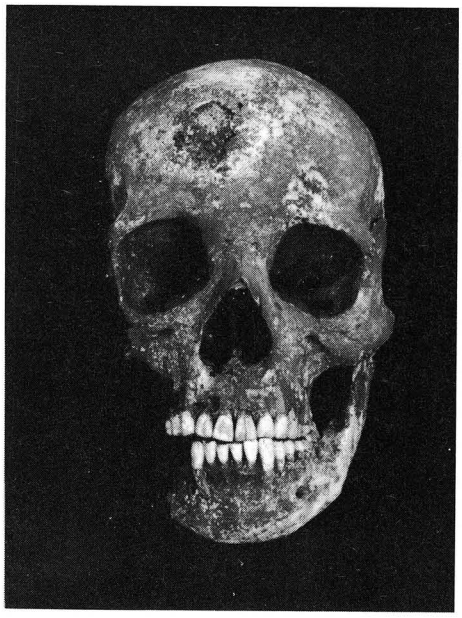


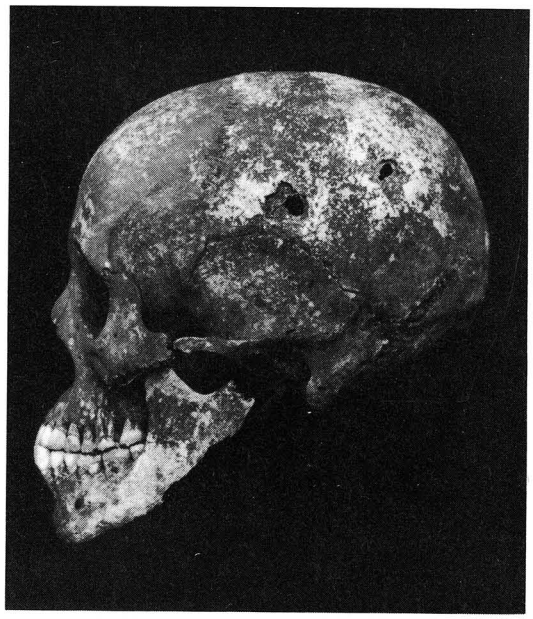


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-6 (男性、熟年)

(Hirohata 6,mature male)

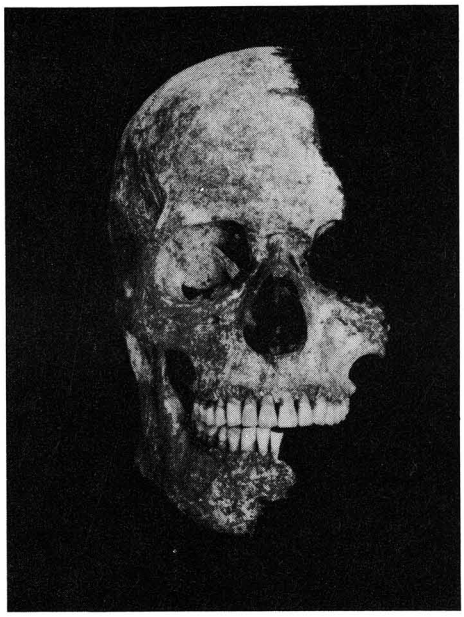


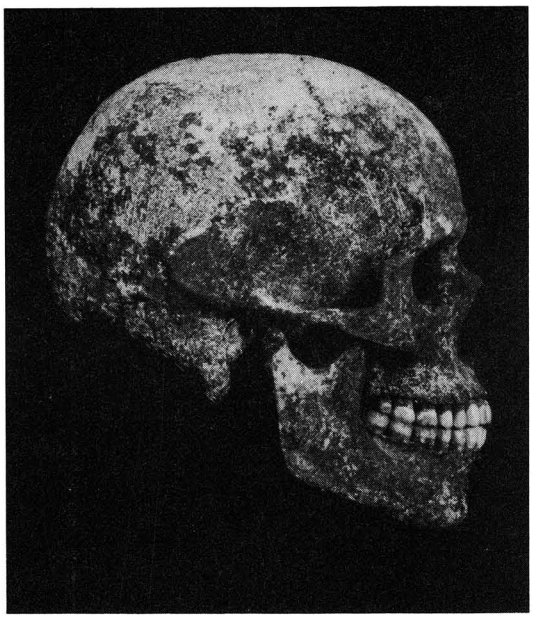


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-11-1(男性、熟年)

(Hirohata 11-1,mature male)

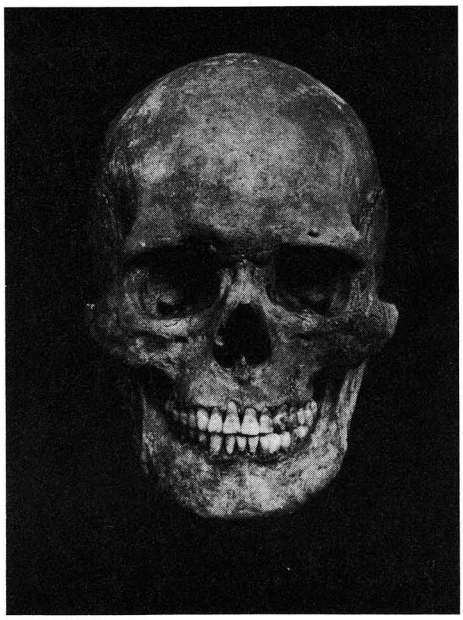


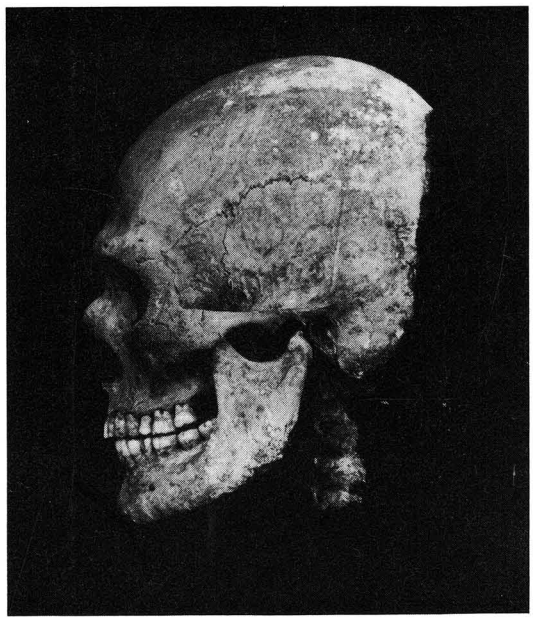


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-13-2(男性、熟年)

(Hirohata 13-2,mature male)

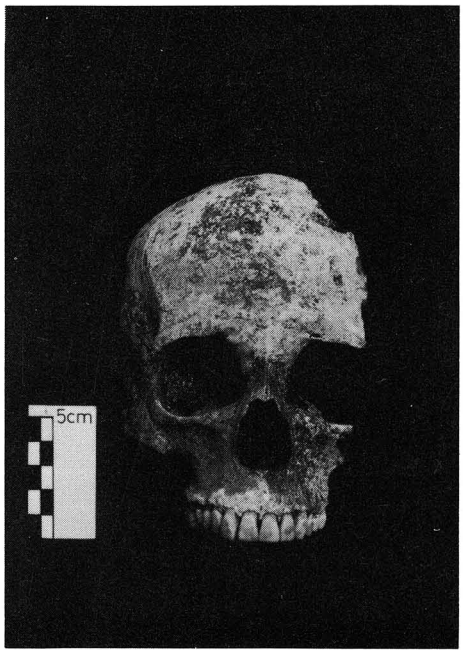




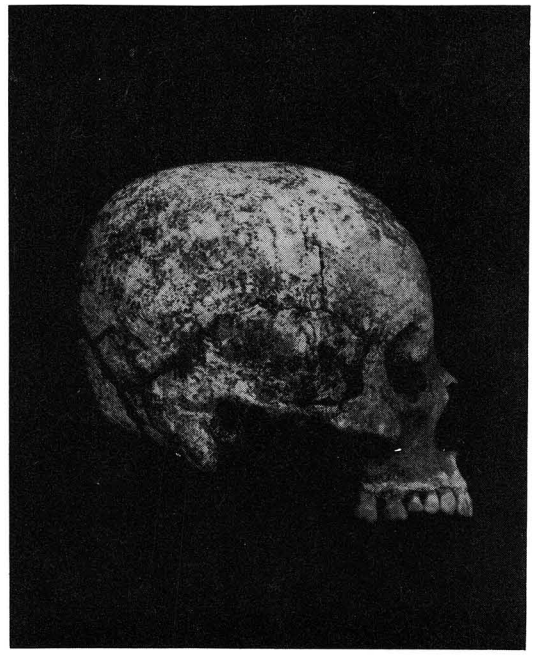
頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-16-2(男性、熟年)

(Hirohata 16-2,mature male)



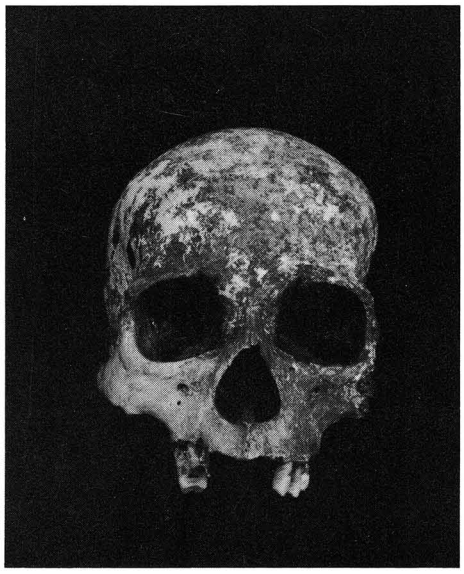
頭蓋前面(Frontal view of the skull)



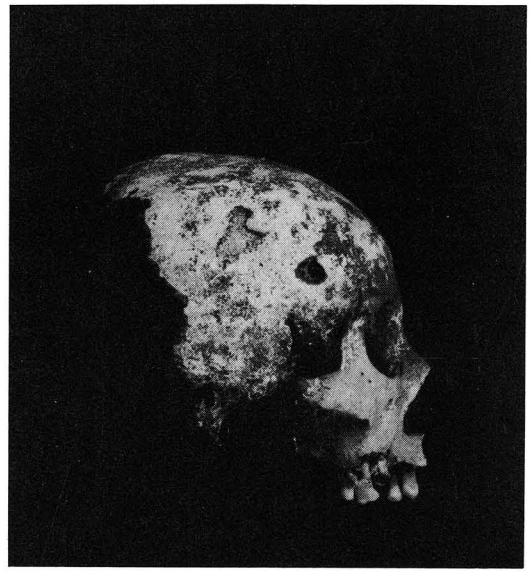
頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-2-1 (女性、壮年)

(Hirohata 2-1, young adult female)



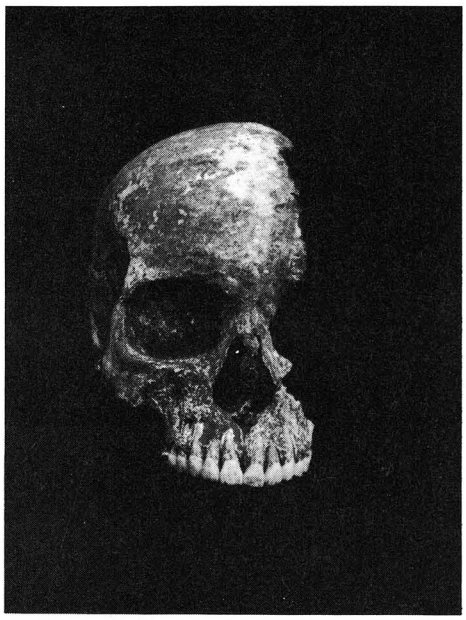
頭蓋前面(Frontal view of the skull)

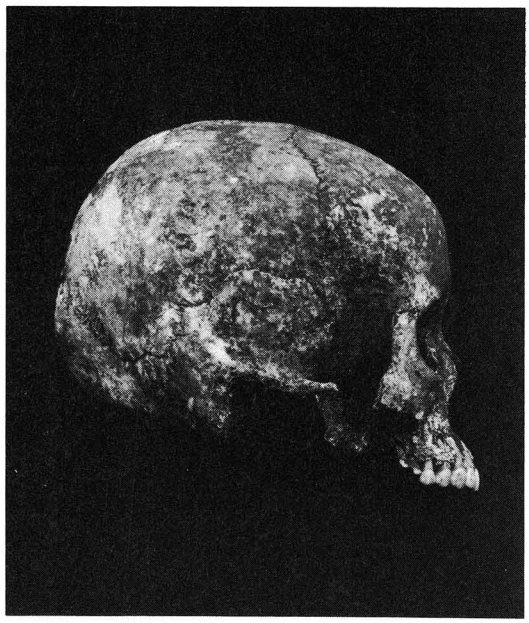


頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-2-2 (女性、熟年)

(Hirohata 2-2, mature female)

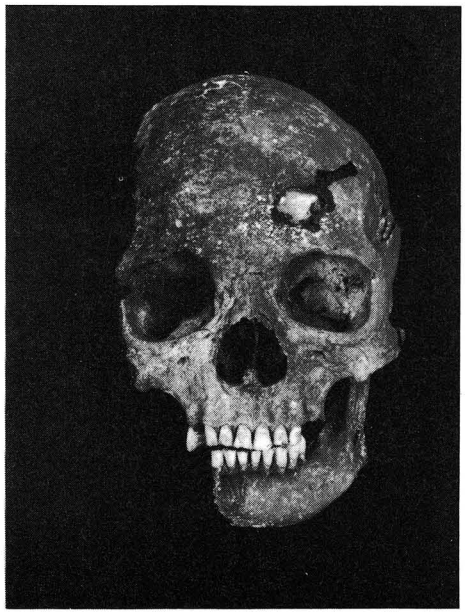


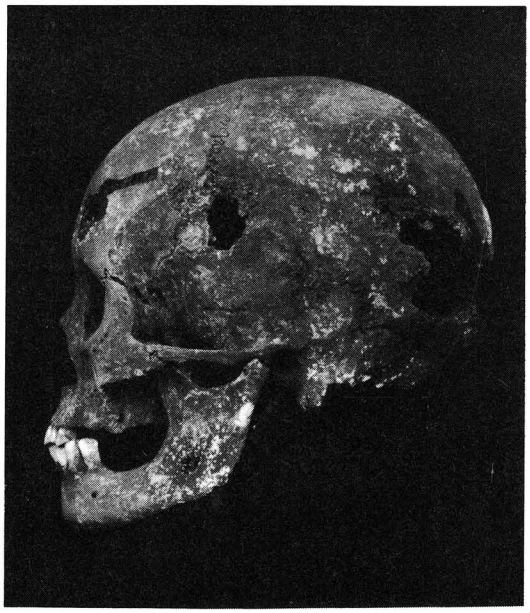


頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-4（女性、壮年）

(Hirohata 4,young adult female)

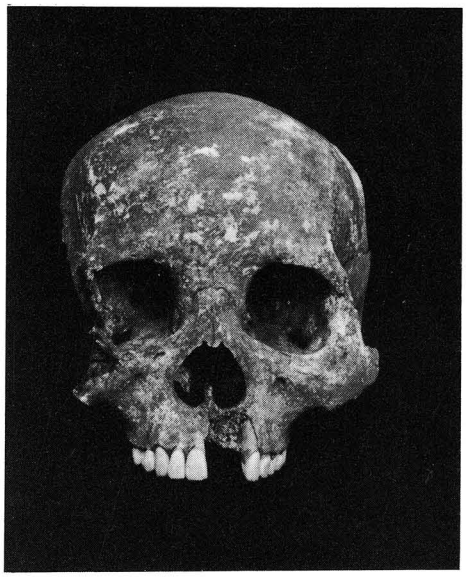




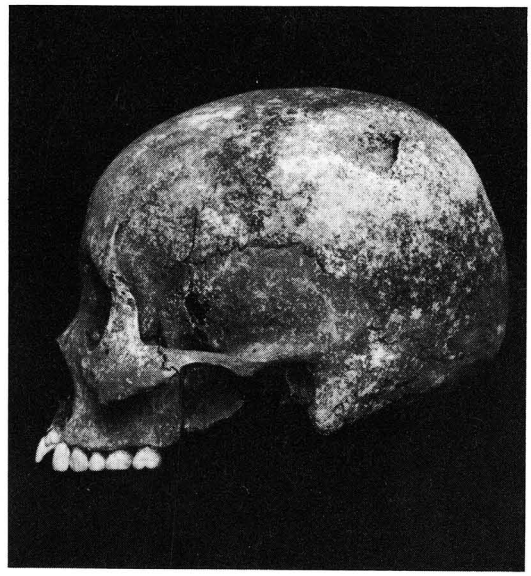
頭蓋前面(Frontal view of the skull)　頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-11-2（女性、壮年）

(Hirohata 11-2,young adult female)



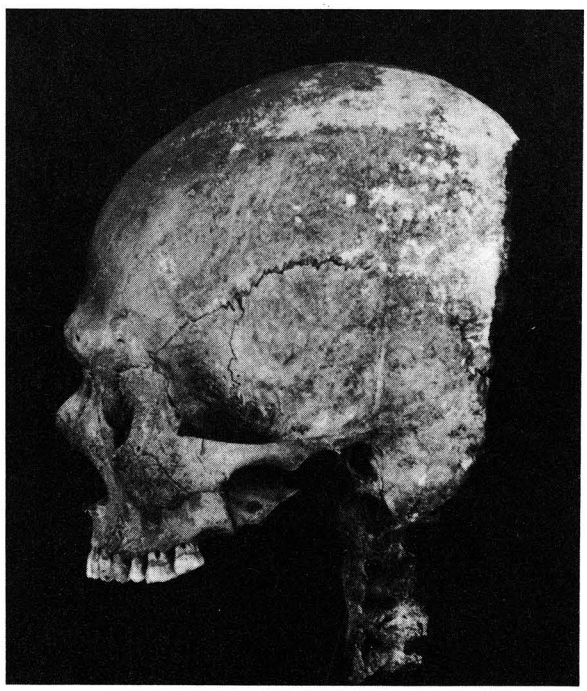
頭蓋前面(Frontal view of the skull)



頭蓋側面(lateral view of the skull)

広畑ST-11-3 (女性、壮年)

(Hirohata 11-3, young adult female)



頚椎癒合(Fusion of cervical vertebrae)

広畑ST-16-2 (男性、熟年)

(Hirohata 16-2, mature male)

Human Skeletal Remains Excavated from Hirohata Site, Ebino City, Miyazaki Prefecture.

Kazunobu SAIKI, Takayuki MATSUSHITA, Yoshiyuki ORIHARA
[Department of Anatomy, Nagasaki University School of Medicine]
Jouichi OYAMADA
[Department of Oral Anatomy, Nagasaki University School of Dentistry]

Keywords: Miyazaki Pref., Kofun skeleton, Tomb with underground chambers, Mesocrany, low and wide face, variation

Twenty-six human skeletal remains dating the late phase of the Kofun Period (5th century A. D.), consisting of 24 adults (male: 15, female: 7) and 2 minorities, were excavated from the tombs with underground chambers at Hirohata site, Ebino city, Miyazaki Prefecture, in 1989.

An anthropological study of the human skeletal remains was conducted.

The length-breadth index of the male is [76. 24], and that of the female is [77. 21], the cranial type of both male and the female is mesocranic.

The Hirohata Kofun people, male and female, have a low and wide face. They are close to the Kofun people in the South Kyushu mountainous area. The estimated male stature is short. But only one male has a narrow and high face.

There are aural exostoses in three individuals. The artificial tooth extraction is not found in the Hirohata Kofun people. The fusion of the cervical vertebrae is found in the skeleton ST-16-2.

宮崎県えびの市広畑遺跡出土の古墳時代小児・成年骨

分　部　哲　秋

宮崎県えびの市広畑遺跡出土の古墳時代小児・成年骨

分部 哲秋*

【キーワード】宮崎県、地下式横穴墓、古墳時代、小児・成年骨、骨化、低顔

はじめに

宮崎県えびの市大字坂元に所在する広畑遺跡の発掘調査が、市道坂元卯苧畑線外二線整備工事に伴い、1989年(平成元年)に行われた。その際、19基の地下式横穴墓が発見され、16基から合計26体の人骨が検出され、これらの人骨のうち2体が未成人骨であった。

筆者は、縄文時代から弥生時代を経て現代に至るまでの幼小児骨を対象として、幼小児の死亡年令、幼小児期における形質の年令的変化、歯の萌出および骨化等について調査し、各遺跡ごとの幼小児骨の特徴について報告を行っている。宮崎県出土の未成人骨に関しては、これまでに高原町日守(1981)、須木村上の原(1981)、高原町旭台(1983)、野尻町大萩(1984)、国富町市の瀬(1986)、高崎町原村上(1988)、高崎町縄瀬小学校(1988)、高崎町塚原(1988)の各地下式横穴墓からの出土例について報告を行っている。

現在までのところ、高崎町原村上地下式横穴墓出土の小児骨1例を除く顔面の形態は、現代(明治～大正)の幼小児骨(分部、1990)とは異なって、低顔傾向が強く認められ、この特徴は、この地域の地下式横穴墓から出土する成人骨の特徴と一致していることから、すでに若年から成人骨に見られる形質を備えていると推測している。

広畑地下式横穴墓群出土の未成人骨も、顔面部の保存状態は比較的良好で、今後の幼小児骨の研究にとって貴重な情報を提供してくれるものと考えられる。詳細な人類学的観察および計測を行い、既報告例とどのような形質の差が認められるのか検討し、興味ある結果を得たので報告しておきたい。

なお、成人骨に関しては、別稿で佐伯らが詳述しており、本稿では未成人骨についてのみ報告する。

資料・方法

*Tetsuaki WAKEBE, Second Department of Anatomy, Nagasaki University School of Medicine

[長崎大学医学部解剖学第二教室(主任：内藤芳篤教授)]

本遺跡からの出土人骨は、成人骨の項で詳述されているように、すべて地下式横穴墓から検出されたものである。資料数は表１に示しているように、出土総数は26体で、うち24体が成人骨、2体が未成人骨である。未成人骨の性別および年令は、表２に示すとおり1体が小児骨、他の1体が女性・成年骨で、その残存部は図２に示している。人骨の所属時期は、別稿で述べられているように考古学的所見から、５世紀中頃である。

年令の推定は、歯からの推定は、藤田(1965)による現代人の歯の萌出時期と金田(1957)による現代人の歯根の形成時期を用い、骨化の進行状態からの推定は、鈴木(1943)と分部(未発表)による四肢骨骨端の癒合時期に関する成績を用いて、古墳時代における歯の萌出、歯根形成時期および骨化の時期が、現代のそれらと大差ないと仮定したうえで推定を行った。また、年令区分は大友遺跡出土の幼小児骨(分部、1981)と同様の区分とした。

計測はMartin－Saller(1957)の方法に従った。

比較資料は、未成人の骨格は年令とともに変化するのでほぼ同年令の例を用い、現代人(明治～大正)成年骨(分部、1990)、長浜金久(分部、1985)および大友(分部、1981)遺跡出土の弥生時代小児骨、上の原(分部、1981)および旭台(分部、1983)地下式横穴墓出土の古墳時代成年骨と比較した。現代人は性別と年令が明らかで、その成績は実年令ごとに集計しており、発掘人骨は歯と骨化の状態から年令を推定している。

なお、本遺跡を含めた各遺跡の位置は、図１に示したとおりである。

表１　資料数（Table 1.　Number of materials）

成人			未成人				合計
男性	女性	不明	幼児	小児Ⅰ	小児Ⅱ	成年	
１５	7	2	0	1	0	1	２６

表２　資料（Table 2. Materials of the children skeletons）

人骨番号	性別	年令	年令区分	備　考
ST-12	女性	16~17歳	成年	
ST-16-1	不明	6~7歳	小児	顔面赤色顔料

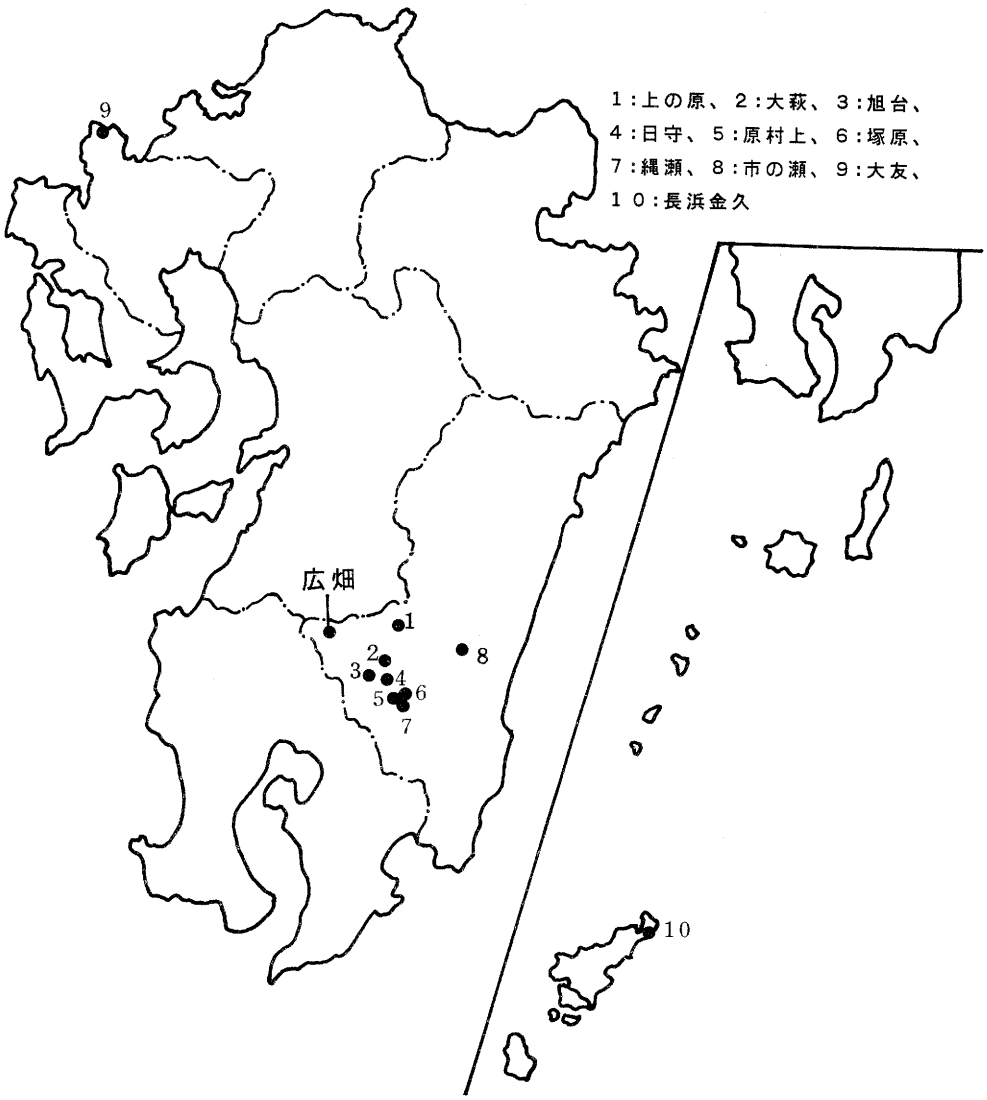
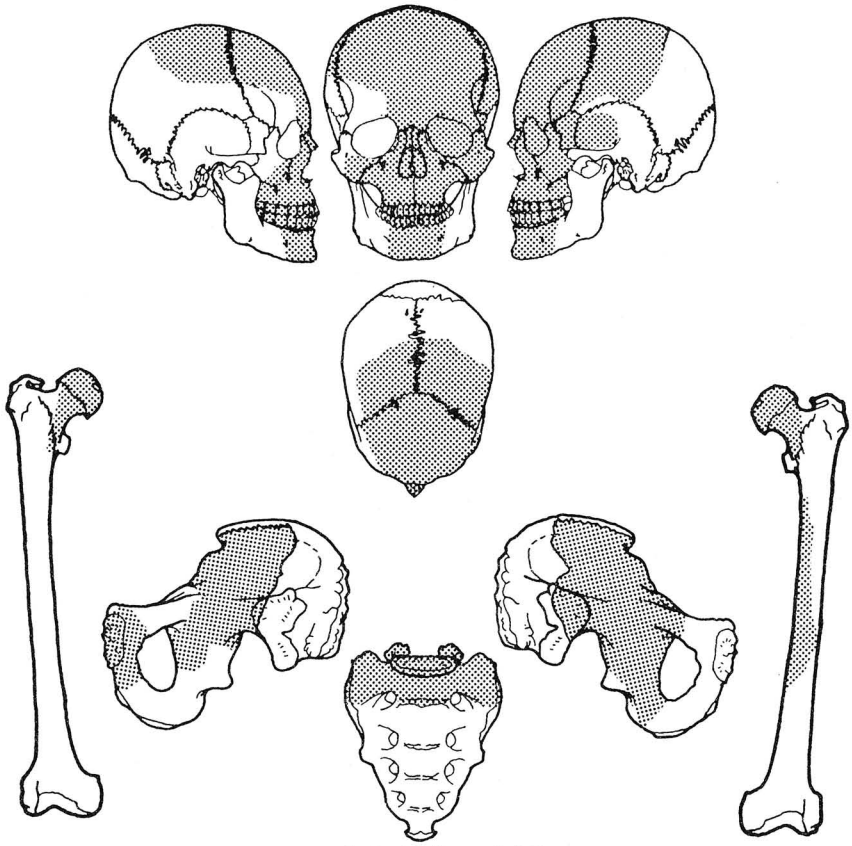


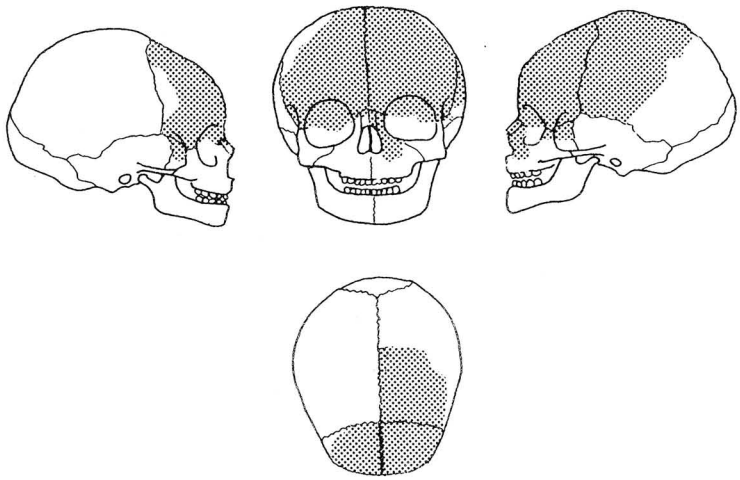
図1. 遺跡の位置

(Fig.1. Location of the Hirohata site, Ebino City, Miyazaki Pref.)



広畑ST-12(16~17歳、成年)

(Hirohata ST-12, 16~17 Years)



広畑ST-16-1(6~7歳、小児Ⅰ期)

(Hirohata ST-16-1, 6~7 Years)

図2. 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig.2. Regions of preservation of the children skeletons)

所見

計測値は、文末の表４、５に示しているとおりである。

ＳＴ－１２号人骨（女性、16~17歳、成年）

1. 形質

1) 頭蓋

(1) 脳頭蓋

前頭骨と左右頭頂骨の前半部が残存している。前頭結節は発達しており、前頭骨は垂直方向に立っている。骨壁はそれほど厚くはなく、縫合は内・外板ともによく開いている。

脳頭蓋の計測は３項目のみが可能であったが、その中で最小前頭幅は、左側の計測点から正中面までの垂直距離を２倍することにより求めると(92[46×2])mmとなり、前頭骨の前部は普通の大きさである。しかし、観察によれば、前頭骨の後半から頭頂骨にかけては横に広く、頭蓋冠の前半部を見るかぎりにおいて、頭型は短頭型ないしそれに近いものと推測される。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋は右側の眼窩上縁と左右の頬骨弓を欠損している。眉上弓の発達はこの年令にしては弱く、眉間の突出も強くはない。しかしながら、上顎骨の前頭突起は前後方向に立ち、鼻骨も隆起しており、鼻根部の形態は縄文人に近い傾向を示している。

計測値は、先ず上顔幅が(108[54×2])mm、中顔幅は100mmで、顔面の幅径は大きく、顔面の高さを示す顔高は101mm、上顔高は61mmで、高径は小さい。したがって、ウイルヒョウの顔示数は101.00、上顔示数は61.00となり、示数値はいずれも小さくて、顔面型はそれぞれhyperchamaeprosop(過低顔)、hyperchamaeprosop(過低上顔)に属し、低顔傾向が顕著である。

次いで眼窩は、眼窩幅が44mm(左)、眼窩高は34mm(左)で、眼窩示数は77.27(左)となり、示数値は小さい値を示す。眼窩型はきわめて低眼窩に近いmesoknoch(中眼窩)に属している。鼻部は、鼻幅が26mm、鼻高は45mmで、鼻示数は57.78となる。示数値は大きい値を示し、鼻型はきわめて過広鼻に近いchamaerrhin(広鼻)に属している。また、鼻根部の幅を示す前眼窩間幅は19mmで、鼻根部は比較的広い。

上顎から口蓋にかけての計測値は、上顎歯槽長が53mm、上顎歯槽幅は66mm、口蓋幅は43mmで、諸径は大きくて、観察所見においても歯槽の萎縮も見られず、歯槽は頑丈である。

歯は、上顎の左右中切歯と下顎の左側第三大臼歯を除く永久歯が残存している。これらを歯式で示すと、次ぎのとおりである。

$(M_3)M_2M_1P_2P_1CI_2$○	○$I_2CP_1P_2M_1M_2(M_3)$
$(M_3)M_2M_1P_2P_1CI_2I_1$	$I_1I_2CP_1P_2M_1M_2$ ／
＊ ＊	＊

＊ 遊離歯
（ ） 歯槽内埋伏
○ 歯槽開存
／ 不明

上下両顎の第三大臼歯は歯根が形成途中であり、歯槽内に埋伏している。その他の歯はすべて萌出しており、第二大臼歯の歯根も完成している。咬耗はすべての歯に見られるが、Brocaの1から2度で、咬耗の程度は弱い。

2) 四肢骨

下肢骨の一部が残存している。

(1) 寛骨

寛骨は、左右ともに寛骨臼から腸骨にかけてが残っている。観察による大坐骨切痕の角度は広い。

(2) 大腿骨

右側は骨頭と頚部が、左側は骨頭、頚部および骨体の内側部が残存している。骨頭は正確な計測は不可能であるが、径はやや小さい。

(3) 脛骨

骨体の前縁が残っているが、左右の判別が不可能である。

2. 骨化

頭蓋内の軟骨結合は観察不可能で、四肢骨では左右の大腿骨の骨頭および左右寛骨の寛骨臼が骨癒合を完了している。寛骨の腸骨稜は左右ともに約半分が残存しているが、骨端線の形状から全体的に未癒合であったものと推測される。

3. 性別

性別は前頭骨の形態、寛骨の大坐骨切痕の広さおよび大腿骨骨頭の大きさから、女性と推定される。

4. 年令

年令を歯の形成程度と骨化の進行状態から推定してみると、先ずこの人骨の歯は、第二大臼歯の歯根がすでに完成しているので、金田(1957)による現代人の歯根形成時期からすると16歳以上である。

次いで骨化の進行状態では、鈴木(1943)はX線学方法により現代人の骨化の完成期を調査し、大腿骨骨頭は15歳(女性)、寛骨臼は14歳(女性)、腸骨稜

は20歳(女性)で完成するとしている。筆者(未発表)の現代人骨に関するの肉眼的観察所見によれば、現在までのところ寛骨臼は14～15歳(女性)で完成、大腿骨骨頭は16～17歳(女性)で完成、腸骨稜は18歳(女性)以降から骨癒合を開始する結果を得ている。鈴木の成績からは15歳から19歳の間となるが、肉眼的観察所見の成績を加えると、腸骨稜が全く骨癒合を開始していないので、17歳以下と推測される。

以上のように、歯根の完成と骨化の進行状態を考えあわせると、この人骨の年令は16～17歳の成年と推定される。

ＳＴ－１６－１号人骨（ 性別不明、6～7歳、小児Ｉ期 ）

1. 形質

1) 頭蓋

前頭骨、左頭頂骨の前半部および鼻根部が残存している。脳頭蓋の骨壁は薄く、前頭結節は発達しており、小児的特徴が伺われる。さらに眉間はやや突出して、眉上弓に続いている。眉上弓はこの年令にしては発達おり、同じ墳墓に埋葬されていた成人骨の眉上弓も発達が顕著で、むしろ縄文人以上である。また、眼窩上縁の外側部は、前方に突出している。

鼻根部は、上顎骨前頭突起はこの年令にしては前後方向によく立っているが、鼻骨の隆起はほとんどない。したがって、鼻根部はやや扁平なものとなっている。

計測値は、最小前頭幅が85mm、最大前頭幅が105mm、上顔幅が85mmで、やはりST-12号人骨(16~17歳)に比べると、径は小さい。しかしながら、前眼窩間幅は19mmで、ＳＴ－１２号人骨と同じ値を示して、鼻根部は広い。
また、眼窩幅は33mm(左)で眼窩は小さく、観察による眼窩の形態は、この年令にしては低いと推測される。

歯はすべて遊離歯で、残存したものを歯式で示すと次ぎのとおりである。

／／(P_2)／(C)／／	／／(C)(P_1)(P_2)／／
／／ ／ ／／ ／／	／／ ／ ／ ／ ／／

（ ） 歯槽内埋伏
／ 不明

これらの永久歯には咬耗は認められず、歯冠も形成途中である。

2. 骨化

大泉門はすでに閉鎖しているが、その他に骨化の進行状態を観察できる部位は残っていない。

3. 特殊所見

前頭骨内には、非計測的形質のひとつとして扱われる前頭縫合が存在している。また、左右の眼窩上壁には、cribra orbitaliaが認められる。

4. 年令

この人骨の年令を歯冠の形成程度で推測してみると、上顎の犬歯と第一小臼歯は、金田(1957)による現代人の6歳程度、第二小臼歯は7歳に相当している。このことから、この人骨の年令は6から7歳の小児(Ⅰ期)と推定される。

考察

顔面部の主要な計測値が得られたST-12号人骨(女性、16~17歳)をもとに、広畑地下式横穴墓出土の成年骨の形質と、ほぼ同年令の現代人(明治～大正)女性骨、鹿児島県笠利町(奄美大島)長浜金久遺跡出土の弥生時代小児骨、佐賀県呼子町大友遺跡出土の弥生時代小児骨および宮崎県の上の原・旭台両地下式横穴墓出土した古墳時代成年骨との間にどのような差が認められるのか検討を行ってみる。比較の計測値は表３に示しているとおりであるが、現代人骨以外は性別は不明である。

顔面の幅型では、広畑ST-12号の上顔幅は旭台3-3号に近く、現代人の女性平均値および長浜金久・大友両弥生小児骨よりもかなり大きい。また中顔幅は現代人、長浜金久・大友両弥生小児骨、上の原8号、旭台3-3号よりもかなり大きく、旭台11-2号に近い。つまり、顔面の幅は旭台成年骨に比較的近くて、現代人ややや年令の低い長浜金久・大友両弥生小児骨、上の原成年骨よりもかなり大きい。

顔面の高径では、顔高が長浜金久弥生小児骨より大きく、大友弥生小児骨および旭台11-2号と同じ値を示し、現代人よりもかなり小さい。上顔高は、長浜金久弥生小児骨よりかなり大きく、大友弥生小児骨、上の原・旭台成年骨よりもやや大きくて、現代人よりも小さい値を示している。顔面の高さは大友弥生小児骨、上の原・旭台成年骨よりもやや高いか同じで、長浜金久弥生小児骨ほどではないが、現代人に比べるとかなり低い。

したがって、ウイルヒョーの顔示数および上顔示数は、現代人がそれぞれ119.05、69.04であるのに対して、広畑成年骨のそれは101.00、61.00で、長浜金久・大友両弥生小児骨や地下式横穴墓出土の成年骨と同様に低顔傾向が強く認められる。

鼻根部の幅を表わす前眼窩間幅は、現代人に比べると大きくて、現代人よりも広い。また眼窩は、眼窩高は現代人と大差ないが、眼窩幅が大きくて、

したがって眼窩示数は現代人よりも小さくなり、低眼窩の傾向が伺われる。

鼻部の計測値も鼻幅が現代人よりも大きく、鼻高は小さい。したがって、鼻示数は他の比較資料群と同様に現代人よりもかなり大きい値を示し、広鼻の傾向が強い。

現代人女性成年骨を基線とした偏差折線を描いてみると(図3)、広畑成年骨は、長浜金久小児骨と同様に左右への振れが大きく、現代人との間には差が認められる。

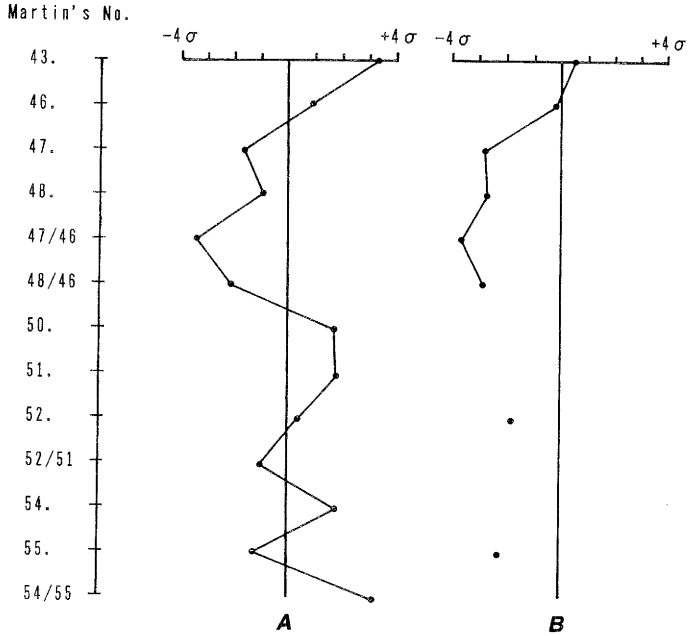


図3. 現代人(女性、17歳)を基線とする偏差折線

A：広畑ST-12号　　B：長浜金久

(Fig.3. Standardized deviations from the modern female series of 17 years old. A：Hirohata ST-12, B：Nagahamakaneku)

以上のように、広畑成年骨の顔面には著しい低・広顔傾向が認められる。この傾向は現代人との間にはひとつの時代差を表わしているものと言え、このような特徴がどの年令から固定されるのかについては、さらに低年令の資料で追究する必要がある。また、顔面の形態において共通性が認められた南九州離島群の長浜金久小児骨、西北九州地域の大友小児骨および宮崎県山間部の地下式横穴墓の成年骨等の比較群は、成人骨おいてもこのような特徴が見られる人骨群である。幼小児期においても地域差が認められるのか否かについては、例えば成人骨が狭・高顔を特徴とする北部九州地域の幼小児骨を追加して考察したい。

表３　顔面頭蓋計測値（mm）（Fig.3. Comparison of metrical characters of the facial crania）

		広畑 ST-12号 古墳 (16~17歳) (女性)	長浜金久 弥生 (15歳)	大友 Yd-22 弥生 (15歳)	上の原 8号 古墳 (16歳)	旭台 3-3号 古墳 (16~17歳)	旭台 11-2号 古墳 (16~17歳)	現代人 (女性) (17歳) n	現代人 (女性) (17歳) M
43.	上顔幅	(108)	99	98	-	106	-	13	97.54
46.	中顔幅	100	93	92	95	94	98	13	94.15
47.	顔高	101	93	101	-	-	101	8	112.25
48.	上顔高	61	54	59	58	57	59	13	64.62
47/46	顔示数（V）	101.00	100.00	109.78	-	-	103.06	8	119.05 ※
48/46	上顔示数（V）	61.00	58.06	64.13	61.05	60.64	60.20	16	69.04 ※
50.	前眼窩間幅	19	-	20	-	-	-	13	16.31
51.	眼窩幅(左)	44	-	40	42	-	42	13	41.15
52.	眼窩高(左)	34	31	32	33	32	32	13	33.38
52/51	眼窩示数(左)	77.27	-	80.00	78.57	-	76.19	16	81.28 ※
54.	鼻　幅	26	-	25	25	25	25	13	24.23
55.	鼻　高	45	42	43	45	43	43	13	48.23
54/55	鼻示数	57.78	-	58.14	55.56	58.14	58.14	13	50.33

※ 16歳と17歳の資料を合わせて集計している

要約

宮崎県えびの市大字坂元に所在する広畑遺跡は、1989年(平成元年)に発掘調査が行われ、地下式横穴墓群から合計26体の人骨が検出された。これらの人骨のうち2体が未成人骨で、この2体に関する人類学的観察および計測の結果を要約すると、次ぎのとおりである。

1. 未成人骨の年令は、歯の形成程度と骨化の進行状態から、ST-12号は16~17歳の女性成年、ST-16-1号は6~7歳の小児（Ⅰ期）と推定される。
2. ST-12号の顔面の計測値は、中顔幅は100mm、顔高は101mm、上顔高は61mmで、ウイルヒョウの顔示数は101.00、上顔示数は61.00となり、顔面型はそれぞれhyperchamaeprosop(過低顔)、hyperchamaeprosop(過低上顔)に属し、低・広顔傾向が著しい。
3. ST-12号の眼窩は、眼窩幅が44mm(左)、眼窩高は34mm(左)で、眼窩示数は77.27(左)となり、眼窩型はきわめて低眼窩に近いmesoknoch(中眼窩)に属している。
4. ST-12号の鼻部は、鼻幅が26mm、鼻高は45mmで、鼻示数は57.78となり、鼻型はきわめて過広鼻に近いchamaerrhin(広鼻)に属している。また、鼻根部の幅を示す前眼窩間幅は19mmで、鼻根部は比較的広い。
5. ST-12号の上顎歯槽長は53mm、上顎歯槽幅は66mm、口蓋幅は43mmで、諸径は大きくて、歯槽は頑丈である。

6. ST-12号の骨化の状態は、寛骨臼と大腿骨骨頭が癒合を完成、腸骨稜は未癒合である。

7. ST-16-1号に見られた特殊所見として、前頭縫合および左右の眼窩上壁にcribra orbitaliaが認められる。

以上のように、広畑地下式横穴墓出土の女性成年骨(ST-12号)の顔面は、強い低・広顔傾向を示し、この傾向は南九州離島の長浜金久遺跡出土の弥生小児骨、西北九州地域の大友遺跡出土の弥生小児骨、上の原、旭台両地下式横穴墓出土の古墳時代成年骨に近似したもので、現代人女性成年骨との間には差が認められる。

謝辞

擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えて頂いた宮崎県えびの市教育委員会の諸先生方に感謝いたします。

表4　脳頭蓋計測値　(mm)

(Fig.4. Measurements of the calvarial crania)

		ST-12号 (16~17歳) 女性	ST-16-1号 (6~7歳)
1.	頭蓋最大長	-	-
8.	頭蓋最大幅	-	-
17.	バジオン・ブレグマ高	-	-
9.	最小前頭幅	(92)	85
10.	最大前頭幅	-	105
5.	頭蓋底長	-	-
11.	両耳幅	-	-
12.	最大後頭幅	-	-
13.	乳突幅	-	-
7.	大後頭孔長	-	-
16.	大後頭孔幅	-	-
23.	頭蓋水平周	-	-
24.	横弧長	-	-
25.	正中矢状弧長	-	-
26.	正中矢状前頭弧長	123	112
27.	正中矢状頭頂弧長	-	-
28.	正中矢状後頭弧長	-	-
29.	正中矢状前頭弦長	108	98
30.	正中矢状頭頂弦長	-	-
31.	正中矢状後頭弦長	-	-

表５　顔面頭蓋計測値　(mm)

(Fig.5. Measurements and indices of the facial crania)

		ST-12号 (16~17歳) 女性	ST-16-1号 (6~7歳)
40.	顔　長	-	-
41.	側顔長	-	-
42.	下顔長	-	-
43.	上顔幅	(108)	85
45.	頬骨弓幅	-	-
46.	中顔幅	100	-
47.	顔高	101	-
48.	上顔高	61	-
47/46	顔示数（V）	101.00	-
48/46	上顔示数（V）	61.00	-
50.	前眼窩間幅	19	19
44.	両眼窩幅	-	-
50/44	眼窩間示数	-	-
51.	眼窩幅(右)	-	-
	(左)	44	33
52.	眼窩高(右)	-	-
	(左)	34	-
52/51	眼窩示数(右)	-	-
	(左)	77.27	-
54.	鼻　幅	26	-
55.	鼻　高	45	-
54/55	鼻示数	57.78	-
55(1).	梨状口高	26	-
56.	鼻骨長	22	-
57.	鼻骨最小幅	10	6
57(1).	鼻骨最大幅	19	-
60.	上顎歯槽長	53	-
61.	上顎歯槽幅	66	-
62.	口蓋長	-	-
63.	口蓋幅	43	-
64.	口蓋高	11	-

参考文献

1.金田義夫、1957：日本人の永久歯における歯根完成時期の研究。歯科月報、30：165-172.

2.藤田恒太郎、1965：歯の話。岩波書店。東京：57-98.

3.Martin-Saller, 1957：Lerhrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fisher Verlarg, Stuttgart：429-504.

4.松下孝幸、1990：南九州地域における古墳時代人骨の人類学的研究。長崎医学会雑誌、65：781-804.

5.鈴木重一、1943：四肢化骨核発育に関するレ線学的研究(後編)。千葉医学会雑誌、21：397-415.

6.分部哲秋、1981：日守地下式古墳出土の幼児骨。宮崎県文化財調査報告書、23：179-181.

7.分部哲秋、1981：上の原地下式古墳群出土の成年骨。宮崎県文化財調査報告書、24：135-140.

8.分部哲秋、1981：佐賀県大友遺跡出土の幼小児骨。大友遺跡(佐賀県呼子町文化財調査報告書１）：254-264.

9.分部哲秋、1983：宮崎県高原町旭台地下式横穴出土の古墳時代小児・成年骨。宮崎県文化財調査報告書、26：112-128.

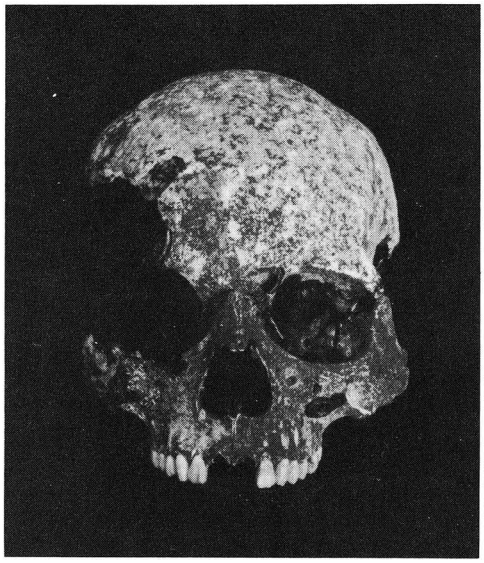
10.分部哲秋、1984：宮崎県野尻町大萩地下式横穴出土の古墳時代小児・成年　骨。宮崎県文化財調査報告書、27：113-131.

11.分部哲秋、1985：鹿児島県笠利町長浜金久第Ⅱ遺跡出土の弥生時代小児骨。鹿児島県埋蔵文化財調査報告、32：1-10.

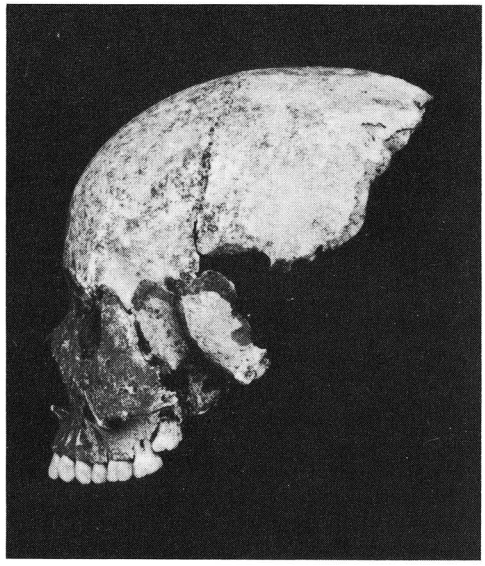
12.分部哲秋、1986：宮崎県国富町市の瀬地下式横穴墓群出土の古墳時代小児骨。国富町文化財調査資料、4：187-202.

13.分部哲秋、1988：宮崎県高崎町出土の古墳時代幼小児骨。高崎町文化財調査報告、1：159-174.

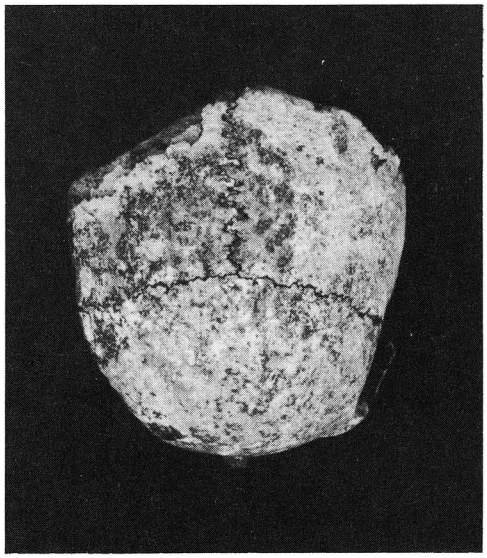
14.分部哲秋、1990：日本人幼小児頭蓋の形態学的研究。長崎医学会雑誌、65(4)：805-824.



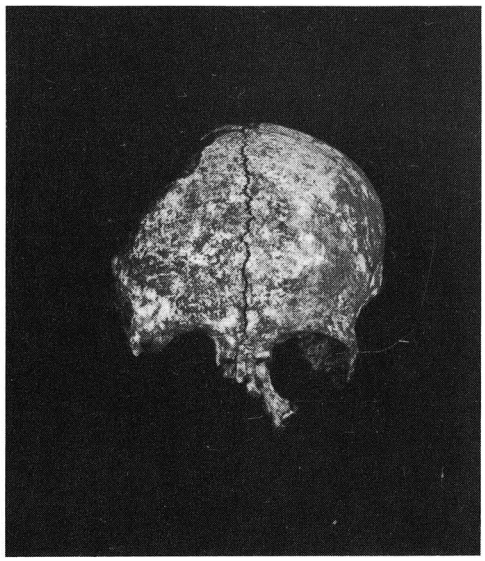
頭蓋正面(Frontal view of the skull)
広畑ST-12(16~17歳、成年)
(Hirohata ST-12, 16~17 Years)



頭蓋側面(Lateral view of the skull)
広畑ST-12(16~17歳、成年)
(Hirohata ST-12, 16~17 Years)



頭蓋上面(Superior view of the skull)
広畑ST-12(16~17歳、成年)
(Hirohata ST-12, 16~17 Years)



頭蓋正面(Frontal view of the skull)
広畑ST-16-1(6~7歳、小児Ⅰ期)
(Hirohata ST-16-1, 6~7 Years)

Human Skeletal Remains Excavated from Hirohata Site, Ebino City, Miyazaki Prefecture.

Tetsuaki WAKEBE

[Department of Anatomy, Nagasaki University School of Medicine]

Keywords: Miyazaki Pref., Kofun skeleton, Tomb with underground chambers, Minorities, Ossification, Low face

Twenty-six human skeletal remains dating the late phase of the Kofun Period (5th century A. D.), consisting of 24 adults and 2 minorities, were excavated from the tombs with underground chambers at Hirohata site, Ebino city, Miyazaki Prefecture, in 1989.

An anthropological study of the human skeletal remains was conducted.

Skeleton ST-12 is adolescence estimated to be 16~17 years of age and Skeleton ST-16-1 is juvenile estimated to be 6~7 years of age.

Skeleton ST-12 has a low and wide face. The cribra orbitalia and the metopic suture are found in ST-16-1

えびの市埋蔵文化財調査報告書　第７集　**広畑遺跡**

平成３年３月31日

編集・発行　えびの市教育委員会
えびの市大字大明司2146-2

印　　刷　金子印刷　小林市仲町2-2　TEL23-2253